

学校 & みんなの **ESD** プロジェクト

ひろがり つながる

ESD 実践事例

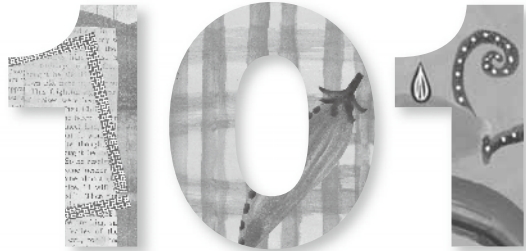


平成23年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」

ユネスコスクール地域交流会 ⑩ 金沢・気仙沼
活動報告書

学校 & みんなの ESD プロジェクト

ひろがりつながる ESD 実践事例



平成23年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」
ユネスコスクール地域交流会 ⑩ 金沢・気仙沼
活動報告書

はじめに

この小冊子を手にとりいただきましたことを心より感謝申し上げます。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、文部科学省の委託を受け、「平成23年度日本／ユネスコパートナーシップ事業」ユネスコスクール地域交流会を、2011年8月に石川県金沢市で、2012年1月に宮城県気仙沼市で実施しました。

全国369校（2012年2月時点）に及ぶユネスコスクールは、ESDの推進拠点として位置づけられ、さまざまな実践を推進しています。このユネスコスクール地域交流会はユネスコスクール間および地域拠点間のネットワーク強化のための交流支援を目的とし、両地域で実施しました。

金沢市には36校のユネスコスクール加盟校があり、豊かな地域遺産を教材とする多様なESDの実践がそれぞれの学校により進められています。この交流会では、従来から行われてきた北陸地方のユネスコスクール間の繋がりを一層強化するとともに実践発表の場と交流機会を提供することにより、積極的にESDを推進している全国の教職員とユネスコスクール活動の更なる向上を図りました。

気仙沼市は、学校、行政、地域が連携し、ESDを発展させてきたことで国内外から注目され、市内35校の学校がユネスコスクールに加盟しています。2011年3月11日の東日本大震災において甚大な被害を受けましたが、復興の様子を鑑み適宜調整を行いながら気仙沼市教育委員会との共同主催事業として、プログラム内容を策定しました。当日の交流会

の様子はユネスコスクール公式ウェブサイト上でライブ配信を行い、気仙沼市におけるこれまでのESDの成果を、大きなインパクトを持って国内外に発信することができました。

本冊子は、石川県金沢市での地域交流会と宮城県気仙沼市での地域交流会で発表いただいた皆様の「参加報告書」をもとに編集してまとめ、一冊のESD実践事例集として作成したものです。

この小冊子は、ユネスコスクール公式ウェブサイトからPDFでダウンロードすることができます。また、101件の参加報告書そのものはウェブサイトに掲載してあります。英語版ウェブサイトではこれらの実践事例を日本のESD活動の好事例として紹介しています。

掲載されている事例を今後の活動の参考にさせていただくのはもちろんのこと、各地域内および地域間のネットワーク強化のためのひとつとして活用していただければ幸いです。

2012年3月
公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)



目次

はじめに	2
ユネスコスクール地域交流会 in 金沢 参加校・参加団体一覧	6
ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼 参加校・参加団体一覧	8
ESD実践事例101 カテゴリー別一覧	10

第1部

ユネスコスクール地域交流会 in 金沢

ユネスコスクール地域交流会 in 金沢 フォトダイジェスト	14
ESD実践事例 >> 金沢 KANAZAWA 45	16

第2部

ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼

ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼 フォトダイジェスト	108
--------------------------------------	-----

● 基調講演

わたしの夢 その変化の中に私がいまして皆さんがいます パク・スンヒョン(韓国)	110
カリスバーグと気仙沼のつながり:私たちのESD活動 ジェームス J. バーリンジャー(米国)	114

● パネルディスカッション

ESDの視点からの気仙沼市における津波防災教育
白幡勝美 118

気仙沼市の持続発展教育(ESD)と東日本大震災からの教育復興
及川幸彦 122

持続可能な開発のための教育における
気仙沼とカリスバーグのパートナーシップ
ティム・ジョーンズ 126

ESD実践事例 >> 気仙沼 KESENNUMA 56 130

[資料編]

ユネスコスクールとは 244

- ユネスコスクール地域交流会 in 金沢 プログラム 246
- ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼 プログラム 247
- 「持続発展教育(ESD)とユネスコスクールの活用について」文部科学省 248
- ユネスコスクール地域交流会 参加報告書フォーマット 257
- ユネスコスクール加盟校一覧(2012年2月現在) 259



自然・環境

宮城県仙台市立中野小学校	子どもの心を動かす環境教育とESD ～仙台市立中野小学校の取り組み～	16
宮城県気仙沼市立馬籠小学校	人・自然・地域に学ぶ馬籠っ子 ～地域の高齢者との交流を軸とし、馬籠の人、自然、地域の良さを発見しながら展開するESD～	18
神奈川県横浜市立永田台小学校	命がたなくESD	20
富山県富山市立寒江小学校	生き生きと学び合い学習を楽しむ寒江っ子の育成 ～つながる力をはぐくむ持続発展教育～	22
石川県金沢市立金石町小学校	海の町・金石	24
石川県金沢市立材木町小学校	つなぐ！あすの材木へ ～かんじて ひびいて うごきます～	26
石川県金沢市立中央小学校	つながる！つなげる！ ～金沢の里山・わたしたちの街～	28
石川県金沢市立千坂小学校	魅力発見！私のまち「千坂」	30
石川県金沢市立粟崎小学校	「粟崎に生きる」をテーマとした本校の取り組み	32
石川県内灘町立鶴ヶ丘小学校	鶴っ子・エコ活動	34
石川県内灘町立大根布小学校	『内灘町エコスクール推進計画 —エコスクール推進・認定の手引き—』の作成	36
福井県坂井市立鳴鹿小学校	ユネスコスクール加盟1年目でできること	38
敦賀気比高等学校附属中学校	総合学習「ふるさと敦賀塾」中池見の自然を楽しもう	40
石川県環境部地球温暖化対策室	いしかわ学校版環境ISOについて	42
いしかわ自然体験支援隊	NPOが積極的に支援を行う事例	44
金沢エコネット	環境教育市民団体の活動報告 ～ESDに市民団体との連携を～	46

食

富山県富山市立中央小学校	稲作体験を通して、食の向こうに見える世界を考える	48
石川県金沢市立鞍月小学校	鞍月小学校の取り組みについて	50
愛知県東浦町立緒川小学校	ESDの視点で見直した、5年 「お米を育てて植物の命を学ぼう」	52

国際理解

石川県金沢市立四十万小学校	国際交流 世界の人と手をつなごう	54
石川県金沢市立西小学校	食でつながる地球プロジェクト 「つなげよう！わたしたちの世界」	56
大阪府立北淀高等学校	学びあうこと・つながること	58
石川工業高等専門学校	国際的視野を持つ環境配慮型人材育成の 総合的取り組み	60
石川県立金沢西高等学校	NIC（西高国際交流委員会）と ENA（エコ西高アクション）	62
JICA 北陸	①2011年度教師海外研修事業 ②国際協力出前講座（於：石川県金沢市立紫錦台中学校）	64

交流活動		
富山県富山市立五福小学校	本校のESD活動の取り組み状況 ～各学年の核となる教育活動やその方法、抱える課題などについて～	66
富山県氷見市立朝日丘小学校	自分たちにできること ～東日本大震災を通して～	68
石川県金沢市立浅野川小学校	大好きな校区・じまんの金沢を広めよう ～地域へ、世界への発信を通して～	70
石川県金沢市立花園小学校	つながり合おう！ふるさと花園から ～出会い・ふれ合い・学び合い そして、発信！～	72
石川県金沢市立三馬小学校	共に生きる 未来に生きる ～三馬から 地域へ、世界へ	74
石川県金沢市立三谷小学校	ぐるっと三谷 世界へ そしてまたふるさと三谷へ ～なかよく やさしく ゆたかに つながりあって みんなで 生きていこう!!～	76
大阪府立松原高等学校	東日本大震災の支援を目的とした 持続発展教育の実現を目指す松高	78
大阪府立大学・ 大阪 ASPnet ネットワーク	「アジア／太平洋 小・中・高・大学生国際ワークショップ、2011」	80
鈴鹿市教育委員会事務局指導課	市内すべての学校でコミュニティースクールを導入	82
伝統文化		
石川県金沢市立野町小学校	ESDカリキュラムと各学年の取組	84
石川県金沢市立森山町小学校	地域の文化や人との絆をつなぐ ～金沢の伝統産業 及びそこに携わる人々との交流を通して～	86
石川県金沢市立味噌蔵町小学校	ぼくたちわたしたちの加賀友禅	88
石川県金沢市立長坂台小学校	ふれあおう・伝えあおう・ひびきあおう	90
石川県金沢市立大野町小学校	大野町大好き ～発信しよう！わが町の自慢を～	92
石川県金沢市立紫錦台中学校	金沢の伝統に学び、世界に向け、 未来への一歩を踏み出そう	94
石川県金沢市立泉中学校	総合的な学習の時間を活用したESD活動	96
ESD推進		
金沢大学	北陸におけるESDの推進	98
石川県金沢市立小学校長会	金沢市立小学校長会としてのESD・ユネスコスクールの 取り組み	100
ESD石川t	『ESD石川t』を設立して	102
大学コンソーシアム石川	学校におけるESD取り組みの課題について	104

自然・環境

宮城県気仙沼市立水梨小学校	ふるさとを「知って、学んで、伝えよう」	130
宮城県気仙沼市立大島小学校	大島に笑顔と夢を ～小さな力が大きな力に～	132
宮城県気仙沼市立面瀬小学校	探ろう、伝えよう豊かな気仙沼の海 ～森・川・海の環境と人々のつながりを追って～	134
宮城県気仙沼市立鹿折小学校	ふるさとを愛する心を育てる無農薬米作り体験	136
宮城県気仙沼市立中井小学校	見つめよう！私たちをとりまく世界	138
宮城県気仙沼市立落合小学校	自然豊かな落合小学校の栽培活動と環境保全活動	140
宮城県気仙沼市立唐桑小学校	唐桑の海の豊かさを実感できる牡蠣養殖を中心とした 環境教育	142
宮城県気仙沼市立南気仙沼小学校	守ろう、鮭のふるさと大川を	144
宮城県気仙沼市立小原木小学校	ふるさと小原木 ～過去を知り、現在を見つめ、未来を考える～	146
宮城県気仙沼市立馬籠小学校	人・自然・地域に学ぶ馬籠っ子「地域の高齢者との交流を軸とし、 馬籠の人、自然、地域の良さを発見しながら展開するESD」	148
宮城県気仙沼市立津谷小学校	地域教育 ～津谷を見つめ、地域で学び、ふるさとの 未来を拓く子どもの育成～	150
石川県金沢市立戸板小学校	持続発展するESDをめざして ～戸板小ESD 3年間の歩み～	152
石川県金沢市立中央小学校	出会い・発見・探求・行動 ～歴史の息づくまち、美しい環境を未来へ～	154
福岡県大牟田市立吉野小学校	大切にしよう、吉野小学校の自然環境	156
宮城県気仙沼市立鹿折中学校	ESD活動の一環としての総合的な学習の時間の取り組み	158
宮城県気仙沼市立唐桑中学校	2050年 私たちのエネルギーについて考えよう	160
宮城県気仙沼市立大島中学校	ホタテ貝の養殖体験活動を通じた海洋環境学習	162
宮城県気仙沼市立大谷中学校	「ふゆみずたんぼ」の再生	164
奈良県奈良市立柳生中学校	地域へ元気を radiate ! ～地域を活性化すると同時に地域を守る主体を育てる～	166
宮城県気仙沼高等学校	気仙沼地域の復興を考える活動	168
宮城県気仙沼市西高等学校	東日本大震災以前・以降の取り組みについて	170
埼玉県さいたま市新開小学校	環境に関わり、環境を考え、 環境に働きかける新開っ子の育成	172
東京都多摩市立多摩第一小学校	ゴーヤプロジェクト 笑顔を送ろう、地球のために、日本のために	174
愛知県岡崎市立新香山中学校	環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成 ～環境学習を基盤としたESDの展開～	176
食		
宮城県気仙沼市立階上小学校	食を通して地域をみつめ 持続可能な郷土の未来を描く児童の育成	178
宮城県気仙沼市立小原木中学校	食を通して地域を学び、生きる力を高めよう	180
国際理解		
宮城県気仙沼市立条南中学校	国際社会の一員として、ふさわしい人になろう	182
交流活動		
宮城県気仙沼市立馬籠幼稚園	ひと・しぜん・みらいを伝承する馬籠っ子	184

宮城県気仙沼市立松岩小学校	共に生きる 共に生きていく社会・共に生きていく未来	186
宮城県気仙沼市立九条小学校	第3学年わくわくタイム「九条のよさを教え合おう」	188
奈良教育大学附属中学校	奈良ASPネットワーク「子ども会議」における「学び」の可能性	190
大阪府立大学・大阪ASPnet ネットワーク	「アジア／太平洋小・中・高・大学生国際ワークショップ、2011」	192
聖ウルスラ学院英智小・中学校	①農業山村生活体験及び交流学习 ②アメリカンサマーキャンプ in 青森	194
東京都世田谷区立中里小学校	かかわり、つながりに視点をのいた授業実践を通して	196
伝統文化		
宮城県気仙沼市立新城小学校	守るぞ！ 伝統を	198
宮城県気仙沼市立白山小学校	地域に伝わる「白山太鼓」の未来への継承の工夫	200
宮城県気仙沼市立月立小学校	地域の伝統文化を継承する「早稲谷鹿踊り」「塚沢神楽」	202
宮城県気仙沼市立新月中学校	生き方を学ぶ ～過去 現在 そして未来へ～	204
宮城県気仙沼市立津谷中学校	2・3年向が丘楽習 ～地域の人々とかがわろう 伝統芸能伝承活動「御岳太鼓」～	206
奈良市教育委員会事務局学校教育課	世界遺産学習 ～地域を誇りに思い、未来を担う子どもを育てる学習～	208
大牟田市教育委員会	子どもが主体的に郷土について学ぶ「子ども大牟田検定」	210
福祉		
宮城県気仙沼市立面瀬中学校	災害復興に向けたスポーツと文化における一試み	212
宮城県気仙沼市立気仙沼中学校	ボランティア活動 ～東日本大震災後、「今」私たちにできること～	214
宮城県気仙沼市立松岩中学校	福祉の里づくり ～福祉をとらして未来を考える～	216
防災教育		
宮城県柴田郡大河原町立大河原中学校	大河原中学校 震災復興支援プロジェクト	218
宮城県気仙沼市立浦島小学校	東日本大震災後における地震津波避難訓練	220
宮城県気仙沼市立気仙沼小学校	防災マップを作ろう	222
宮城県気仙沼市立大谷小学校	防災リーフレットをつくろう	224
宮城県気仙沼市立階上中学校	私たちは未来の防災戦士 ～持続可能な社会のために～	226
宮城県気仙沼市立小泉中学校	地域づくり学習 ～問いと行動による中学生の社会参加～	228
ESD 推進		
東京都多摩市立連光寺小学校	校内研究で進めるESDの取り組み	230
多摩市教育委員会	多摩市のESD ～2050年の大人づくり～	232
金沢市教育委員会	人と人のつながりから、社会・自然・世界とのかかわりを深める	234
愛知県教育委員会総務課教育企画室	ESDの10年最終年会合の開催とユネスコスクール加盟増加の取り組み	236
岡山市教育委員会事務局指導課	ユネスコスクール推進事業を通しての岡山市の各校への支援	238
大牟田市教育委員会	全ての市立学校で取り組む大牟田市のESD ～教育長の想い～	240

自然・環境

●金沢 KANAZAWA 45

宮城県仙台市立中野小学校
 宮城県気仙沼市立馬籠小学校
 神奈川県横浜市立永田台小学校
 富山県富山市立寒江小学校
 石川県金沢市立金石町小学校
 石川県金沢市立材木町小学校
 石川県金沢市立中央小学校
 石川県金沢市立千坂小学校
 石川県金沢市立粟崎小学校
 石川県内灘町立鶴ヶ丘小学校
 石川県内灘町立大根布小学校
 福井県坂井市立鳴鹿小学校
 敦賀気比高等学校附属中学校
 石川県環境部地球温暖化対策室
 いしかわ自然体験支援隊
 金沢エコネット

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県気仙沼市立水梨小学校
 宮城県気仙沼市立大島小学校
 宮城県気仙沼市立面瀬小学校
 宮城県気仙沼市立鹿折小学校
 宮城県気仙沼市立中井小学校
 宮城県気仙沼市立落合小学校
 宮城県気仙沼市立唐桑小学校
 宮城県気仙沼市立南気仙沼小学校
 宮城県気仙沼市立小原木小学校
 宮城県気仙沼市立馬籠小学校
 宮城県気仙沼市立津谷小学校
 石川県金沢市立戸板小学校
 石川県金沢市立中央小学校
 福岡県大牟田市立吉野小学校
 宮城県気仙沼市立鹿折中学校
 宮城県気仙沼市立唐桑中学校
 宮城県気仙沼市立大島中学校
 宮城県気仙沼市立大谷中学校
 奈良県奈良市立柳生中学校
 宮城県気仙沼高等学校
 宮城県気仙沼市西高等学校
 埼玉県さいたま市立新開小学校
 東京都多摩市立多摩第一小学校
 愛知県岡崎市立新香山中学校

食

●金沢 KANAZAWA 45

富山県富山市立中央小学校
 石川県金沢市立鞍月小学校
 愛知県東浦町立緒川小学校

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県気仙沼市立階上小学校
 宮城県気仙沼市立小原木中学校

国際理解

●金沢 KANAZAWA 45

石川県金沢市立四十万小学校
 石川県金沢市立西小学校
 大阪府立北淀高等学校
 石川工業高等専門学校
 石川県立金沢西高等学校
 JICA 北陸

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県気仙沼市立条南中学校

交流活動

●金沢 KANAZAWA 45

富山県富山市立五福小学校
富山県氷見市立朝日丘小学校
石川県金沢市立浅野川小学校
石川県金沢市立花園小学校
石川県金沢市立三馬小学校
石川県金沢市立三谷小学校
大阪府立松原高等学校
大阪府立大学・大阪 ASPnetネットワーク
鈴鹿市教育委員会事務局指導課

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県気仙沼市立馬籠幼稚園
宮城県気仙沼市立松岩小学校
宮城県気仙沼市立九条小学校
奈良教育大学附属中学校
大阪府立大学・大阪 ASPnetネットワーク
聖ウルスラ学院英智小・中学校
東京都世田谷区立中里小学校

伝統文化

●金沢 KANAZAWA 45

石川県金沢市立野町小学校
石川県金沢市立森山町小学校
石川県金沢市立味噌蔵町小学校
石川県金沢市立長坂台小学校
石川県金沢市立大野町小学校
石川県金沢市立紫錦台中学校
石川県金沢市立泉中学校

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県気仙沼市立新城小学校
宮城県気仙沼市立白山小学校
宮城県気仙沼市立月立小学校
宮城県気仙沼市立新月中学校
宮城県気仙沼市立津谷中学校
奈良市教育委員会事務局学校教育課
大牟田市教育委員会

福祉

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県気仙沼市立面瀬中学校
宮城県気仙沼市立気仙沼中学校
宮城県気仙沼市立松岩中学校

防災教育

●気仙沼 KESENNUMA 56

宮城県柴田郡大河原町立大河原中学校
宮城県気仙沼市立浦島小学校
宮城県気仙沼市立気仙沼小学校
宮城県気仙沼市立大谷小学校
宮城県気仙沼市立階上中学校
宮城県気仙沼市立小泉中学校

ESD推進

●金沢 KANAZAWA 45

金沢大学
石川県金沢市立小学校長会
ESD石川t
大学コンソーシアム石川

●気仙沼 KESENNUMA 56

東京都多摩市立連光寺小学校
多摩市教育委員会
金沢市教育委員会
愛知県教育委員会総務課教育企画室
岡山市教育委員会事務局指導課
大牟田市教育委員会

第1部

● KANAZAWA 45

自然・環境

食

国際理解

交流活動

伝統文化

福祉

防災教育

ESD推進

ユネスコスクール
地域交流会 in
金沢

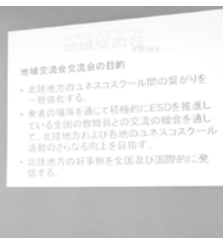


ユネスコスクール地域交流会

2011年8月26日 / 金沢ニューグランドホテル (石川県金沢市)



石川県金沢市の金沢ニューグランドホテルにて開催。当日は大雨にも関わらず、北陸、ならびに他地域のユネスコスクールの教職員、ESD関係者、企業のCSR担当者など計75名が参加した。



開会の挨拶

ACCU事業部次長より、地域交流会の開催の目的を参加者で共有。



全体会

金沢市立西小学校と気仙沼市立馬籠小学校より学校の取り組みを発表。活発な質疑応答となった。

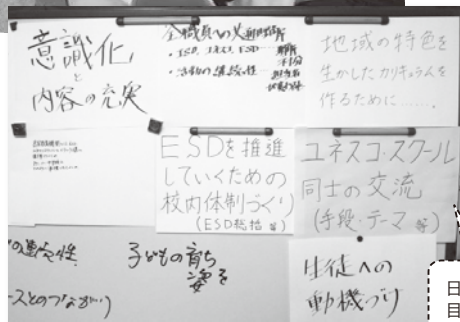
基調講演

「持続発展教育(ESD)とユネスコスクールの活用について」と題し、文部科学省国際統括付国際統括官補佐 井村隆氏より基調講演を頂いた。



分科会

3つのグループに分かれ、一人3分ずつESD実践事例について口頭で発表。それぞれ活発な意見交換が行われ、「地域との連携」「学校間交流」「ユネスコスクールのネットワーク」などのキーワードが挙げられた。



日ごろの活動の悩みや目標を参加者で共有

みやぎ けん せん だい し りつ なか の しょう がっ こう

宮城県仙台市立中野小学校



発表者名

まつした たけし
松下 武士

役職

研究主任

担当教科・学年

6年生

交流会感想

金沢市内を始め、北陸地方のユネスコスクールの実践情報を聞くことができ、地域に応じた活動を行っていることを知ることができました。組織で動こうとする金沢市の意欲はとても参考になりました。

学校情報

学校長	たかはし みつる 高橋 充	全校生徒数	101人	教員数	14人
所在地	〒983-0011 <small>みやぎ けん せん だい し りつ なか の く さ か え</small> 宮城県仙台市宮城野区栄3-12-1 中野栄小学校内				
TEL	022-258-2365	FAX	022-258-6813		
E-MAIL	nakano@sendai-c.ed.jp				
HP	準備中				

◆教育目標 学校教育目標を「なかよく、かしく、のびやかな子どもの育成～子どもたちの笑顔を目標に～」とし「なかよくする子ども かしい子ども のびゆく子ども」を目指す子供像、「感動いっぱい中野小学校」を目指す学校像、「磨き合い子どもとともに伸びる教師」を目指す教師像とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 蒲生干潟での環境体験活動を地域老人クラブと一緒に取り組み、2010年に仙台市公衆衛生功労者等表彰・地球環境保全感謝状・第39回日本教育弘済会現下教育に関する論文特選賞受賞など、一定の成果を挙げ児童の関心も高まっていた。しかし、東日本大震災で校区全域が甚大な被害を受け、現在は、仙台市立中野栄小学校の一部を借用して授業を行う。地域住民は点在して住み、コミュニティは失われている。日常を失った児童が安心して学習できる環境を整えることを第一目標とし教育活動にあたっている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

● サブカテゴリー
いのち

対象者 1～6年生

対象人数 101人

子どもの心を動かす環境教育とESD ～仙台市立中野小学校の取り組み～



心と静かに向き合うためにリラクゼーションを行っている様子



心や体に変化が起こりやすくなる出来事(災害など)について知り、自分にあった対処方法について学ぶ様子

活動目的

野鳥の飛来地である七北田川や蒲生干潟を守りながら、次世代へ人と自然が共存し環境を守ることの大切さをどのように伝えれば良いのか、ESDの考え方をいながら、2010年度から2年計画で教育活動を進める。(震災前の目的)

活動概要

七北田川にサケの稚魚を放流し児童の環境への関心を高め、蒲生干潟を中心とした環境学習を行う。七北田川を遡上するサケを中心に学習する学年と蒲生干潟での野鳥観察を中心に学習する学年に分かれて取り組む。

2008年のASPnet加盟から一定の学習成果を挙げ、児童の環境への関心・意識も向上していたが、2011年3月11日に校区一帯が津波に飲まれ一瞬のうちに何もかもが無くなる光景を屋上に避難した児童・教職員は目の当たりにした。環境学習の場となる蒲生干潟も津波により壊滅した。

多くの方のご支援により4月21日から、隣の接学区にある仙台市立中野栄小学校校舎の一部を借用して授業を再開し学習活動を行っている。今回の地域交流会ではユネスコスクールの関係各位のご支援に対し感謝の言葉を伝えることができた。

加盟時から環境教育を行ってきたが、2011年度は生きる力にテーマを変更し、子どもの心のケアを校内研究テーマとした。学習を進めながら、ESDは人間成長の要素を含み、指導にあたる教師自身をも救ってくれるものだと感じている。

宮城県気仙沼市立馬籠小学校



全体会で馬籠小学校の取り組みを発表

発表者名

よこ やま せい いち
横山 清一

役職

教務主任

担当教科・学年

5、6年生

交流会感想

実践内容やESDに関する教員の任意の研究団体があるなど、金沢地域の先生方の意識、意欲の高さに刺激を受けました。この交流会を期にフォーマル、インフォーマルな情報共有を図りたいです。

学校情報

学校長	きむら れいこ 木村 玲子	全校生徒数	33人	教員数	11人
所在地	〒988-0364 みやぎ けん け せんぬま し もとよしちょう こがねやま 宮城県気仙沼市本吉町小金山1-1				
TEL	0226-43-2222	FAX	0226-43-2223		
E-MAIL	magome-sho@city.kesennema.lg.jp				
HP	http://www.motoyoshi.ed.jp/magome-sho/				

◆教育目標 「創造性に富み、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標に、「進んで学ぶ子（知）やさしい子（徳）元気な子（体）」を目指す。学びの楽しさや充実感のある学習活動を行い、保護者・地域に信頼され開かれた学校を目指し、人・自然・地域に触れ豊かな心・郷土愛を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 1873年創立、全校児童が例年30名前後の小規模校。3、4年と5、6年が複式学級。豊かな自然環境に囲まれ、地域住民の学校教育への関心は高く地域をあげて学校をサポートし協力・支援は惜しまない。PTAを中心に地域住民と行った緑化活動は、県の花壇や緑化コンクールで入選。学校林活動では朝日森林文化賞を受賞し全国植樹祭に招待される。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 33人

人・自然・地域に学ぶ馬籠っ子

～地域の高齢者との交流を軸とし、馬籠の人、自然、地域の良さを発見しながら展開するESD～



5、6年生「守ろう馬籠の森」学校林の施肥、下草刈り

活動目的

- ①自然環境や歴史的な背景・遺跡等を有効活用しながら、地域の人材や諸団体と互恵的な交流活動を展開し地域に根ざしたESDの推進を図る。
- ②これまで取り組みを生かし各教科との関連を図りながら意図的、計画的にESDに関連した内容を展開し充実させる。
- ③地域や国内、海外のASPネットワークを活用しESDを推進する。

活動概要

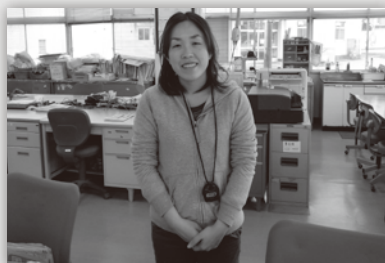
自分と人やもの、社会、自然環境との関わりや繋がりが分かり、よりよい関係をつくる児童を育成するためにも、地域の高齢者との交流を軸にしたESDを推進する。高齢者は親しみを持って交流が図れる身近かつ別の価値観、共生のスキル、生きた知識・技能に触れられる存在である。

5、6年生「守ろう、馬籠の森」では地域の森林保全活動をする。高齢者を講師兼コーディネーターとし、交流を行う中で生きた知識、地域への愛情を学び学習への動機付けや課題作りへつなげる。また地区敬老会へ参加し敬老の気持ちを葉書に込め、地区の高齢者全員へ送る取り組みも行う。

成果として地域の特色を生かしたESD推進、世代間交流、地域諸団体との交流、地域の教育力・コミュニティ作りへの貢献、学習に携わった方へのESD啓発が挙げられる。

金沢市・気仙沼市の両地域交流会に参加

か な がわ けん よこ はま し りつ な が た だい しょう がっ こう
神奈川県横浜市立永田台小学校



これから授業に行ってきます！

発表者名

かわ かみ ま や
川上 麻耶

役職
 教諭

担当教科・学年
 3年生

交流会感想

「大人になれば、一人で生きていく」その時、自分に自信を持って周りの人や自然のために行動できる、そんな人を育てていくことこそがESDなのだ、改めて今回の地域交流会で感じました。

学校情報

学校長	すみた まさはる 住田 昌治	全校生徒数	479人	教員数	34人
所在地	〒232-0075 <small>か な がわ けん よこ はま し み な み く な が た だい</small> 神奈川県横浜市 南区永田みなみ台6-1				
TEL	045-714-4277	FAX	045-713-3631		
E-MAIL	tm-kaw03@edu.city.yokohama.jp				
HP	http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nagatadai/				

◆教育目標 「一人一人が輝く永田台」を教育目標とする。様々な場面で自ら解決し、表現できる力を育成する。主体的活動の中で自分の個性をより良く発揮できるようにする。豊かな人間関係の中で共に生きる力を育てる。地域や保護者、企業や行政との連携・協働を進めている。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 児童の半数が集合住宅に住み、団地の入れ替わりが早いことと入居者の減少はあるが各自治会長やPTAは協力的である。学内施設を利用したふるさと作りも盛んで、地域との連携・協働を目指し地域行事には積極的に参加している。2010年ASPnetに加盟し、2011年より命をベースにした教育課程の編成を行っている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | 自然・環境 (いのち)

対象者 1～6年生

対象人数 479人

命がつなぐESD



朝顔を育てている子どもたち
 「あっ、ぼくの朝顔さいたよ」



夏の朝顔 元気に育ってたくさん花が咲きました。朝顔のアーチになりました。

活動目的

- 「今自分が生きていることは『奇跡』である」
 - 「全ての生き物には命がある」
 - 「私たちは様々な命によって生かされている」
 - 「全ての命は繋がりにある」
 - 「世界には貧困や自然破壊で苦しむ人、絶滅危機の生き物がいる」
- これらことを学び、「命」を多角的に見つめ考える。

活動概要

カシオ計算機株式会社 CSR 推進室の若尾久氏が授業作りに関わり、学年の取り組みに応じた内容を若尾氏と相談しながら、年間を通じて何度も打ち合わせを行う。年間の教育課程を編成し、学年の成長段階に応じながら若尾氏と一緒に授業が行われる。3年生では「命のあさがお（白血病で亡くなった小学生の残した朝顔の種をつないできたもの）」を育てる。

命の授業は子ども達に考える視点だけでなく、子ども達の生き方を創る土台となる。答えのない考えに教師や地域の方も一緒になって、本気で考え続けることに価値がある。貧困や飢餓のように身近に感じにくいこともあるが、世界の現状を知り何が出来るかを本気で考えることが社会を支える大人へとつながり、自分だけでなく周りの人や動植物全ての命を大切にしたい気持ちが生まれ、未来を創ることにつながると思う。

と やま けん と やま し りつ さむ え しょう がっ こう
富山県富山市立寒江小学校



発表者名

かみ だき ふみ こ
上滝 史子

役職
 教頭

交流会感想

本校と同じく「地域の良さを活用し地域への愛着を深める」取り組みが多くあることを知り心強く感じました。交流会では各校の工夫された取り組みや考え方から、大切な点の再認識や有効な手段等を知ることが出来、大変有効な交流会でした。

学校情報

学校長 ふるかわ けい こ 古川 桂子 | 全校生徒数 92人 | 教員数 11人

所在地 〒930-0108 と やま けん と やま し ほんこうちゅうぶ 富山県富山市本郷 中部427

TEL 076-436-5594 | FAX 076-436-2629

E-MAIL samue-es@tym.ed.jp

HP <http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama038>

◆教育目標 「自主・創造性に富み、たくましく生きる人間性豊かな子どもを育成する」を学校教育目標とし、「思いやりのある子ども(縦割り活動、あいさつ運動)」「よく考える子ども(基礎・基本の定着、地域に学ぶ)」「たくましい子ども(体力づくり、健康な生活の習慣)」の徳・知・体の面から、その実現に取り組んでいる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 水田が広がり国道・県道のアクセスも良く、富山新港周辺の工業地帯にも近いので経済的に豊かな兼業農家が多く住む。歴史的にも古い校区では地域諸団体の連携が強く、教育活動にも熱心に支援いただいている。地域情報をweb上で競う「マイタウンマップコンクール」では2003、2006、2007年度に内閣総理大臣賞他を受賞している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

● サブカテゴリー
福祉

対象者 1～6年生

対象人数 92人

生き生きと学び合い学習を楽しむ寒江っ子の育成 ～つながる力をはぐくむ持続発展教育～



稲刈りの様子



1年生:生活科「あきまつりをしよう」で6年生を招待

活動目的

人格の発達、自立心、判断力、責任感などの人間性をはぐくむとともに他者・社会・自然との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重する児童を育成する。「自然と社会、人、文化とのつながり」「体験的な学習活動」をキーワードとし、地域への愛着を深めその一員として意識できる体験活動を重視する。

活動概要

各学年に合った内容の地域活動を行い、校区の自然、社会、人、文化とのつながりを深め、郷土への愛着をはぐくむ。1年生はお世話になった6年生を招待し、夏祭りを開く。さらに、教職員、全校児童、保育園児とかかわりを広げていく。2年生は、地域の方の指導で野菜づくりを行ったり校区探検を行ったりしながら地域のよさを味わう。3年生は校区の偉人を調べ、自分の夢や地域を誇りに思う心をはぐくむ。4年生はデイサービスセンターの利用者さんや障害のある人など様々な立場の人との交流を行い、他者を認める心を養う。5年生は敷地内のミニ田んぼで稲作を行い、食糧問題や環境問題に関心をもつ。6年生は地域のために自分たちができることを考え実践し、発信する。ふるさとへの愛着をもつことができるようにすると同時に、他の地域でも人々は、それぞれ自分の地域に愛着をもって住んでいることに気づき、共生する心を育成する。

いし かわ けん かな ざわ し りつ かな いわ まち しょう がっ こう

石川県金沢市立金石町小学校



発表者名

かん むら けい いち
 勘村 圭一

 役職
 教諭

 担当教科・学年
 5年生

交流会感想

上位学校や企業・団体とのつながりの道程が見え、大変参考になりました。小学校では器具や設備も限られているので、上位学校の専門的な知識や設備を活用できれば、小学校でも充実した活動になると思いました。

学校情報

学校長	<small>なかむら まさえ</small> 中村 雅恵	全校生徒数	395人	教員数	26人
所在地	〒920-0338 <small>いしかわけんかなざわし かないわきた</small> 石川県金沢市金石北4-1-1				
TEL	076-268-1313	FAX	076-268-1314		
E-MAIL	kanaiwa-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/kanaiwa-e/				

◆教育目標 学校教育目標を「心豊かに、たくましく生きる児童の育成」とし、「考える子、思いやる子、やりぬく子」を目指す児童の姿とする。知・徳・体・絆を4つの柱に、具体的な目標を設定するよう児童に呼び掛けている。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 特徴として、西に日本海、東に金沢港を有す海と共に発展してきた地域であり、金石に誇りを持つ人が多く、伝統を重んじ世代を超えての結束力が強い。活動実績は『われらの誇り、「金石」の発見!』を通し、伝統・福祉・環境・歴史との関わりを学習している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

自然・環境

● サブカテゴリ
異世代交流

対象者 5年生

対象人数 79人

海の町・金石



海での調査活動で「ハサミムシ」を見つけ
た様子



それぞれの観点で観察・調査(9月)



12月のワンダーランドにて、他学年や地域
の人たちに発表

活動目的

- ① 校区にある海岸に愛着を持ち、環境を守る心を持つ。
 - ② 客観性、再現性を意識して調べ学習をする。
 - ③ 相手を想定した内容による、発表の工夫。
- 以上の点を歴史も文化も豊富な金石の海を通して改めて見つめ直す。

活動概要

5月～7月：海岸へ行き不思議に思ったことや調べてみたいことを見つけ自分の課題を決める。課題の解決手段を選択しながら情報収集を行う。

9月～11月：毎月初めに海岸へ行き、変化の確認や新たな発見を調査し学習を進める。ごみ・水質・生き物・植物・歴史の5班に分かれ、ごみの採取や水質の透明度・汚濁調査、生き物や植物の種類や季節の変化、資料室で文献を探したり地域の方へのインタビューをしたり理学的な視点で学習する。

11月後半に各班の発表を行い実験データや調査結果など情報の共通理解をする。より多くの人に伝えたいという気持ちの強まりから、12月に地域の方や低学年への発表を企画し、幅広い年齢層に対応できるよう相手を意識した発表の工夫を考え準備する。

いし かわ けん かな ざわ し りつ ざい もく ちょう しょう がっ こう

石川県金沢市立材木町小学校



発表者名

やま だ きく よ
山田 菊代

役職
教頭

交流会感想

全体会で宮城県気仙沼市立馬籠小学校が発表した地域高齢者を軸に地域の良さを発見し展開する内容について、我が校の取り組みと共通点があり全国的に大切にして取り組むべきテーマには共通のものがあると感じました。

学校情報

学校長	なかえ ひろし 中江 浩史	全校生徒数	215人	教員数	15人
所在地	〒920-0921 <small>いしかわけんかなざわ し ざいもくちょう</small> 石川県金沢市材木町13-12				
TEL	076-263-0461	FAX	076-263-0462		
E-MAIL	zaimoku-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/zaimoku-e/				

◆教育目標 教育目標を「やさしく かしこく たくましく」とし、「やさしい子・かしこい子・たくましい子」「挑戦する教師・児童の良さを伸ばす教師・対話する教師」「児童教職員ともに元気な学校・全職員が協力、協働で運営する学校・家庭、地域と連携する学校」を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 旧市街地に位置し近くには豊かな自然や伝統産業、歴史を有す。創立138年となり、各分野で活躍された先輩も数多くいる。高齢者が多く住む校区にあり地域諸団体による児童育成は大変盛んであるが、昨今の核家族化、少子高齢化による児童減少で各学年単級となりつつある。2010年度よりASPnetに加盟し、環境や伝統文化を主軸に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

●サブカテゴリー
伝統文化 交流活動

対象者 1～6年生

対象人数 約215人

つなぐ！あすの材木へ ～かんじて ひびいて うごきだす～



世界一大きな
授業2010



たてわりグループで絆の花の種植え



ニコニコキャッチボール運動

活動目的

豊かな自然や歴史が残る卯辰山や浅野川、金沢金箔や加賀友禅などの伝統文化由緒ある古くからの町並みなど校区的特色を生かし、環境や伝統文化を中心に地域を見つめ直し自然・人・社会や世界とつながりながら持続可能な社会の担い手として動き出す子の育成を目指す。

活動概要

1年生は「自然と仲良し大作戦」をテーマに、2年生は「たんけん 発見 みんなの町を」をテーマに環境を意識した活動を行う。

3年生は「見つけたよ!金沢らしさ・材木らしさ」をテーマに校区の藩政時代からの面影を残す40あまりの「標柱」を探索・調査。茶道体験、和菓子作り、加賀鳶など伝統文化に触れる。

4年生は「加賀友禅」をテーマに友禅燈籠の作成、浅野川燈籠流し、友禅作家を講師に招いての加賀友禅作成を行い、自然と伝統文化のつながり、伝統文化を継承する苦勞を学習。

5年生は「卯辰山保全プロジェクト」をテーマに環境教育を行う。人と自然の共生を考えながら、森林間伐体験やグリーンカーテン作り、金沢環境交通教室などに取り組む。

6年生は「自分発見プロジェクト」をテーマに伝統文化学習やキャリア教育を行う。金沢城や金沢に古くから受け継がれている“祭り”についての探究活動に取り組む。

いし かわ けん かな ざわ し りつ ちゅう おう しょう がっ こう

石川県金沢市立中央小学校



発表者名

やま ぎし とも こ
山岸 朋子

役職
教諭

担当教科・学年
5年生

交流会感想

実践活動について他校・他校種の担当に直接質問することができたり、実践を進めていく中で感じている課題について話し合えたり、また他県の活動を知る良い機会となりました。

学校情報

学校長	いけはた ひろひさ 池端 弘久	全校生徒数	534人	教員数	28人
所在地	〒920-0865 <small>いしかわけんかなざわしながまち</small> 石川県金沢市長町1-10-35				
TEL	076-262-8560	FAX	076-262-8055		
E-MAIL	chuuou-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/chuuou-e/				

◆教育目標 「自ら判断し、挑戦する子ども達」「自己肯定感を持ち、認め合い、学び合い、助け合う子ども達」「人、社会、自然（環境）と豊かに対話し、その絆を大切にす子ども達」「逞しく人間関係を築く子ども達」を目指す子ども像とし教育実践に取り組む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市街地に位置するが、学校周辺には按月用水・大野庄用水が流れ様々な水生生物が観察でき、近くの大きな公園で季節の自然に触れられる。長町武家屋敷群、尾山神社など、歴史的文化財も多く現存する地域である。地域とかわり合い自分を見直す学習を通し、よさに気づき自ら考え判断し行動する力と豊かな心を育み、持続発展可能な社会作りの担い手を育成する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 5年生

対象人数 96人

つながる!つなげる! ～金沢の里山・わたしたちの街～



金沢城や尾山神社の石垣と里山(小豆沢)の歴史的文化的つながりを調査



学校のまわりの用水と犀川上流の水生生物のつながりを調査

活動目的

身近な自然やそれにかかわる人々・生き物と触れ合い、調査や考察をする中で、それらが大きいつながりを持って共生していることに気づかせたい。そのつながりの輪の一部である自分達が、自然に対して働きかけられることについて考え、自分なりの方法で取り組む姿を期待する。

活動概要

① 図書室がかわる～山は緑のダム～図書館の床を木に張り替えることをきっかけに、森林再生課の方

を講師に里山の人工林について学習。

② 里山と街のつながりを探ろう | ～金沢の里山～校長に金沢の里山や自然の暮らしを紹介してもらい、グループごとに校区と里山のつながりを考える。

③ 里山と街のつながりを探ろう | ～合宿で里山観察～医王の里から夕霧峠、白兀山へと登山。山の専門家に植物や生物を紹介してもらい自然を観察する。

活動②・③では、森の専門家との出会いより、金沢の里山と自分が暮らす街のつながりを考えるきっかけを生んだ。合宿で山の専門家と登山し、動植物を観察しながら名前や特徴を紹介してもらい関心が高まった。今後は「里山と街のつながりを探ろうII・III」で調査を通した情報収集、情報の整理をし、自分達の役割や担う内容を考える。

いし かわ けん かな ざわ し りつ ち さか しょう がっ こう

石川県金沢市立千坂小学校



発表者名

もり ひろ み
森 洋美

役職
教諭

担当教科・学年
3年生

交流会感想

各学校のユネスコスクール担当の先生方との交流で今後のネットワークが作れたこと、NPO団体の方ともお話が出来たこと、ESD先進校の発表を聞いたことは大きな収穫であり、貴重な時間となりました。

学校情報

学校長	しもかわ しゅういち 下川 秀一	全校生徒数	690人	教員数	40人
所在地	〒920-0001 いしかわけんかなざわしせんぎ 石川県金沢市千木1-125				
TEL	076-258-1270	FAX	076-258-0378		
E-MAIL	chisaka-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/chisaka-e/				

◆教育目標 「ちえ・さわやか・かかわりあいを大切にする子」を教育目標に「学びから得た知識を生かし、活用できる子」「さわやかな挨拶を交わし、きまりを守る子」「関わりあい（自然や人）を通し、たくましく生きる子」を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 校区には加賀野菜で有名な千坂レンコンが多く栽培され、地域の特産物となっている。3年生ではレンコンをテーマに活動する。校舎内にレンコン田を作り、地域の農家を講師にレンコン栽培に挑戦している。また家庭でのレンコン料理も実施し、地域のレンコン田への愛着を深め将来の環境にも目を向けるといったESDの視点を含めた取り組みをしている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

● サブカテゴリー
食 (特産品)

対象者 1～6年生

対象人数 690人

魅力発見!私のまち「千坂」



レンコンパーティー



レンコンの種植え



レンコン収穫

活動目的

ユネスコスクール加盟1年目校として、従来の学習をESD視点から見直す取り組みを主軸としている。主に地域密着の学習内容で、校区の自然や環境に働きかけ、環境保全のために自分たちに何が出来るかを考え、課題を探求し実践できる力を養う。

活動概要

1、2年生は校区の自然園で自然と触れ合う活動をする。自然園の生き物を調査、飼育することで生き物との関わり、命の大切さを学ぶ。2年生は環境保全を考える学習や、地域の方から昔の様子を聞く機会などを設ける。

3年生はレンコン作りをテーマに活動する。校舎内のレンコン田での栽培や農家の方の講話、インタビューを通し、レンコン田へのいたずら防止の呼び掛けや害虫駆除に効果的なアルミ缶の回収など自分たちに出来る地域伝統のレンコン田の保全活動を行う。

4年生は「住みよいまち 千坂」をテーマに校区の環境保全を行う。5、6年生は金沢の特産品を調べ、金沢への理解を深めながら環境について考える。また学習したことを発信する活動にも取り組む。

いし かわ けん かな ざわ し りつ あわが さき しょう がっ こう

石川県金沢市立栗崎小学校



さつまいも植えの様子を撮影

発表者名

う こん ひろ あき
右近 宏明

役職
教諭

担当教科・学年
6年生

交流会感想

地域とESDを取り組むにあたり、学校や子どもだけでなく地域の方にも何らかの恩恵があるべきだという考えには目から鱗が落ちるようでした。将来を担う大人への成長という長期的な視野だけでなく、短期的な恩恵も考えるべきだと思いました。

学校情報

学校長 ふくひさ としひこ
福久 俊彦 | 全校生徒数 509人 | 教員数 30人

所在地 〒920-0226 いしかわけんかなざわ し あわがさきちょう
石川県金沢市栗崎町へ78

TEL 076-238-2234 | FAX 076-238-2206

E-MAIL awagasaki-e@kanazawa-city.ed.jp

HP <http://www.kanazawa-city.ed.jp/awagasaki-e/>

◆教育目標 「創造・共生・感動の教育」を目標とし、①知・徳・体のバランス②学校・地域の一人としての自覚③自ら学び判断する力④体得する喜びと大切さ⑤様々な「絆」の認識と尊重を重点事項とし具体的な指導に生かす。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 海岸、住宅地、伝統的加賀野菜（サツマイモ）、五郎島金時で有名な砂丘の畑を有す地にあり、地域や保護者の教育への理解や協力は良い。活動実績として、PTA活動でのサツマイモ栽培等の農業体験学習を取り入れた地域学習に取り組んでいる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境

●サブカテゴリ
伝統文化(芸能・工芸・産業) 福祉

対象者 1～6年生

対象人数 509人

「粟崎に生きる」をテーマとした 本校の取り組み



獅子舞体験



視覚障害者との関わり

活動目的

粟崎地域の地形や特産物、伝統文化を素材にひと・もの・ことについて調べ、自分や友だちと立てた問いに資料や地域の方の話、経験を知りながら追及し、自らが粟崎でどのように生きていくべきかを考える。

活動概要

1年生は五郎島金時の苗植え、水遣り、雑草抜き。
2年生は粟崎の町探検。自然観察や名所見学をしお気に入りの場所を見つける。

3年生は2年時の町探検で訪れた自然や名所を校区全体で捉え、地域の理解を深める。また獅子舞保存会の協力で、実際に獅子舞を鑑賞し学習する。

4年生は粟崎を誰もが住みよい町にするための工夫を探求。視覚障がい者の方の協力や交流で、アイマスクでの歩行体験や盲導犬の役割を学習し、「誰もが住みよい町」を考える。

5年生は粟崎名産のスイカ・五郎島金時の栽培・収穫・試食。生産者との交流会では農家と自分たちのスイカを味比べし、プロの技を堪能する。

6年生は金沢への理解や愛情を深める。市内の名所や伝統工芸を調べ、歴史や伝統・伝承から人のつながりを意識する。

いし かわ けん うち なた ちょう りつ つる が おか しょう がっ こう

石川県内灘町立鶴ヶ丘小学校



ふれあいエコ遠足のようす

発表者名

おか だ しゅう
岡田 秀

役職
教務主任

担当教科・学年
4年生

交流会感想

日本中の様々な地域で校種を問わずどの学校においても、目指す子ども達の姿に向かって取り組んでいるということを感じることが出来、大変有意義な機会であったと感じています。

学校情報

学校長	ひがしだに まさみ 東谷 正巳	全校生徒数	375人	教員数	19人
所在地	〒920-3125 いしかわけん か ほくぐんうちなたまちあざつる が おか 石川県河北郡内灘町立鶴ヶ丘2-162				
TEL	076-286-0001	FAX	076-286-0605		
E-MAIL	tsuru-es@educet04.plala.or.jp				
HP	http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~tsurue/NC2/htdocs/				

◆教育目標 「活気ある人間性豊かな児童の育成」を学校教育目標に、「思いやりのある子(徳)・自ら学ぶ子(知)・やりぬく子(体)」の児童像に向け、あいさつやありがとうの言える子、意欲的に学び、学びを生活に生かせる子、規則正しく生活し環境に配慮する子を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 石川県の日本海側中央部に位置した内灘海岸と河北潟に隣接した砂丘地帯で、白山連峰、立山連峰を望む風光明媚な地域である。2008年より資源の使用量削減やリサイクル等のエコ活動を学校全体で取り組み、エコ委員会を発足し学校内や地域への啓発活動の主軸となって取り組む体制を作る。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | 自然・環境 (エコロジー)

対象者 1～6年生

対象人数 375人

鶴っ子・エコ活動



エコ委員の活動の様子

活動目的

日常的なエコ活動の取り組みを通して、めあてをもって達成する喜びを感じる事の出来る子ども達を育てる。また、学校でのエコ活動を家庭や地域にも実践できる子ども達を育てる。

活動概要

- ①エコ委員会による全校への啓発活動：ポスターの配布や昼の放送で水・電気の使用量、紙ごみの重さ等を知らせる。
- ②紙エコ：教室や職員室から出る紙ごみを分別してリサイクルする。
- ③電気エコ④水エコ⑤エコキャップ⑥グリーンカーテン
- ⑦ごみ量の記録：美化委員と連携し、掃除で出るごみの重量を測定。グラフ化し、昨年度と比較し啓発する。
- ⑧エコ通信発行：家庭へ配布し学校活動の理解と協力を求める。
- ⑨エコ度チェック：クラスごとに4項目のチェックをし、意識を高める。
- ⑩ふれあいエコ遠足：運営委員会と連携し、近隣の公園でのごみ拾いをする。
- ⑪エコワット（簡易型電気代計測器）の利用
- ⑫ダンボールによる堆肥作り
- ⑬エコ川柳 エコマーク エコ替え歌：長期休みの課題として全校で取り組む。
- ⑭職員の校内研修会
- ⑮町環境フォーラムへの参加：エコ委員会が本校の取り組みを発表し、地域や他校との情報交換を行う。
- ⑯保護者への各種アンケート
- ⑰太陽光電池システムの導入

いし かわ けん うち なた ちょう りつ おお ね ぶ しょう がっ こう

石川県内灘町立大根布小学校



発表者名

き た かつ けき
喜多 克之

役職
教頭

交流会感想

ESD活動が総合的な時間の学習の時間だけでなく、各教科と横断的なつながりを持たせて進めることを知りました。また、環境、国際理解、世界遺産教育、人権教育等、様々な分野を総合的に取り組むことも分かりました。

学校情報

学校長	いとう かずよし 夷藤 一良	全校生徒数	537人	教員数	27人
所在地	〒920-0266 いしかわけん かほくぐんうちなたまちあざおおねぶ 石川県河北郡内灘町字大根布6-2				
TEL	076-286-3111	FAX	076-286-3268		
E-MAIL	nebu-es@educet04.plala.or.jp				
HP	http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~oonebe/NC2/htdocs/				

◆教育目標 校訓を「心美しく たくましく」とし学校を「学び合う場・心を耕す場・体を鍛える場・人としての生き方を学ぶ場・楽しく、のびのびと過ごせる場・児童を家庭、地域と連携して育てる場」とする。教育目標を「心豊かで、主体的にたくましく生きる児童の育成」とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 内灘町は砂州上の町で、東は河北潟、西は日本海に面し砂浜が続いており、人口は約27000人である。校区は内灘町の中央に位置し、役場や文化会館、金沢医科大学等の施設がある。2008年に町よりエコスクールの認定を受け、全校でのエコ活動や保護者へのエコ啓発活動に取り組んでいる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境 (エコロジー)

対象者 内灘町の小中学生

対象人数 2,593人

『内灘町エコスクール推進計画 —エコスクール推進・認定の手引き—』の作成



「まだ使えるよ〜ボックス」
できるだけ紙をリサイクル
する取り組み

活動目的

地球環境の保全は我々の大きな使命であり、社会全体が意識を高め取り組むものである。そのような中、内灘町内全小中学校（中学校1校、小学校5校）で環境・環境保全活動を推進する。また同時に学校における環境教育、環境保全活動が効果的に進められるようにする。

活動概要

環境教育・環境保全活動の面で一定の成果が認められたとき、内灘町長が「エコスクール」として認定する。

〈エコスクール推進・認定制度の概要〉

- ①学校の現状把握
- ②環境活動計画書の作成
- ③計画にそった活動の実施
- ④報告書の提出
- ⑤エコスクール認定
- ⑥活動結果の評価・計画の見直し

〈内灘町の各学校の取り組み〉

節電・節水、紙の再利用、地域の美化・清掃、グリーンカーテン、ダンボール堆肥、エコ川柳、エコ通信、エコシール作成

〈大根布小学校の取り組み〉

年間計画・委員会の発足・啓発活動、節水・グリーンカーテン、児童アンケート・掲示、1年間の振り返りと次年度への見直しを行い、地域に向けて、親子エコ標語、エコマークシールの配布、節電の呼びかけを行う。



『内灘町エコスクール推進計画—エコスクール推進・認定の手引き—』

ふく い けん さか い し りつ なる か しょう がっ こう

福井県坂井市立鳴鹿小学校



鳴鹿小学校自慢のビオトープを撮影

発表者名

た がわ く に お
田川 邦夫

役職

校長

交流会感想

ユネスコスクール加盟1年目の大きな変化として教職員が常にESDの視点を意識し、保護者や地域へ啓発活動を行っていると発表できました。三重県や金沢市では行政との連携もあり、今後は学校だけでなく様々な機関との連携が必要だと痛感しました。

学校情報

学校長	た がわ く に お 田川 邦夫	全校生徒数	147人	教員数	15人
所在地	〒910-0336 ふくいけんさかいしまるおかちようらくま 福井県坂井市丸岡 町 楽間 4-40				
TEL	0776-66-2756	FAX	0776-67-5002		
E-MAIL	nainfo@naruka.ed.jp				
HP	http://www.naruka.ed.jp				

◆教育目標 「心もからだも健康で、すすんで学ぶ、心豊かな児童を育てる」を教育目標に①確かな学力の確立②豊かな人間性の育成③健やかな体の育成④持続発展教育（ESD）の実施⑤家庭・家族との連携に取り組む。④は環境教育の充実からの変更で、これまでの環境教育の取り組みを基に見直している。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 豊かな自然に囲まれ、付近には六呂瀬山古墳群がある。2002年に6年生が発案した地域の自然環境を再現したビオトープがあり、管理や改善は保護者や地域の力を借りながら代々受け継がれ、環境教育の拠点として大切に活用されている。2007年に環境省「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校になり、ビオトープや地域の自然を通して環境保全の大切さを学ぶ。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境 (エコロジー)

● サブカテゴリー
食 (作物作り)

対象者 1～6年生

対象人数 147人

ユネスコスクール加盟1年目でできること



落ち葉のシャワー



わら細工作り

活動目的

- ①豊かな感性を育成し、自然と触れ合う場を設ける。
- ②環境を大切にする児童を育成し、環境問題を身近に捉える場を設ける。
- ③「かかわり」や「つながり」を大切にする児童を育成し、ユネスコスクールの考えを生かして実践する。

活動概要

〈自然から学ぶ〉

1年生は「自然と遊ぼう」をテーマに、身近な動植物を観察・記録する。どんぐりや落ち葉で玩具を作り、祖父母と交流する。2年生は「自然と友達になろう」をテーマに、校区の自然を季節ごとに観察する。また、学級園の野菜収穫を楽しむ。3年生は「鳴鹿大好き! 鳴鹿ってどんなところ」をテーマに、地区探検を行う。

〈生活から学ぶ〉

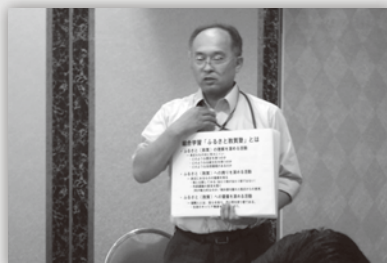
4年生は「鳴鹿っ子エコレンジャー」をテーマに、ごみ・水から生活の環境・資源を考える。5年生は「お米作りで考えよう 鳴鹿の環境」をテーマに稲作と環境の関連を考え、郷土料理やしめなわ作りに取り組む。「緑のカーテン作り」も行う。

〈自然と共生していく心〉

歴代の6年生はビオトープを守り育てる活動を継続する。2011年度は「鳴鹿エコロジー作戦」をテーマに学習を進め、地域にも環境保全の大切さを発信する。

つる が け ひ こう とう がっ こう ふ ぞく ちゅう がっ こう

敦賀気比高等学校附属中学校



発表者名

かわ ばた りょう さい
河端 良斉

役職
教諭

担当教科・学年
理科・高校1～3年生

交流会感想

ESDやユネスコスクールに対してハードルが高いという印象を持っていたが、交流会に参加してESDは特別なのではなく、これまでの取り組みをESDの観点で見直し取り扱っていく、更に教化間で関連付け実践していくのだという認識を持ちました。

学校情報

学校長	まくさき としかず 菊崎 俊一	全校生徒数	80人	教員数	8人
所在地	〒914-8558 ぶくいけんつるが しよくみ 福井県敦賀市沓見 164-1				
TEL	0770-24-2150	FAX	0770-24-2620		
E-MAIL	kyoumu@tsurugakehi.ed.jp				
HP	http://www.tsurugakehi.ed.jp/				

◆教育目標 校訓を「時習・自立・自愛」、教育モットーを「文武両道・文武不岐」とする。保健委員会が行うNIE活動やJRC委員会が行うボランティア活動、学校祭での献血協力といった生徒会活動や、硬式野球、空手道、レスリング、陸上競技、テニス、美術、プラスバンド等の部活動を積極的に行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 福井県嶺南地方にあり、自然が多くのおんびりとした人柄と公的志向の強い気質が特徴である。本校は嶺南地方の教育振興を目的として設立された私立学校であり、中学としては福井県初の中高一貫校である。生徒たちは、高校に進学した後、「特別進学コース」の中核として国公立大学進学を目指し勉学に励んでいる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～3年生

対象人数 80人

総合学習「ふるさと敦賀塾」 中池見の自然を楽しもう



「体験活動」
「学習活動」
「発表活動」
をまとめた資料

活動目的

「自然離し」の状態にある生徒たちに、中池見湿地での自然体験活動を通して、かつては当たり前であった異年齢の体験的かつ活動的自立集団「ガキ大将集団」を作ることを目的とする。またこうした活動を通して、地域社会が持つ教育力の向上の一助も考える。

活動概要

本活動は文部科学省の提唱する「理科大好きプラン」のSPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）を念頭に行われた活動であるが、自然との関わりこそ持続発展的であると考へESD活動として扱った。

第一の柱「体験活動」

ユネスコ未来遺産にも登録されている中池見湿地で年4回の活動をする。10名の班に分かれ、各班のテーマに沿って行動し、最後に全体での活動報告を行う。

第二の柱「学習活動」

帝京科学大学の小林毅教授の指導のもと、インタープリテーション学習を柱とし、機会を捉えて京都大学、近畿大学等の大学や博物館や植物園等の研究者から、自然に関わる専門的な講話を受ける。

第三の柱「発表活動」

1年間の活動を振り返り、学習内容の確認・定着、活動場所への理解を深める取り組みとして成果発表会を行う。

いし かわ けん かん きょう ぶ ち きゅう おん だん か たい さく しつ

石川県環境部地球温暖化対策室



発表者名

しん ひろ あき
新 広昭

役職
次長

交流会感想

各校の事例を聞く中で、ESDとして認識されずに埋もれてしまう学習もあるのだと思いました。この取り組み（授業）はESDなのだという気付きと自覚、言語化と共有、つながりと拡大生産性という過程を作る必要があると感じた。

所属先情報

所在地 〒920-8580 いしかわけんかなざわし くらつき 石川県金沢市鞍月1-1

TEL 076-225-1462

FAX 076-225-1466

E-MAIL ontai@pref.isikawa.lg.jp

HP <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/index.html>

◆活動概要

- ① 個々のライフステージに応じて環境教育・学習に取り組めるよう方針や方法を示す。
- ② 環境教育・学習活動の拠点（県民エコステーション）を設置し機会の提供に努める。
- ③ 環境保全の担い手である指導者やサポーターを育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 石川県は世界農業遺産に認定された能登や霊峰白山を有する自然豊かな環境にあり、この環境を守り育てるため早くから環境教育の推進に取り組んできた。学校・幼稚園・保育所では各環境教育指針に基づく自然体験や生活環境保全活動等を通し、環境教育・学習を推進し、社会教育ではいしかわ自然学校や環境フェアの開催などによる情報提供を行う。更に環境教育・学習をリードする人材の育成に力を入れている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

自然・環境(エコロジー)

● サブカテゴリ
交流活動

対象者 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校

対象人数 ー

いしかわ学校版環境ISOについて



活動報告を壁新聞にして展示



千羽トキ

活動目的

「学校における環境教育指針」を基に、学校で容易かつ効果的に環境保全活動に取り組める「いしかわ学校版環境ISO」の指針を策定し、指針に沿って活動する学校を認定する制度を設け、環境教育・活動の更なる充実、発展を目的とする。

活動概要

いしかわ学校版環境ISO認定校は2011年12月現在、小学校76校、中学校24校、高等学校48校、特別支援学校13校の計161校となる。認定校では

様々な環境保全活動が行われ、児童・生徒が地域に関心を寄せ地域との交流の糸口にもなり、環境を入り口としたESDと考えられる。また県では優秀な実践をしている学校に環境教育教材を贈呈する「エコギフト制度」を設けており、朱鷺サポート隊を結成しトキの保護活動を展開した高等学校や「より環境に優しい消費者になろう」をテーマに地元スーパーと連携し、リサイクルや地産地消を学習する特別支援学校の取り組みが大賞に輝いている。今後も認定校を増やし、ESDの素晴らしい効果や発展を多くの学校が味わえるようにしたい。

いしかわ自然体験支援隊



森の解説を行っているところ

発表者名

もり え あきら
森江 章

役職
理事長

交流会感想

ESD運動強化での学校の役割は非常に大きいと感じます。学校の授業を通して、あるいは協働関係や連携することで、保護者や地域のESDに対する理解がより深まると考えられます。

所属先情報

所属先長 もり え あきら
森江 章 役職:理事長

所在地 〒921-8066 いしかわけんかなざわし やぎ
石川県金沢市矢木2-129

TEL 076-240-3246

FAX 076-240-3246

E-MAIL shientai@nifty.com

HP <http://shientai.c.ooco.jp>

◆活動概要 石川市民に対し自然体験に関する事業を行い、環境教育・社会教育、持続可能な開発のための教育の普及・啓発に寄与し、地域や分野を越えて自然体験活動に取り組み機関と連携を図り、県民の生活環境の向上に貢献することを目的とする。

◆地域の特徴これまでの活動実績 景観は良いが森林の未整備地区である石川県金沢市夕日寺町「大休場」地区で、森林保全を行い地区住民の協力と理解を得て金沢市内の小学校を対象に森林教育を中心とした環境教育を行う。石川県の森林環境税「子ども恵みの森」事業助成や民間の助成金を原資に、本会会員を中心に金沢星稜大学池田ゼミ学生が活動支援する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

自然・環境

● サブカテゴリ
学校支援

対象者 小学校2、3、5年生(過去対象学年)

対象人数 ー

NPOが積極的に支援を行う事例



森の自然体験
秘密基地づくり

活動目的

NPOが地域小学校に対し積極的に関与し、里山や森の自然についての学習や自然を感じる直接体験、自然の多様な生き物を知ることで自然と人間の関係を知り学ぶ機会とする。また活動を通して、NPOと学校や関係機関の環境的側面での連携を考える。

活動概要

学校長にその学区の地域性が反映した活動計画を提示し、学年担当教諭と実施計画を検討する。学校の「ねらい」を主体とするが、実体験においては子どもの主体性を重んじる。

2009年度：石川県金沢市立弥生小学校5年生「街っ子夢の森プロジェクト」…自然に触れる機会の少ない子が、間伐体験や木登り、秘密基地作りなどの直接体験を通して学習する。

石川県金沢市立四十万小学校2年生「森の生き物」…森にはどんな生き物がいるか知ることやねらいとし、昆虫を中心に自然観察を行い、小枝などを利用したクラフトを作成。
2010年度：石川県金沢市夕日寺小学校5年生「自分たちの身近な里山や森を知ろう」…身近な里山・森の役割や多様な生態系を知り、守る必要があることを知る。

金沢エコネット



発表者名

なか むら きな え
中村 早苗

役職
運営委員

担当
温暖化防止部門・ネットワーク部門

交流会感想

ESDは学年、学校、年間ごとにテーマを持ち、各種の科目を網羅し様々な視点から問題に取り組むことで実施の多様性が期待できます。仙台市立中野小学校は環境保護に加え、震災以降「心のケア」の分野にESDを広げていたのが印象的でした。

所属先情報

所属先長名	まつした こういち 松下 浩一	役職: 代表運営委員	会員数	64人 3団体
所在地	〒920-8577	いしかわけんかなざわ し ひろさか 石川県金沢市広坂 1-1-1	かなざわ し かんきょうきょくかんきょうせいさくか ない 金沢市環境局 環境政策課内	
TEL	076-220-2507	FAX	076-260-7193	
E-MAIL	kanazawa-econet@no.main.jp			
HP	http://kanazawa-econet.main.jp/			

◆活動概要 市民の視点で環境教育・学習に関する事業を実施し、環境保全意識の高揚、環境への負荷軽減、現在・将来の市民の安全な暮らしを守ることを目的とする。金沢市の委託を受け、環境教育・学習を推進する様々な非営利事業を行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市は豊かな自然環境、生物、景観、歴史的遺産が残されているが、一方で温室効果がガスの排出量はまだまだ多い状況である。環境負荷の少ない持続可能な社会を構築すべく、市民・事業者・行政などの協働により環境の学びの場を市民視点で提供し、各種講座・イベント、ピオトープの維持管理、教材開発、人材育、各種団体との連携など普及活動を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境(エコロジー)

●サブカテゴリー
食(環境) エネルギー

対象者 幼児～成人

対象人数 20～300人

環境教育市民団体の活動報告 ～ESDに市民団体との連携を～



森の生き物調べ



米粉クッキング



リサイクル見学

活動目的

興味ある教材で楽しく正確に情報を提供し、家庭からのCO₂削減に成果を挙げる。また地域資源の再発見で、グローバルからローカルへの生活様式の転換を提言、実践する。更にESDと連携して、学校での環境教育・学習の活性化を目的とする。

活動概要

温暖化防止講座では、情報を伝えエネルギーを「見える化」し、五感を使う体験型のプログラムを行う。児童向け紙芝居「エネルギーの歴史」は、金沢弁の漫才形式で、楽しみながら環境への関心を高める。(HP掲載) 一般向けには省エネ家計簿等の教材でエネルギーを見える化し自ら改善点を挙げていく内容で、家庭のCO₂削減に成果を挙げている。「食とくらし」の講座は食の国際化を題材に、地産地消の環境負荷軽減効果を学び、地産地消の調理実習、地産見学会を行っている。他にも新エネルギー体験、廃棄物の発生抑制、自然での生態調査など、多方面との連携で企画・実施している。今後はこれらの活動を生かして、学校のESD活動へ協力していきたい。

と やま けん と やま し りつ ちゅう おう しょう がっ こう

富山県富山市立中央小学校



発表者名

ほり い よしのり
堀井 良徳

役職

教諭 (ESD総括)

担当教科・学年

5年生

交流会感想

協働的に学び合う場は子ども一人ひとりの学びの質を高めることに繋がると考えます。ユネスコスクールのネットワークを活用し、教師ばかりでなく子どもたちも様々な学校と交流しながら情報を共有していくことが大切であると感じました。

学校情報

学校長 じょうの みいこ 城野 美井子 | 全校生徒数 385人 | 教員数 21人

所在地 〒930-0052 とやまけん とやまし ごばんまち 富山県富山市五番町4-35

TEL 076-421-6490 | FAX 076-421-5664

E-MAIL toyama-chuo-es@tym.ed.jp

HP <http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama068>

◆教育目標 「心身ともに健やかで、自ら学ぶ力を身に付けた子どもの育成」を学校教育目標とし、「かしこく、やさしく、たくましく」の3つのキーワードを掲げ、知・徳・体のバランスの取れた子どもの育成を目指している。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 東側にいたち川が流れる自然豊かな環境にある。また南には寺が多く見られ、北は古くからの商業地域で江戸時代から続く薬作りなど伝統を重んじる風土にあり、郷土愛に満ちた地域である。校区の特徴を生かし、3年生は校区探検や観測調査をし発表会を行い、4年生は環境学習を軸にいたち川の魅力を発信する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | 食(稲作・農業)

対象者 5年生

対象人数 65人

稲作体験を通して、食の向こうに見える世界 を考える



セントラル水田田おこし(5月)



セントラル水田(夏休み)

活動目的

- ① 学習や体験を基に、自分の食生活とつないで現在の食料生産について考える。
- ② 課題解決への情報収集をし、資料を多面的に考え効果的に選択・活用し表現する。
- ③ 食料の生産・消費を国際的に捉え、学びを生かして実践する。
- ④ 研究成果を自分なりに意味づけ、次学年に分かりやすく伝える。

活動概要

稲作を通して食の安全・大切さを考える。社会科・理科・家庭科等の学習と結びつけ、日本の現状や実生活と食料自給率の関係や食(米)に対する多様な価値観を考える。国語科と結びつけ依頼状や礼状の書き方、生活白書やニュース作りなど言語活動の充実を図る。地域・学校の特性を考えピオトープに水田を作り、無農薬有機栽培を目指し環境に優しい米作りをする。同時に有機農家へ出向き、本物の田んぼでの体験・比較学習で農家の苦労や努力を知り、生産者と消費者両方からの「食」を考える。11月に「中央っ子フェスティバル」を開き、学習成果を「自分の言葉」で発表し他学年との交流を行う。栄養職員・調理員、JAや農家の方、農政事務所などの行政の協力を得て、外部機関との連携を図り自らの食生活を見直しこれからの日本の食を真剣に考える機会とする。

いし かわ けん かな ざわ し りつ くら つぎ しょう がっ こう

石川県金沢市立鞍月小学校



分科会3で学校の取り組みを発表

発表者名

ち くら はる え
千倉 春恵

役職
教諭

担当教科・学年
5年生

交流会感想

本校では既存の活動を継続する傾向にあるが、気仙沼の活動報告などから活動自体を立ち上げ、改革していくという印象を強く受けました。全校共通しているのは、地域性や伝統を生かし、地域と一体になり子どもの「生きる力」を育んでいることだと思います。

学校情報

学校長 おおにし けんいち 大西 賢一 | 全校生徒数 740人 | 教員数 46人

所在地 〒920-0064 いしかわけんかなざわ し みなみしん ぼ まち 石川県金沢市南新保町リ27-1

TEL 076-237-6447 | FAX 076-237-1447

E-MAIL kuratuki-e@kanazawa-city.ed.jp

HP <http://www.kanazawa-city.ed.jp/kuratuki-e/>

◆教育目標 教育目標に知・徳・体の調和がとれ、21世紀を生き抜く児童の育成を掲げ、①子どもの喜びに満ち溢れ、家庭・地域社会に開かれ、自覚と誇りを持って教職員が働く学校②考え、頑張り、遅しく、優しい子③教材研究に努め、互いに高めあい、地域全体から信頼される教師を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 近年の県庁移転に伴う人口増加で児童数も年々増え、金沢市においても有数の大規模校となる。商業施設の多い中、犀川より流れる鞍月用水や梨、米の栽培も行われている。鞍月の特産品や伝統芸能など、地域の自然、伝統文化、人々の絆を生かした学習を通じて、子どもの豊かな心の育成に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

食(梨作り、稲作)

サブカテゴリ
伝統文化(芸能・歴史)

対象者 1～6年生

対象人数 740人

鞍月小学校の取り組みについて



田植え



稲刈り

活動目的

1、2年生は季節の変化を堪能できる地域環境を生かした身の回りの自然に親しむ活動をし、地域への愛着を育む。3～6年生は地域の方を講師に招き、体験活動を通じて話を聞く、教えていただく、感謝をするなど感じたことを大切にする学習をする。

活動概要

3～6年生の活動を紹介する。

3年生：「梨の栽培学習における地元生産者の指導」

特産である梨の栽培について、各工程から収穫まで生産者より直接指導を受ける。もぎたての梨を全校生徒に振る舞い、同時に学習内容を発表する。

4年生：「南無とせ節の継承」

校区に500年以上伝わる無形民族文化財である「南無とせ節」を保存会の方から学び、運動会で発表する。

5年生：「稲の栽培学習における地元生産者の指導」

学校近くの田を使用し、地元の生産者から稲作を学ぶ。田おこしから収穫までを体験学習し、収穫米でおにぎりを作る。栄養教諭との学習を絡め、食育のよい機会とする。

6年生：「金沢学」

金沢の歴史や民話の調査、金沢検定を全員で受検、留学生に金沢を紹介など様々な視点から学習する。更に地域の方を講師に招き偉人伝や職業に関する講話を受ける。

あい ち けん ひがし うら ちょう りつ お がわ しょう がっ こう

愛知県東浦町立緒川小学校



発表者名

はら いっこ
原 伊津子役職
教諭担当教科・学年
少人数指導

交流会感想

ESDについてある程度は理解していたが実践として展開や内容に迷いが多くありました。交流会でたくさんの実践事例をお聞きすることができ、現在実践している「米作り」に文化、国際理解の取組を繋げられるのだと、大変参考になりました。

学校情報

学校長	とみた けんじ 富田 憲治	全校生徒数	477人	教員数	40人
-----	------------------	-------	------	-----	-----

所在地	〒470-2102 <small>あいちけんちたぐんひがしうらちょうおおざおがわあざはちまん</small> 愛知県知多郡東浦町大字緒川字八幡7				
-----	---	--	--	--	--

TEL	0562-83-2034	FAX	0562-83-8510
-----	--------------	-----	--------------

E-MAIL HP内メールフォーム

HP <http://ogawashou.blog119.fc2.com/>

◆教育目標 「豊かな心とたくましい体もち、主体的に判断し、行動のできる子供を育成する」を教育目標に、目標をもち元気に活動する躍動感あふれる姿、学習や各種活動に集中して粘り強く取り組む姿、やり遂げる達成感、仲間と協力することの喜びを味わう姿を目指す子供像とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 校区は古くから城下町として栄え寺社、商店も多い。近年住宅地が広がり、道路整備などの都市化が進む。1978年に校舎全面改装しオープンスクールとして生まれ変わり、オープンスペースを活用した学習に取り組む。2005、2006年には文部科学省「伝え合う力を養う調査研究事業」指定校となり、集団での「学び合う話し合い」の研究を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | 食(稲作・農業)

対象者 5年生

対象人数 82人

ESDの視点で見直した、5年 「お米を育てて植物の命を学ぼう」



横一列に並び、田んぼ一面に自分たちの手で苗を植える



全員がはだしになり、土の感触を味わい、どろどろになりながら土の固まりをつぶす

活動目的

総合的な学習の時間の活動として、毎年運動場の一角の田んぼで地域の老人クラブの協力のもと田植えから稲刈りまでを指導していただき、お米作りに取り組んでいる。児童は全て準備されてから体験するのみの活動となっていたが、ESDの視点で見直し自主的な活動の学習として改善を試みる。

活動概要

〈地域連携〉ガイダンス：東楽会（地元老人クラブ）の方を講師に、美味しい米を作る秘訣や心構えを知る。

〈体験型活動〉代掻き、田植えに挑戦する：東楽会の指導で、学校の田んぼであぜ塗りを見学し代掻きと田植えを行う。

〈主体的な思考・行動〉一人一鉢の米作りに挑戦する：自分のバケツで各自米を育てる。

〈多面的な思考〉農業使用の有無を考える：図書資料やインターネット、営農センターや農家の方からの話をもとに農業を使用するか話し合う。

〈体験型活動〉稲刈り、稲こぎ、餅つきに挑戦：東楽会の指導で、学校の田んぼと各自のバケツで稲刈り、稲こぎを行う。収穫した米で餅つきをして食べる。

〈現実的課題への取り組み・未来像〉農業をめぐる問題について考える→農業人口の減少、米の生産調整などの問題について調べ、話し、自分にできることを考える。

〈地域連携・自然との共生〉学習のまとめ：東楽会に感謝の気持ちを込めて「ありがとうの会」を開く。

いし かわ けん かな ざわ し りつ し じ ま しょう がっ こう

石川県金沢市立四十万小学校



発表者名

よ かわ けい
余川 慶役職
教諭担当教科・学年
6年生

交流会感想

以前から繋がりがあった方同士が同席しており、互いの活動に協力し合っている様子等を伺うことができ、震災の援助という部分も含めて日本人の絆の強さ、協力し助け合う姿の美しさに感動しました。

学校情報

学校長	よしもと かつし 吉本 克司	全校生徒数	449人	教員数	30人
所在地	〒921-8135 石川県金沢市四十万3-186				
TEL	076-298-3015	FAX	076-298-3037		
E-MAIL	shijima-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/shijima-e/				

◆教育目標 「自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標とする。児童理解と基礎基本の学習をもとに自学の力の育成、人間尊重の精神に基づく社会生活上の基本的な行動様式の体得と自律心の育成、自らの健康安全の維持と体力の向上を目指す実行力の育成に取り組む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 校区は新しい住宅が増加する一方、昔からの農家・田畑が多く米作りが盛んであり四十万山等の自然環境にも恵まれている。豊かな自然や伝統を生かし、米作り体験や地域に伝わる「四十万じょんから」の伝承活動に取り組む。また外国との交流を通じて、自分達の住む地域や金沢の良さを実感する活動を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 国際理解

●サブカテゴリ
交流活動 伝統文化

対象者 6年生

対象人数 90人

国際交流 世界の人と手をつなごう



パキスタンのサミーキルト(じゅうたん)をパワーポイントを使って紹介



金箔の蒔絵作品の実物を見せて説明する様子

活動目的

外国の子ども達と交流し、互いの文化を交流する。相手の文化を知るとともに、自分達の住む地域の伝統・文化や歴史を知る。また自分達の地域の良さを再確認するとともに、色々な国や地域の文化やそこに住む人々との相違を理解する意識を育てる。

活動概要

世界では様々な問題が起こっており、そこには色々な人が住みそれぞれの文化があることを知らせ、外国との交流を持ちたいという気持ちをもたせ、アート

マイルプロジェクト（大きなキャンパスに交流国と半分ずつ絵を描き完成させる活動）に参加する。アートマイルプロジェクト事務局が選ぶ交流相手（2010年度は台湾とイスラエル、2011年度は韓国、アラブ首長国連邦、パキスタン）と互いに自己紹介カードを送りあい、何度もテレビ会議を開き、直接英語でのやり取りを繰り返しながら親睦を深める。自国や地域の伝統文化を伝えるために、金沢について調べ見学に赴き、金沢の歴史や伝統を学ぶ。同時にティビエプロジェクト（「留学生」として自分達の代わりにぬいぐるみを滞在させる活動）に参加する。自国の名所へ連れて行き滞在日記を書くことで自国文化を知り、相手国の文化に興味を持ち受け入れる意識を育む。

いし かわ けん かな ざわ し りつ にし しょう がっ こう

石川県金沢市立西小学校



全体会で西小学校の取り組みを発表

発表者名

すぎ やま あさ こ むら さわ ひろ こ
杉山麻子、村澤弘子

役職
教諭

担当教科・学年
5年生

交流会感想

色々な先生方の実践をお聴きすることで、様々なESD活動に取り組まれていることを実感しました。方法は違っていても「つながり」を大切にすることは同じだと気づきました。

学校情報

学校長	かわざし のり こ 川岸 典子	全校生徒数	383人	教員数	23人
所在地	〒920-0027 いしかわけんかなざわ し えきにしんまち 石川県金沢市駅西新町3-15-1				
TEL	076-263-5338	FAX	076-263-5340		
E-MAIL	nishi-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/nishi-e/				

◆教育目標 学校教育目標に「生きる力を身につけ、可能性を追求する児童の育成」を掲げ、知・徳・体の育成に取り組む。身近な環境や人々との関わりを通して、持続可能な社会の構築を考え実践する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 高層マンションの立ち並ぶ新しい町と自然豊かな田畑に民家の立ち並ぶ昔ながらの町が入り混じった地域にある。地元民の誇りである江戸時代からの「天保義民」の話と、世界創造都市金沢が提携する海外7姉妹都市の庭園を集めた「姉妹都市公園」があり、過去と未来が交差する地にある。2010年7月にASPnetに加盟し、地域学習を通して持続発展教育に取り組んでいる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 国際理解● サブカテゴリ
交流活動 食(食物作り)

対象者 5年生

対象人数 71人

食でつながる地球プロジェクト 「つなげよう!わたしたちの世界」



留学生とロシア料理の会食



留学生とロシア料理の調理



アートマイルプロジェクト活動で絵に色をつけているところ

活動目的

国際理解・交流活動は地元地域を振り返るきっかけ、世界を知るきっかけとなる。またいずれ共に働くであろう同世代の仲間が何を考えているかを知る手段として大いに参考となると考え取り組んでいく。

活動概要

- ①米作り体験：米や加賀野菜作りから食物生産の苦楽を体験。日本の伝統的な食文化について地域の方から教わる。協力、思いやり、様々な人との交流を大事にすることを学ぶ。
- ②世界の食文化：金沢の食文化、日本の食文化、世界(金沢姉妹都市)の食文化を調べる。姉妹都市公園にて金沢市国際交流員の方から各国の文化を紹介してもらい、教室では食文化を中心に海外の方から説明を受ける。イメージしていた食文化の相違を学習。
- ③アートマイルプロジェクト：ロシア・イルクーツ市の小学校と交流。大学教員から活動について説明を受け、イルクーツ市からの留学生からロシア文化の説明を受けロシアの家庭料理を一緒に作り会食をする。「日本の食とロシアの食」をテーマに絵を作成。

お お さ か ふ り つ き た よ ど こ う と う が つ こ う

大阪府立北淀高等学校



写真右：大島教諭

発表者名

お お し ま ひ ろ か ず
大島 弘和

役職

指導教諭

担当教科・学年

国語、教養・1～3年生

交流会感想

金沢の地では教育委員会や行政が率先してユネスコスクールとESDを推進されており、ESD推進の面から大変素晴らしいと思います。ユネスコやESD理念に共感すれば、年齢、学力を越えて学び合え、そこにこそ本当の学びがあるような気がします。

学校情報

学校長	ふじわら ひでひこ 藤原 秀彦	全校生徒数	750人	教員数	68人
所在地	〒533-12 <small>おおさか ふ おおさか し ひがしよどがわ く とよさと</small> 大阪府大阪市東淀川区豊里2-11-35				
TEL	06-6328-2331	FAX	06-6328-2948		
E-MAIL	asp@kitayodo-osaka-c.ed.jp				
HP	http://www.osaka-c.ed.jp/kitayodo/				

◆**教育目標** 生徒は多様な生活背景を持ち、学習面を含む様々な課題を抱えている。生徒たちの高校生活への思いを支え、自ら進路を切り拓く逞しい社会人へと育成する。その為に生徒の自尊感情や自己肯定感を高め、ルールやマナーを尊重し規範意識を育てるよう、学校がチームとして取り組む。

◆**地域の特徴・これまでの活動実績** 学力や生活面での課題を抱えた、いわゆる「しんどい子」の自尊感情と自己肯定感を高める取り組みのひとつとして国際理解教育を行う。大阪教育大学附属高校池田校舎、羽衣学園高校の3校で学び合いのネットワークを立ち上げ、中国・韓国・タイ・フィリピンのASPnet校と交流活動を続けている。2010年より小中高大学生が学び合う場として「学び合いワークショップ」を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 国際理解

● サブカテゴリー
自己発見

対象者 1～3年生

対象人数 750人

学びあうこと・つながること



留学生との交流の様子



活動目的

生徒の自尊感情の回復と自己肯定感の醸成を意図して行われたこれまでの教育実践の延長上にあり、自分を大切にすること、他人と繋がるようとする態度を育むことを目標とする。同時に人としての振る舞いや態度に気付くことも期待する。

活動概要

30年ほど前に深刻な「荒れ」に直面し、以降学区の最底辺に位置づけられてきた。そんな「教育困難校」の立て直し過程での取り組みが国際理解教育である。2000年秋にJICAの協力で講演、映像鑑賞、海外の学生との交流を企画した。2002年より先行実施された総合的な学習として年間カリキュラムに国際理解教育を組み込み、学校総体としての取り組みとした。国際理解教育とは、語学力のみの学習ではなく新しい（本来の）自己発見、社会の中で自己を感じさせることであり、受容される自己という感覚を養う営みである。本校の取り組みは地域社会の人材育成であり、「共生」社会のパートナーづくりとも言える。本校が抱える学力や規律の問題に対して、ESDを意識した取り組みはASP委員会が企画立案し学校全体で取り組まれる。その成果は生徒の態度や振る舞い、将来の希望の多様性に表われている。

いし かわ こう ぎょう こう とう せん もん がっ こう

石川工業高等専門学校



発表者名

おお た のぶ こ
太田 伸子

役職

一般教育科 教授

担当教科・学年

英語・本科1年～5年、
専攻科1、2年生

交流会感想

世界的にも数少ない楔形教育による技術系高等教育機関として、その知と実績を生かし、ESDによる協力、共感、価値の増加について期待される役割を担い、広く世界に貢献していきたいとの思いを新たにしました。

学校情報

学校長	むらもと けんいちろう 村本 健一郎	全校学生数	1,111人	教職員数	116人
所在地	〒929-0392 いしかわけん かほくぐん つばたまちきたちゅうじょう 石川県河北郡津幡町北中 条タ1				
TEL	076-288-8000	FAX	076-288-8014		
E-MAIL	s-somu@isikawa-nct.ac.jp				
HP	http://www.isikawa-nct.ac.jp/				

◆**教育目標** 本校の教育目標を「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者養成のための高等教育機関」とし、本科に「幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できること」、専攻科に「国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できること」の教育目標を掲げる。

◆**地域の特徴・これまでの活動実績** 従来より技術者教育において、専門分野に加え環境問題、地域・国際社会を理解できる人材の育成という視点から、教育計画を進め、ものづくり活動、クリーンアクトなどESDを実施してきた。また「出前授業」やキャラバンカーによる情報発信など、地域への様々な環境教育、国際社会理解活動を実施している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 国際理解

● サブカテゴリー
交流活動 自然・環境

対象者 本科1～5年生、専攻科1、2年生

対象人数 1,111人

国際的視野を持つ環境配慮型人材育成の 総合的取り組み



ESD日米教員学生
交流プログラムの
集合写真



イングリッシュワークショップの様子



学年単位の留学生講演会の様子

活動目的

活動実績のある「河北潟 GP」や能登地震復興支援 GP から環境改善を目標とした教育システムの構築や海外協定校との交流活動、4年次の海外研修の拡充を図り、国際的視野を持つ環境配慮型人材の育成を目的とする。

活動概要

〈教育課程〉T字型知識体系により、専門性と環境に関する知識を基に問題解決できる技術者を育成する。
〈環境リテラシー〉河北潟を環境教育の「実験道場」とし、人文学系教育と専門科目の学科横断で環境教育を行い、「出前授業」等により広く地域の学校・産業界へ情報発信をする。

〈国際的視野の育成〉エンジニアの育成として、学生の海外研修支援、教員の国際交流、EU大使等の各種多様な講演会、留学生への日本文化の理解支援を行う。ESDを基礎とした専門教育として米国教員訪問の受け入れを行う。英語教育に関しては、海外校との交流、多読多聴図書整備、科学技術英語教育の実施を行い、全国英語プレゼンテーションコンテストでは過去2回の全国優勝を遂げている。

いし かわ けん りつ かな ざわ にし こう とう がっ こう
石川県立金沢西高等学校



発表者名

み つ の ま す み
三津野 真澄

役職
教諭

担当教科・学年
理科(地学)・2年生

交流会感想

地元の石川県でこれほど熱心にESDが取り組まれている事実に驚きました。各学校が地域の特性を生かし、地域と協力しながら個性的な活動を展開していることは、大変素晴らしいと思うと同時に参考になりました。

学校情報

学校長	へいばたけ としむこ 平 田 敏彦	全校生徒数	960人	教員数	87人
所在地	〒920-344 石川県金沢市畝田東3-526 <small>いしかわけんかなざわしうねだひがし</small>				
TEL	076-268-4321	FAX	076-268-7329		
E-MAIL	nishi@m1.ishikawa-c.ed.jp				
HP	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~nishih/				

◆教育目標 教育目標：①自主的、意欲的な学習態度の確立 ②健全な心身の育成 ③豊かな情操の涵養と礼儀正しく明るい校風の樹立 重点目標：①生徒の多様性に応じた学習形態・内容の発展 ②自己教育力の育成と進路希望実現の学力の定着 ③国際化の中での異文化理解・尊重とコミュニケーション能力の育成

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢駅西地区に立地し、県庁移転を契機に事業所・店舗、高層住宅が建設され人口が急増するが、集合住宅が多く地域活動は低調気味で学校と地域の連携も活発ではない。今後ESDをより発展させるために、地域との連携を課題としている。活動実績として、約20年間活発に行ってきた国際交流活動、約10年間続くリサイクル等の環境保全活動がある。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

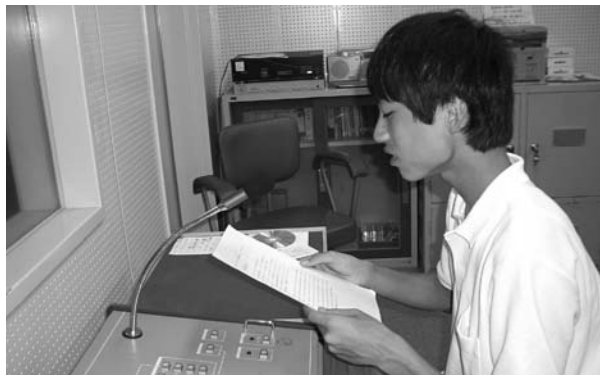
メイン
カテゴリー | 国際理解

●サブカテゴリー
自然・環境(エコロジー)

対象者 1～3年生

対象人数 960人

NIC (西高国際交流委員会) と ENA (エコ西高アクション)



ENA(エコ西高アクション)委員が行うエコ放送



月2回更新されるENA掲示板

活動目的

NIC (西高国際交流委員会) : 広く地球に目を向け活躍できる生徒を育てる

ENA (エコ西高アクション) : 地球環境を考えて行動できる生徒を育てる

活動概要

〈NICの活動〉

約20年前に生徒会の1つとして組織され、国際交流

活動のリーダー役を務める。

- ① 姉妹校のオーストラリア・テリガル高校との短期交換留学生 (毎年約20名)
- ② アメリカ等からの長期留学生の受け入れ (毎年1名)
- ③ 韓国修学旅行 (上岩高校訪問と少人数グループでのホームビジット・タウンビジット)
- ④ JICAやJETによる国際理解講座の実施

〈ENAの活動〉

10年前に「いしかわ学校版環境ISO」の初代認定校となり活動を開始。

- ① 活動当初より紙リサイクル、温室効果ガス・廃棄物等の環境負荷削減。
- ② 2011年度より「ENAプロジェクト」が開始。推進役に「生徒ENA委員会」を組織化し、校内や周辺で出来る省エネ活動やごみ拾い、学校から排出されるCO2の算出。
- ③ 科学部は学校横を流れる新大徳川の水質・生態調査とデータの公表。
- ④ 学校近くの海岸松林の松枯れ調査と整備活動を計画中。(地域との連携を模索)

じ や い か ほく りく
JICA 北陸



発表者名

やま ぐち やす のり
山口 泰範

役職

市民参加協力調整員

担当

開発教育支援事業

交流会感想

外部と学校現場との連携には双方の抱える課題が問題であり、お互いが求めているものを調整する為の改善策を見つけることが今後のESD推進の重要点であると認識できたことは、交流会に参加した大きな収穫です。

所属先情報

所属先長	とも べ ひで き 友部 秀器	役職: 支部長	職員数 7人
所在地	〒920-0853 いしかわけんかなざわ し ほんまち 石川県金沢市本町1-5-2リファアーレビル(オフィス棟)4階		
TEL	076-233-5931	FAX	076-233-5959
E-MAIL	jicahric@jica.go.jp		
HP	http://www.jica.go.jp/hokuriku/index.html		

◆活動概要 開発途上国の社会・経済発展のため、日本政府が行うODA(政府開発援助)の実施機関である独立行政法人国際協力機構(JICA)は、途上国で様々な国際協力事業を展開。その一環として市民の方々の国際協力への理解と参加を推進するため、開発教育支援事業を行っている。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 JICA北陸では、開発教育支援事業を通して、途上国の課題や途上国に依存する日本の状況と日本と途上国の共存共生の必要性の理解促進のため、青年海外協力隊経験者やJICA職員による学生等を対象とした国際協力出前講座や教職員対象の開発教育指導者研修などを実施している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 国際理解

●サブカテゴリー
人材育成 学校支援

対象者 ①教員 ②中学1年生

対象人数 ①8人 ②160人

①2011年度教師海外研修事業 ②国際協力出前講座(於:石川県金沢市立紫錦台中学校)



教師海外研修の様子



教師海外研修に随行(右から2番目が山口氏)

活動目的

- ①小・中・高及び支援学校教員や指導主事を対象に、具体性のある開発教育の実践を目指して、国内及びアフリカのエチオピアでの研修を行った約1年間のプログラム。
- ②青年海外協力隊経験者やJICA職員を中学校に派遣し、協力活動の体験談や開発教育ワークショップなどを通して、開発途上国の実情や日本との関わりなど理解の促進を図る。

活動概要

- ①事前研修では、海外の情報に基づく教材作りや参加型学習の手法などを学び、併せて研修国JICA事務所とTV会議による意見交換を実施。海外研修はアフリカのエチオピア連邦民主共和国を訪ね、「教育」「環境」「水」をテーマに、国際協力の現場見学や現地の教育関係者との意見交換などを行った。帰国後、海外研修の知見を共有検討して実践授業案を作成し、各々の所属校で開発教育の授業で実践した。最後にその成果と作成教材を公開報告会の場で発表。
- ②身体を使いながら世界の格差や多様性を体感する開発教育ワークショップ「世界がもしも100人の村だったら」を実施。また、青年海外協力隊4名による活動体験談を行い、生徒は事前に各隊員の派遣国について学ぶと共に、開発途上国と自分たちとの関わりや国際協力の必要性などについて学ぶ。

と やま けん と やま し りつ ご ぶく しょう がっ こう
富山県富山市立五福小学校

発表者名

あら せ むつ こ
荒瀬 睦子役職
教頭

交流会感想

ASPnet加盟年数や学校規模、地域の特色等それぞれ違いはあるが、ESD推進にあたっての共通点や抱えている課題等学ぶべきものがたくさんありました。また会場後方に展示してあった資料に参考となるものが多かったです。

学校情報

学校長	やなうち せいじ 柳内 誠治	全校生徒数	439人	教員数	25人
-----	-------------------	-------	------	-----	-----

所在地	〒930-0887 とやまけん とやまし ごぶく 富山県富山市五福3994
-----	--

TEL	076-432-4786	FAX	076-432-4971
-----	--------------	-----	--------------

E-MAIL	gohuku-es@tym.ed.jp
--------	---------------------

HP	http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama008
----	---

◆教育目標 学校教育目標を「知・徳・体の調和がとれた児童の育成－自立と共生を目指して－」とし、夢や希望をもって可能性に挑戦し、家族や地域、世界や自然と共に支えあって学ぶ子どもを育む。「児童も職員も明るく楽しく元氣よく、前向きな学校」を目指し、重点目標を学力の向上とESD教育の推進とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 城跡の高台に校舎があり、富山大学や中学、高校、保育園、運動競技場を有す文化的かつ自然豊かな地域である。地域・保護者は教育への期待が大きい。基礎学力の定着や挨拶運動等に取り組み、文部科学省指定「学力向上フロンティアスクール」県東部教育課程研修会「図画工作科部会」として研修を進め、2010年にASPnetに加盟する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー
自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 439人

本校のESD活動の取り組み状況 ～各学年の核となる教育活動やその方法、抱える課題などについて～



「ひらこう世界のとびら」



「むかしのあそびにチャレンジ」

活動目的

- ①小学校6年間での学びの系統性や育てたい子ども像を明確にし、年間の見通しをもって取り組んでいく。地域の特色や自然・人の魅力を再認識する機会とする。
- ②生活科や総合的な学習の時間、各教科の学習を体系付けたり、見直したりしていく。さらに、教師の全体構想力を高め各教科との連携を考えた上で、学習における柔軟な指導力や授業力を培う契機としたい。

活動概要

活動目的①について

- 1年生：「昔のあそび名人にちょうせん」…高齢者を講師に招き祖父母学級を開く。
- 2年生：「どきどきわくわく町たんけん」…地域の方や保護者と五福町を探検。
- 3年生：「五福トレジャーハンター」…地域の方へのインタビュー。
- 4年生：「ホテルの里から発信しよう」…ホテル保存会を講師として招聘。
- 5年生：「めざせ米の達人」…もち米作りに挑戦。地域の米作り名人が講師として来校。
- 6年生：「ひらこう世界のとびら」…保護者や地域に住む外国の方を講師として呼ぶ。

活動目的②について

地域・外国・大学等から講師が来校（インドネシア、コンゴ出身の児童保護者、富山大学教授等）。五福の特色を多角的に捉え地域の温かさを体感し、愛校心や自尊心を育む。

と やま けん ひ み し りつ あさ ひが おか しょう がっ こう

富山県氷見市立朝日丘小学校



発表者名

さか た かず ひこ
坂田 和彦

役職
教諭

担当教科・学年
4年生

交流会感想

本校と交流のある仙台市立中野小学校の先生と直接交流でき、改めて被災した学校のことを考えるきっかけとなりました。本当の交流は活動そのものではなく、人との結びつきで行うのだと気付かせてもらいました。

学校情報

学校長 おおしま みつる 大嶋 充 | 全校生徒数 290人 | 教員数 20人

所在地 〒935-0023 とやまけん ひ み し あさひがおか 富山県氷見市朝日丘3-10

TEL 0766-74-8422 | FAX 0766-74-8423

E-MAIL asahigaoka@ed.city.himi.toyama.jp

HP <http://www.city.himi.toyama.jp/~60010/>

◆教育目標 「規律を守り強く正しく自分をひらいていく子ども」を目指す。約束やきまりを守ろうとする意識や行動を確実に身に付けることは、今日最重要の課題である。生きる上で最も大切な「規律を守ること」を念頭に置き、その上で正しいこと、美しいものを追究し、力強く生きる子を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 能登半島の付け根に位置し、校区は市街地を中心とするも海を隔て立山連峰が見渡せる。地域も保護者も学校に協力的で、一体となって様々な活動に取り組んでいる。2007年度から「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」21年度から「とやま型学力向上プログラム実践教育事業」2011年度から「富山県小学校教育研究会の社会科研究推進校」に指定され研究を進めている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー
いのち

対象者 1～6年生

対象人数 290人

自分たちにできること ～東日本大震災を通して～



仙台市中野
小学校へ募金、
手紙を届ける

活動目的

- ①震災について調べ、話し合う活動を通して、自分自身の行動を考え実践する意欲を高める。
- ②人間や社会との関わりにおいて、自らの生活や行動を見つめ社会の一員としての役割を問い続け、自己の生き方の考えを深める。

活動概要

ユネスコスクールとして初めての活動が、東日本大震災被災者への募金等の活動である。児童会の呼びかけで募金活動を行い、被災した仙台市中野小学校に手紙やビデオレター、千羽鶴やベルマークを送った。震災に関する調べ学習を通して問題意識を高め、現地へボランティア活動に行った方の講話を聞き、被災地で必要とされているものを切実に感じられるようにする。

東日本大震災関連の実践以外にも全学年でESDに取り組み、本校の道徳教育三本柱「きらきら（全ての命を大切にしよう）」「ほかほか（思いやりの心を持とう）」「いきいき（夢や希望を持ってよりよく生きよう）」を常に意識するようにしている。ESDも当たり前のことを地道に実践することが最も大切だと考える。

いし かわ けん かな ざわ し りつ あさ の がわ しょう がっ こう

石川県金沢市立浅野川小学校



発表者名

にし の さと こ
西野 聡子

役職
教諭

担当教科・学年
2年生

交流会感想

児童が実践した活動を生活に生かしたり広めたりする中で目的意識だけでなく相手意識も明確にするには、ユネスコスクール間の交流は必要不可欠であると大会に参加して痛感しました。

学校情報

学校長	ひがし みのる 東 実	全校生徒数	379人	教員数	24人
所在地	〒920-0207 いしかわけんかなざわし すざきちょう 石川県金沢市須崎町字42				
TEL	076-238-2034	FAX	076-237-1432		
E-MAIL	asanogawa-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/asanogawa-e/				

◆教育目標 「未来を見つめ、心を拓く」を教育目標とし、校訓「強く・正しく・優しく」を柱に「心身ともに健やかな児童の育成を図れる学校」の学校像、「すすんで学ぶ子・思いやりのある子・健康で明るい子」児童像、「魅力ある授業・研鑽する心・信頼される姿」教師像を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 1983年に開校。近くを流れる浅野川とともに生活し、絶滅したオニバス、絶滅の恐れのあるミズアオイの生息地であり、自然共生の難しさ大切さを地域と協力しながら学んでいる。他学年や家族、地域とのつながりを軸に、1～3年生は校区の自然観察から環境への取り組みを、4～6年生は国内外の学校間交流活動から町の伝統文化への取り組みを行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

●サブカテゴリー
自然・環境 伝統文化(工芸)

対象者 1～6年生

対象人数 379人

大好きな校区・じまんの金沢を広めよう ～地域へ、世界への発信を通して～



6年生：交流相手から送られてきた写真



1年生：なかよし作戦

活動目的

「生き生きと表現する子」を目指し「知る」「関わる」「考え行動する」「広める」の学習活動を意識する。児童の探究心を基に児童自らが考え追究した内容を、具体的に相手意識をもって広め、今後の生き方に反映する実践力を全校で養う。

活動概要

1年生は「なかよしいっぱい・みんなだいすき」をテーマに校内や地域の方、入学予定の年長さんとの交流を行う。

2年生は「みんなあつめれ、やっほっほい」をテーマに校区の自然と触れ合う。

3年生は「浅野川小学校ワールド みんなで自然博士になろう」をテーマに地域の生態調査を行い、その内容を生き物マップや絵手紙などで表現し校内や地域に広める。絶滅したオニバスのいた頃の環境を地域の方から学び、環境保全学習や地域への愛着・関心を持つ。

4年生は「伝統工芸のまち・かなざわ」をテーマに金沢市や石川県の伝統工芸を体験学習する。

5・6年生では金沢調査として加賀野菜や武家屋敷について学習。同時に台湾の志開小学校とのアートマイルプロジェクトを行う。

いし かわ けん かな ざわ し りつ はな その しょう がっ こう

石川県金沢市立花園小学校



発表者名

いし くら いずみ
石倉 泉

役職
教諭

担当教科・学年
3年生

交流会感想

学校以外の方や公共機関の方も参加されており、ESD教育に関心をもっているのが分かった。そしてこの取り組みは学校だけで行うのではなく、広く社会においても必要とされているのだと思った。

学校情報

学校長	ちようじ ちえこ 丁子 智恵子	全校生徒数	132人	教員数	16人
所在地	〒920-0106 <small>いしかわけんかなざわ しいまち</small> 石川県金沢市今町又34				
TEL	076-258-0133	FAX	076-258-3381		
E-MAIL	hanazono-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/hanazono-e/				

◆教育目標 本校は自然や人間関係が豊かな地域で、心豊かに成長できる環境にある。しかしクラス替えがなくお互いを良く知っていることからか、自己表現が苦手で学習意欲も高くはない。そこで互いに交流する中で、集団で学ぶ楽しさ・喜びを感じられるように「心豊かで向上しようとする子の育成」を教育目標に掲げている。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市最北に位置し、1876年に開校した。豊かな田園や緑の山々に花や草木が彩りを添える地域で、花園の名は藩政時代から「花作りの里」で栄えたことに由来する。また、台湾のダム建設に尽力した八田與一の母校でもある。昨年ASPnetに加盟し、地域やその人々をテーマに持続発展学習に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

サブカテゴリー
食(稲作)

対象者 6年生

対象人数 132人

つながり合おう!ふるさと花園から ～出会い・ふれ合い・学び合い そして、発信!～



ジャパニントで台湾から来ている留学生と交流



三味線の練習(公民館で)



田植えをしているところ

活動目的

子ども達は自然や文化、人と出会い、ふれ合いその良さや課題を学ぶ。さらに学習内容を発信することで、新たな学びを獲得する。この活動を軸に「ふるさと花園」から学んだ「つながり」を生かし、これからの課題に立ち向かえる子どもを育成する。

活動概要

1年生：友だちや家族とのつながりを深める「みんななかよし大作戦」や「お手伝い大作戦」、季節の自然に触れる学習を行う。
 2年生：1年生とお祭りを企画し、年長さんを招待する。また自己の成長を振り返り、命の大切さを学ぶ。
 3年生：地域で行われている菊作りを体験学習する。
 4年生：地域民謡「花園めぐり」から町の言い伝えを調べ、太鼓や三味線、歌の演奏を学ぶ。
 5年生：米や金時草を中心に食について学習する。また実際に稲作をし、今と昔を比較学習する。
 6年生：台湾のダム建設で有名な我が校出身の「八田與一」について学び、台湾の留学生を招待して学習内容の発表や、日本の遊びや文化を体験する。台湾の嘉南小学校とはテレビ会議での交流も行っている。

いし かわ けん かな ざわ し りつ みん ま しょう がっ こう

石川県金沢市立三馬小学校



発表者名

なか むら あき こ
中村 晶子

役職
教諭

担当教科・学年
6年生

交流会感想

金沢市立西小学校では、1年間で総合学習の時間の担当を代え、多くの教員がESDに関わり、全員野球でやっているという分科会での校長先生の言葉が心に残りました。

学校情報

学校長	しまづ けんいち 島津 健一	全校生徒数	752人	教員数	50人
所在地	〒921-8164 いしかわけんかなざわし ひさやす 石川県金沢市久安6-154				
TEL	076-243-2261	FAX	076-243-2262		
E-MAIL	minma-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/minma-e/				

◆教育目標 日々変化する社会で出会う問題や困難に対し、自ら進む判断と力、自然や社会、人に温かく働きかけ、豊かなつながりを築いていく力、問題や困難に持てる知識で思考・判断し伝える力を「自ら律する力を養い、感じる心、考える力」と捉え、子どもを育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市の南部に位置し、創立137年を迎えた伝統ある学校である。伏見川や田園地帯と住宅街、商業地のある古い町並みと新しい町並みが混在する地域である。2年間、地元生産者を迎えて、地産地消品や伝統的食文化の学習を行っている。また国際協力として20年以上マダガスカルへ「オレンジ作戦」を行っている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 交流活動

● サブカテゴリ

福祉 将来・職業 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 752人

共に生きる 未来に生きる ～三馬から 地域へ、世界へ



6年生の総合学習
アナウンサーから
お話を聞いている
様子



金沢を学ぼう～茶道体験～

活動目的

植物や野菜の栽培、地域、福祉、環境、国際理解、キャリア教育と今日的課題を隈なく学習し、様々なつながりを大切にする子どもを育てる。学年を追う毎に学習視野を広げ、考えを発信できる力を育む。

活動概要

校区が住宅街にあることから、福祉、環境、国際理解、キャリア教育と、様々な分野を学習する。3年生では地域のお年寄りとの交流会、4年生では高齢者、障がい者を講師に福祉を学び、5年生では近く

を流れる伏見川の環境から地球環境を考える。6年生はキャリア教育・国際理解を軸に、自身の憧れの職業人に手紙を書き、対話や質問用紙の回答を実施する。実際に20名の様々な業種の方が来校し、プロスポーツ選手から手紙もいただいた。仕事をする上で大切にしていることを聞き、なぜ多忙な中、来校してくれたかを考え、ESDの視点で、子どもたちが次の社会の担い手であることを自覚させる。更に障がいがありながら働く方からも講話を受け、多くの世界に目を向ける大切さも気づかせる。

いし かわ けん かな ざわ し りつ み たに しょう がっ こう

石川県金沢市立三谷小学校



ハイタッチ挨拶で児童を迎える井田校長

発表者名

い だ まさてる
井田 正輝

役職
校長

交流会感想

指導されている先生方から具体的な内容を直に聞くことで、苦労や効果の出ないところ、それでもめげずに工夫していることが自分たちと重なり、次への活力となりました。

学校情報

学校長 い だ まさてる 井田 正輝 | 全校生徒数 42人 | 教員数 11人

所在地 〒920-0153 いしかわけんかなざわしみやのまちに 石川県金沢市宮野町二277

TEL 076-257-6464 | FAX 076-257-6464

E-MAIL mitani-e@kanazawa-city.ed.jp

HP <http://www.kanazawa-city.ed.jp/mitani-e/>

◆教育目標 2011年度金沢市教育委員会重点施策・石川の教育振興基本計画・金沢市子ども条例等をもとに、本校の児童の実態を踏まえ具現化を図り教育目標に迫る。その為に確かな学力（知）・豊かな人間性（徳）・健やかな体（体）のバランスの取れた児童の育成を図る。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市北山間部に位置する。校区は大変広く豊かな自然を有し、地域の方々の指導や協力により自然の中での体験活動を行える。また近くに福祉施設や公民館、保育所があり、地域との温かい交流活動もできる。2010年度にASPnetに加盟し、ふるさと三谷を見つめながら子ども達の一人ひとりが豊かに暮らせる力を育成する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

**メイン
カテゴリー** | **交流活動**

 ●サブカテゴリー
 食(作物作り) 伝統文化(芸能) 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 42人

ぐるっと三谷 世界へ そしてまたふるさと三谷へ ～なかよく やさしく ゆたかに つながりあって みんなで生きていこう!!～



太鼓練習

活動目的

ふるさと三谷での様々な活動を通して、一人ひとりの子ども達が調べ、表現し、伝える力を身に付ける。また人との関わりを中心とした活動を楽しむ中で、つながりや自発性、国際感覚・地球感覚、コミュニケーション能力を養う。

活動概要

①「秋だ!実りだ!味わおう会」でつながろう!!

全校で田植え、稲刈り・こま、大豆、小豆の育成・ありがとうを伝えよう・学んだことを伝えよう…学校田で保護者や地域の方、JAの方の協力で田植えを行う。

②「つばめしらべ」「ほたるしらべ」で地域・自然を知ろう!! 伝え合おう!!

オリエンテーション・調査・調査報告会…縦割り活動で地域の調査や近所の方の情報を基につばめやほたるを観察

③たいこ・百万石音頭で元気に!!

地域の芸能やおどりを学ぼう、楽しもう・地域の先生の思いにふれよう・元気に表現しよう…校章にちなんだ楽譜を地域の方の指導で10年ぶりに復活させ、太鼓6張を購入し全校で参加。

④色々な人とつながろう!! 色々な人から学ぼう!!

市内2校と互いに学校訪問を行い、地域や学校の紹介を発表しあう。5、6年生は宿泊合同体験学習。

⑤ユネスコネットワークでつながろう!!

児童会を中心に広く呼びかけを行い文房具を集め、宮城教育大学を通して被災地に届ける。

お お さ か ふ り つ ま つ ば ら こ う と う が つ こ う

大阪府立松原高等学校



発表者名

さ と う と も み
佐藤 智美

役職
教諭

担当教科・学年
英語・2年生

交流会感想

学校毎に工夫や勉強会をしている先生もおり、刺激を受けました。小学校は動機付けや導入を工夫している点が高校とは違い、自分から課題を見つけることが苦手の生徒へ応用していきたいと思いました。

学校情報

学校長 ふるかわ と も こ
古川 知子 | 全校生徒数 840人 | 教員数 107人

所在地 〒580-0041 おおさか ふ ま つ ば ら し み や け ひ が し
大阪府松原市三宅東3-4-1

TEL 072-334-8008 | FAX 072-334-8142

E-MAIL -

HP <http://www.osaka-c.ed.jp/matsubara/>

◆教育目標 「人を思いやり、自分を鍛え、未来を描く、優しいチカラ」を学校コンセプトとする。一切の差別・落ちこぼれを許さない、地域に根ざした学校を作る運動の中、署名活動を行い作られた学校である。選択授業による多様な学び、人権・総合学習や部落問題にも積極的に取り組んでいる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 人権・ボランティア・国際・環境を四本柱とし、自ら課題を見つけ解決する力を育成する。HIV・AIDSの啓発活動を小中学校、大学で行う「るるく」や栽培した菜の花から油をとり、使用後にはディーゼルエンジンの燃料とする「菜の花プロジェクト」、「エコキャッププロジェクト」などに取り組んでいる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動● サブカテゴリー
いのち

対象者 1～3年生

対象人数 約840人

東日本大震災の支援を目的とした 持続発展教育の実現を目指す松高



募金活動



ピースワークにて支援助物資仕分け

活動目的

自ら提案し実行に移し、結果を振り返り次の行動へと移す。様々な活動を通し人との関わりの中で、体験的に「学びの循環」を定着させ、「気づき」や「深い学び」をねらいとする。本当に支援を必要とする人のために、必要なときに自発的に行動する力を育成する。

活動概要

①東日本大震災：生徒の自発的な発案により生徒自治会を中心に、約1週間、松原市や大阪市内の駅で街頭募金活動を実施。約170万円を日本赤十字社に贈る。②スリランカスタディツアー：現地の高校にて東北被災地の現状を報告する。③気仙沼ボランティア：現地で直接力になりたいという生徒の声から、13名の生徒がゴールデンウィーク期間に気仙沼でボランティア活動を行う。感じたことや多くの学びを色々な場所で報告会として披露する。④ピースワークショップin岡山：毎年夏休みに広島や長崎で戦争や原爆の学習を行う。今回は岡山で震災と国際ボランティアについて学ぶ。支援助物資の仕分けやひまわりプロジェクト（放射能除去と農家を元気付けるため福島にひまわりの種を送る取り組み）を実施。全校への報告会を行い学校全体での平和学習につなげる。

おおさか ふ りつ だい がく ・ おおさか えーえすびー ね っ と

大阪府立大学・大阪 ASPnet ネットワーク



ワークショップで相子じゃんけんの説明をしているところ
(写真中央 伊井准教授)

発表者名

い い なお ひ ろ
伊井 直比呂

役職

大阪府立大学 准教授
大阪ASPnetネットワーク事務局長

担当教科・学年

人間社会学部 人間科学学科

交流会感想

地域文化と環境の複合的な発表を多く聞けて、盛んな様子とこれまでの学習成果が確実にユネスコスクールの実践につながっていると感じ、各校に敬意を表します。

所属先情報

※下記は大阪府立大学の情報です。

所属先長	おくの たけとし 奥野 武俊
所在地	〒599-8531 おおさか ふ さかいしなか く がくえんちやう 大阪府堺市中区学園町1-1
TEL	072-254-9791
FAX	072-254-9791
E-MAIL	—
HP	http://www.osakafu-u.ac.jp/

◆教育目標 日本のみならず世界の研究型大学の変革の起点となり、地域に信頼される知の拠点となるべき基本理念を表す言葉として、高度研究型大学 —世界に翔く(はばたく)地域の信頼拠点— を掲げる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 大阪ASPnetにより大阪や京都、兵庫のユネスコスクールと学び合っている。2010年は小中高18校とユネスコスクール加盟高校を卒業した大学生組織(大学ASPnet)で「夏の学び合い2010」を行う。2011年は文部科学省委託事業として、アジア諸国の小中高大学生233名で『アジア・太平洋 小中高大学生ESDワークショップ』を能勢町諸施設で開催。過去にはアジア・北欧7ヶ国高校生国際会議(2008)も開催。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー
食(生産・消費) 自然・環境

対象者 小中高大学生(日・韓・中・タイ・フィリピン)

対象人数 200人

「アジア/太平洋 小・中・高・大学生国際ワークショップ、2011」



参加者全員での集合写真



中国・フィリピンの先生と生徒たちと
(写真右伊井准教授)

活動目的

未来を担う一人として「持続可能な未来」作りに参加するため、多様な視座から地域と地球規模で問題を理解し、当事者として関わり合う「若者世代」としての連帯感を深める。教員は「生徒の学び」からその可能性を学ぶ。

活動概要

来日した韓国、中国、タイ、フィリピンの小中高大学生から大阪府立大学でESD実践報告を聞く。日本からは大阪府豊能町立東能勢小学校と大阪府立

松原高校が代表で報告を披露。

大阪府立能勢高校実習農場にて「持続可能な生産と消費」を考えるフィールドワークを行う。能勢町の農産物としてブランド米と古代米について農業科教諭や実習技師から説明を受ける。また能勢町はダイオキシン汚染から復興した町としても有名であり、人工汚染物の被害から地震や原発問題を考えるきっかけとし学習する。

環境と人の営みを題材としたESD紙芝居を鑑賞し、小中高大の縦割りファミリー内で意見交換、その成果をファミリー全員で絵にして発表した。

能勢町の棚田を見学し、技術や思いの伝承、受け取る責任を学び、感想文を書く。

金沢市・気仙沼市の両地域交流会に参加

すず か し きょう いく い いん かい じ む きょく し どう か
鈴鹿市教育委員会事務局指導課



発表者名

たか ふじ とみ こ
高藤 富子

役職
副参事

交流会感想

改めて普及の責任を感じた。ユネスコスクールとして取り組む4分野は本市においても全て子どもが身近に感じる状況にあり、積極的に取り組み意義がある。世界的な情報網を活用し、多くの交流から地球規模で生きる子どもを育みたい。

所属先情報

所属先長 すず き ひでふみ 鈴木 英文 役職:課長

所在地 〒513-0801 み え けん すず か し かん べ 三重県鈴鹿市神戸 1-18-18

TEL 059-382-9028

FAX 059-383-7878

E-MAIL shido@suzuka.lg.jp

HP <http://www.city.suzuka.lg.jp/kyoiku/>

◆教育目標 「未来を拓く 心豊かでたくましい 子どもをはぐくむ 鈴鹿の教育」を教育努力目標とし、家庭・学校・地域が一体となり学びと安全安心のネットワークの充実を図る。また様々な特性や背景の違いを理解し、共に学び育ち合える機会と自立の力を育む学習環境の平等を保障すべく、持続可能かつインクルーシブな教育環境を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 確かな学力を育む為に、少人数教育の充実を核として個に応じた指導や授業の工夫改善に努めている。更にきめ細かな指導の一層の充実を図るべく、地域や保護者を学習支援ボランティアとして登録し学習上のつまづき解消や学習意欲の向上支援をし、2010年度までに約1000名の登録がある。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

交流活動

● サブカテゴリ

伝統文化(産業) 人権 福祉

対象校 鈴鹿市立飯野小学校、神戸小学校、牧田小学校、鼓ヶ浦中学校、神戸中学校

対象人数 ー

市内すべての学校で コミュニティスクールを導入

活動目的

子どもの健やかな成長には、学校・家庭・地域の役割が重要であり、家庭・地域の協力を具体的に進める必要がある。この第三者による相互信頼に基づく関係への改善を通して、学校を拠点とした「地域作り」へ発展させたい。

活動概要

5つの教育施策を「鈴鹿五策」として、重点的に推進する。

- ① 少人数学級の編成を核とした少人数教育で、一人一人の子どもたちの能力や特性に応じた、きめ細かな指導と支援に努める。また日々の授業を中心とした教育活動の工夫と改善を図り、誰もがわかる喜びを実感し、学ぶ意欲を高める取り組みを進める。
- ② 伊勢型紙や鈴鹿墨等の伝統産業、農業や漁業、近代的な自動車産業のモノ作りの盛んな地域基盤を生かし、新しいものを創る素晴らしさ、働くことの楽しさ、厳しさを知るとともに、人と関わることを通して、夢や希望をもった生き方について学ぶキャリア教育を推進する。
- ③ 多くの外国人児童生徒が在籍する環境で、人権の視点を大切にしながら外国人児童生徒に一定水準の教育を保障する外国人児童生徒教育の推進を図るとともに、学力保障と結びついた日本語指導や適応指導を行う全市的な循環型システムの効率的な運営に努める。
- ④ 障がいの有無に関わらず平等に学習に参加できる教育環境作り。保護者との密接な連携による“困り感”のある児童に対し、保護者との密接な連携を図り、就学前から義務教育終了までの総合支援を推進。
- ⑤ 学びと安全安心、2つのネットワーク作りの充実。

いし かわ けん かな ざわ し りつ の まち しょう がっ こう

石川県金沢市立野町小学校



発表者名

あかい ゆみ
赤井 優美

役職
教諭

担当教科・学年
2年生

交流会感想

環境をテーマとする学校が多く、伝統文化をテーマとする学校が少ない印象を受けました。似たテーマの学校を探し連携することが、子ども達の力になると実感しました。

学校情報

学校長	しんざわ ひろし 新澤 博志	全校生徒数	195人	教員数	15人
所在地	〒921-8031 <small>いしかわけんかなざわしのまち</small> 石川県金沢市野町3-11-1				
TEL	076-241-8318	FAX	076-241-8319		
E-MAIL	nomachi-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/nomachi-e/				

◆**教育目標** 教育は誠意と熱意をもって為し、次世代に正義を伝えるものである。野町小学校では、財産である校下の伝統、校風及び培ってきた教育課程を今・現在に継承し、未来につなぐ。その過程でよりよきものは受け入れ、教育の不易と普遍を創り生み出す。以上より「伝承と創生の教育」を目標とする。

◆**地域の特徴・これまでの活動実績** 加賀藩の仏具等の伝統文化を創出し支え、平安から鎌倉時代の全宗派、52ヶ寺を持つ他に例を見ない地域である。子どもは地域の宝とし、温かい眼差しで子どもを育てる気風が根付いている。12月に行う「あんずっこ発表会」の他に、研究の為に単元構成や地域との連携体制の構築、調査方法の指導などを行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(継承)

対象者 1～6年生

対象人数 195人

ESDカリキュラムと各学年の取組

3年生
野町の獅子舞を学ぶ

4年生加賀友禅について発表

活動目的

21世紀を担う児童が「知識基盤社会」を力強く生きるため、「地域」とそこに生きる「人」そして「自分の存在」を柱に豊かな体験活動を通して、「地域社会の在り方」や「自分の生き方」を探求する。

活動概要

各学年の系統性を大切にゴールである6年生の「自分の生き方」の探求に迫る。また、他教科と同じ観点で評価し、年間計画の作成と常に加除修正を行う。

1年生は「野町の伝承あそび」をテーマに地域の高齢者から昔の遊びを学び、保育園児に伝承する。2年生は「野町の言い伝え」をテーマに寺の住職から民話や寺の言い伝えを聞き、再現する。3年生は「野町の伝統芸能」をテーマに獅子舞復興に取り組む方々からの学びを積み重ねる。途絶えそうな野町の獅子舞を古いビデオや公民館の方から学び、手作りの獅子頭で演じる。4年生は「職人の生き方」をテーマに加賀友禅の伝承をする。制作の工程を知識として職人から学び、実際に自分の友禅を作る。5年生は「人間関係力の探求」をテーマに計3回の「赤ちゃん登校日」を行う。6年生は「自分の生き方」の探求として、地域出身の偉人を調べる。これらの学習は「あんずっこ発表会」で成果を発表する。

いし かわ けん かな ざわ し りつ もり やま ちょう しょう がっ こう

石川県金沢市立森山町小学校



発表者名

やま むら かおる
 山村 薫

 役職
 教諭

 担当教科・学年
 図工専科、総合的な学習の時間

交流会感想

地域のひととの絆や交流を大切に、地域の文化を大切に思う気持ちが大事であり、これからも地域の一員として学び、何が出来るか考えていく子どもを育てることが、地域にある学校として大切であると考えます。

学校情報

学校長	<small>たけなか すみえ</small> 竹中 澄枝	全校生徒数	348人	教員数	22人
所在地	〒920-0843 <small>いしかわけんかなざわ し もりやま</small> 石川県金沢市森山2-13-50				
TEL	076-252-6251	FAX	076-252-6252		
E-MAIL	moriyama-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/moriyama-e/				

◆教育目標 「自ら考え、心豊かに健やかに、たくましく生きる子の育成」の学校教育目標には、これからの社会を生きる子ども達が主体的に思考・判断・行動し自己実現できるようにとの願いを込めており、その姿を「たくましく生きる」とする。教育活動では基盤となる「知・徳・体」の調和を図る。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 昔ながらの街並みや商店が広がり、加賀友禅や金箔等の伝統産業が残る金沢市北部に位置し、創立131年を迎える歴史と伝統ある学校である。地域環境を生かし、友禅の製作や地域食材の「麩」を使った調理実習に取り組む。2009年にASPnetに加盟し各教科の連携を図りながら、伝統産業や地域文化を題材に学習を進める。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(産業)

対象者 1～6年生

対象人数 348人

地域の文化や人との絆をつなぐ ～金沢の伝統産業及びそこに携わる人々との交流を通して～



麩工場見学(車麩焼き)



麩調理実習

活動目的

- ①ESDの価値観を取り入れ「地域の文化や人とのつながり」を研究の視点として明確に位置付け、今までの実践を再構築する。
- ②「自己の生き方・絆づくり」として地域とのつながりを意識する力、自分には何ができるのかを考へ行動する力を育む。

活動概要

- 1、3年生：「発見!和菓子のひみつ」抹茶椀、和菓子作りの体験学習、地域の寺(心蓮寺)での茶会、

新聞や集会での発表・発信を行う。

- 2、4年生：「金箔箔」金箔箔の現状を学びながら、金箔体験教室での皿づくり、金箔工芸館での見学、職人や箔デザイナーとの出会い・学びに取り組む。

- 3、5年生：「麩を使ったレシピづくり」校区にある麩工場を見学し麩を味わい、麩を使った創作レシピを考える。加賀麩司宮田(工場)の社長や職人から「食に対する信念」「食の安全」「安全な郷土食品を提供する使命感」について話を聞く。

- 4、6年生：「思いを込めた加賀友禅卒業証書台紙づくり」染色師や友禅作家の指導や講話を受けながら加賀友禅の卒業証書の台紙作りに取り組む。加賀友禅の現状を知り、「金沢の人に友禅をより大切に思って欲しい」との願いを込め、自分達のHPで発信する。卒業式に自分で描いた台紙を持ち中学校への決意や夢を語る。

いし かわ けん かな ざわ し りつ み そ ぐら ちよう しょう がっ こう

石川県金沢市立味噌蔵町小学校



発表者名

き むら よう こ
木村 容子

役職

研究主任

担当教科・学年

5年生

交流会感想

金沢に関西や東北からも先生方がおいでになったことを考えると、ユネスコスクールつながりは私の想像以上でした。今後増えていくつながりは、それぞれが既に持続発展のひとつではないでしょうか。

学校情報

学校長 ふじもり 藤森 こ とも子 | 全校生徒数 236人 | 教員数 25人

所在地 〒920-0931 いしかわけんかなざわ し けんるくもたまち 石川県金沢市兼六元町7-15

TEL 076-231-7279 | FAX 076-232-0515

E-MAIL misogura-e@kanazawa-city.ed.jp

HP <http://www.kanazawa-city.ed.jp/misogura-e/>

◆教育目標 教育目標を「夢をもち 未来にかがやく子の 育成」とし、豊かな学力を身に付け社会の一員としての自己の生き方を見つめ、夢の実現に向かい自分らしく生きる子の育成を図る。「ときめき・かがやき・ひびきあい」をキーワードに、教師と保護者・地域が協力して教育活動を行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市中心部に位置し1907年に開校。校区に兼六園、金沢城公園があり、この自然・伝統文化が豊かに残る地域性を生かし体験学習や調べ学習を中心に、主に伝統工芸の職人さんとの交流活動、学習内容の発信を行う。地域を愛する方が多く、熱心に教育活動に協力・参画している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | 伝統文化(工芸)

対象者 4年生

対象人数 約250人

ぼくたちわたしたちの加賀友禅



作品を見る児童



児童の作品紹介

活動目的

本校では加賀友禅などの伝統文化を学習している。今年度は「わたしたちの作品を多くの方に見てもらいたい」との児童や指導して下さった加賀友禅作家の方の思いを実現するため、金沢市21世紀美術館に作品を展示する。加賀友禅を広めると共に伝統文化の素晴らしさと継承の苦勞を発信する。

活動概要

毎年4年生が地域の加賀友禅作家の協力のもと、加賀友禅の額絵を制作する。工房の見学、図案作成、下絵、のり置き等丁寧な指導で1人1作品制作する。

今年度は過去5年間の作品250点あまりを集め、21世紀美術館の1室を会場に展示を行う。準備や会場設営には地域の方の協力を得る。6日間の展示会は連休と重なり海外からの参観もあり、卒業生、保護者を含め約3000名が来場。今回の展示会の実施により、加賀友禅の素晴らしさを児童や教職員をはじめ、保護者や地域の方にもより一層感じてもらう。来場アンケートには「小学生の頃からこのような伝統文化に触れることができ、とても羨ましく思います。」「どの作品も素晴らしく、1つ1つ丁寧に作ってあり感心した。」「加賀友禅の伝統をこれからも守り発展させてください。」などとある。

いし かわ けん かな ざわ し りつ なが さか だい しょう がっ こう

石川県金沢市立長坂台小学校



発表者名

なか がわ あき こ
中川 晶子

役職
教諭

担当教科・学年
音楽専科

交流会感想

今後の活動を充実させていくには外部機関や行政との連携・活用も視野に入れ、互いが知り合う機会、そしてつながりを作ることが重要なポイントであると理解しました。

学校情報

学校長	かわもと かずみ 川本 和美	全校生徒数	407人	教員数	30人
所在地	〒921-8112 いしかわけんかなざわしながさか 石川県金沢市長坂3-14-1				
TEL	076-243-7561	FAX	076-243-7564		
E-MAIL	nagasakadai-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/nagasakadai-e/				

◆教育目標 「児童と地域社会の実態に立ち、知・徳・体の調和がとれ人間性豊かで心身ともに健やかな児童の育成を目指す」 児童増加に伴い30年前に新設され、以来教職員と保護者、地域が共に学校を創り上げたという意識が強い。豊かな自然と歴史の中で、地域に根ざした学校作りを目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市南部に位置し、学校裏には四季を通じて動植物等の豊かな自然に親しめる環境がある。一方山側環状道路の開通により、交通の利便性と住宅の増加に伴い自然が減少している。2010年度ASPnetに加盟し、環境や伝統文化、地域への愛着を主軸に持続発展教育の実施に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(継承)

● サブカテゴリー
自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 407人

ふれあおう・伝えあおう・ひびきあおう



4年：ふりかえろう
「長坂台の歴史」



6年：ひびきあおう 「今自分にできること」

活動目的

ふれあおう（知る・関わる）…地域の人・もの・ことと出会い、体験活動で興味関心を高める。
 伝えあおう（考える・行動する）…学習内容を人に伝えるため、相手に伝わる内容・方法を考える。
 ひびきあおう（広める・個に戻す）…自分の考えを受け止めた相手の反応を、自分の考えに反映させる。

活動概要

- 1年生：ふれあおう「長坂台の四季の自然」身近な自然の様子に関心を持つ学習。
- 2年生：つくってみよう「私たちの野菜作り」身近な自然と食に関する学習。農家の方から野菜作りの苦楽を聞き、自らの野菜作りに反映させ人と自然の関わりを学ぶ。
- 3年生：つたえよう「長坂台の達人」金沢伝統文化「水引」について名人と触れ合いながら学ぶ。「長坂台コミュニティ」で全学年や地域の方に向けて発表する。
- 4年生：ふりかえろう「長坂台の歴史」地域の伝統芸能に触れ、調べる学習。地域に伝承される踊り「あさんがえし」を保存会の方から学ぶ。運動会で披露。
- 5年生：調べてみよう「長坂台の環境」校区の水、空気、土について調べ、環境を考える学習。
- 6年生：ひびきあおう「今自分にできること」地域の一員として自分に出来ることを考える学習。ユニバーサルデザインや福祉について取り組む。

いし かわ けん かな ざわ し りつ おお の まち しょう がっ こう

石川県金沢市立大野町小学校



伝統芸能を発表会での披露を撮影

発表者名

うえ の たかし
上野 貴司

役職

校長

交流会感想

身近な人・社会・自然との関わりを大切にすることが、世界の人・社会・自然との関わりを大切にする一歩となり未来に繋がります。なぜESDという視点が必要なのか、今回はその根本が見えてきました。

学校情報

学校長	うえ の たかし 上野 貴司	全校生徒数	179人	教員数	12人
所在地	〒920-331 石川県金沢市大野町1-15				
TEL	076-267-1466	FAX	076-267-1466		
E-MAIL	oono-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/oonomachi-e/				

◆教育目標 自ら進んで学習に取り組む児童、誰に対しても立場を理解し思いやりのある優しい行動を取れる児童、たくましく生きるための健康と体力を持つ児童の育成を目指し「自ら学ぶ子、心豊かな子、元気な子の育成」を教育目標として掲げる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市北部の日本海に面するところに位置し、東には日本海に注ぐ大野川や丘の上の大野灯台を有す。明治6年開校、創立138年の歴史ある学校である。江戸時代から今に続く醤油作りが伝統産業として盛んで、加賀獅子、悪魔払い、曳山太鼓、豊年太鼓などの伝統芸能も大切に受け継がれている。地域の方は伝統芸能の指導に熱心で、地域の自然や伝統文化をテーマに持続発展教育に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー

伝統文化(芸能・産業)

● サブカテゴリー
自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 179人

大野町大好き ～発信しよう!わが町の自慢を～

2年生の
曳山太鼓

活動目的

伝統文化・産業、自然が多く残る地域の特色を生かし、体験・課題解決的な場として地域の方々から学び、地域との密着を深め、郷土を愛し、地域の一員として活動できる持続可能な社会の発展に繋がる実践を行う。

活動概要

- 1年生：自然探検を通して大野町の遊び場やお気に入りの場所を調べる。また2年生から曳山太鼓を学ぶ。
 - 2年生：大野町を探検しお店の自慢を探す。美容院や花屋にインタビューし地域の方と触れ合う。また曳山太鼓を1年生に教える。
 - 3年生：和菓子作り名人を講師に呼び和菓子作りを体験する。また4年生、地域の方から加賀獅子舞を学ぶ。
 - 4年生：地域の偉人「大野弁吉」について、地域の方や「大野からくり博物館」へ取材に行く。また5年生や地域の方から加賀獅子舞を学ぶ。
 - 5年生：基幹産業の「醤油作り」を調べる。自分達で醤油作りを体験する。また6年生から豊年太鼓、早打ち太鼓を学ぶ。
 - 6年生：6年間の学びから大野町の良さをガイドブックにまとめる。また同校区の中学1年生より悪魔払いについて学ぶ。
- 全学年を通して学習したことを「伝統芸能・学習発表会」で発表する。

いし かわ けん かな ざわ し りつ し きん だい ちゅう がっ こう

石川県金沢市立紫錦台中学校



発表者名

いし い み な
石井 美奈

役職
教諭

担当教科・学年
国語・1年生

交流会感想

仙台市の小学校の発表で現場の様子を聞くことができ、被災した子ども達の様子や先生方の指導など生の声が聞けて良かったです。

学校情報

学校長 まえかわ けんいち 前川 健一 | 全校生徒数 445人 | 教員数 30人

所在地 〒920-0938 いしかわけんかなざわ し とびうめちやう 石川県金沢市飛梅町3-30

TEL 076-262-7268 | FAX 076-221-6695

E-MAIL shikindai-j@kanazawa-city.ed.jp

HP <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/shikindai-j/>

◆教育目標 保護者や地域から信頼される学校を目指し、生徒の「生きる力」が醸成されるよう創意工夫のある教育活動を展開し、確かな学力・豊かな心・たくましい身体を身に付けた生徒を育成する。また自律・向上の姿勢を持つと共に思いやりの心を持つ生徒を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市中央部にあり、近くには行政機関や文化施設、兼六園等の名所旧跡が数多くある。校地内には明治の特色ある三尖塔（旧校舍）もあり、学習や体験活動に取り組みやすい環境にある。2009年にASPnetに加盟し総合的な学習の時間「飛梅タイム」を独自のカリキュラムで構成し、半年間の活動を飛梅祭で発表している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(芸能)

● サブカテゴリー

国際交流・理解

自然・環境

対象者 1～3年生

対象人数 445人

金沢の伝統に学び、世界に向け、 未来への一步を踏み出そう



飛梅祭で創作能を発表



学校の目の前を流れる辰巳用水の清掃

活動目的

伝統文化「身近にある歴史的・文化的な財産の価値に気づき、大切に出来る」、国際理解「世界の現状に目を向け問題意識を持ち、その解決に向けて行動できる」、環境「人・社会・自然とのつながりを大切に出来る」を三本柱とし、「今自分たちができること」を常に考え実行することを目標とする。

活動概要

1年生は伝統文化、国際理解、環境の3分野の基礎知識を学び、2、3年生は希望分野を選択し体験・研究活動を行う。伝統文化では地域の方を講師に招き、金沢に伝わる伝統文化の体験学習を行う。国際理解では各国の魅力や格差の調査、JICA北陸や青年海外協力隊の方から講話を聞く。環境ではエネルギーをテーマに原子力発電を学び、節約と活用の方法を考える。学習成果を10月に行う飛梅祭で発表。午前中は舞台上で和太鼓や茶道のお手前、日本舞踊、狂言・創作能を発表。午後は教室にて国際理解や環境学習で調べた内容の発表、各国の遊びを体験したり環境学習での実験を実演したりする。

また生徒会活動で地域の清掃活動や除草・除雪作業、スマイルアフリカプロジェクト（卒業生の靴を回収し、在校生がそれを洗ってアフリカの子どもたちに送る）やエコキャップ運動にも盛んに取り組む。

いし かわ けん かな ざわ し りつ いずみ ちゅう がっ こう

石川県金沢市立泉中学校



発表者名

やま ぎし まさ はる
山岸 正治

役職

研究主任

担当教科・学年

社会科・1年生

交流会感想

視野が非常に広がったと思います。同時に自分達の実践を広く公開する必要性を感じました。更に今後も交流会に参加し、加盟校同士の情報交換、人的交流を積極的に図りたいと思いました。

学校情報

学校長	<small>まつざか こういちろう</small> 松坂 浩一郎	全校生徒数	440人	教員数	32人
所在地	〒921-8036 <small>いしかわけんかなざわし やよい</small> 石川県金沢市弥生 1-26-1				
TEL	076-242-2411	FAX	076-242-2412		
E-MAIL	izumi-j@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/izumi-j/				

◆教育目標 ①敬愛の念を持ち、生命・人権を尊重する生徒を育成する。②自ら学び、自ら考え、主体的に判断する生徒を育成する。③心身ともに健康で、思いやりと豊かな感性を持つ生徒を育成する。総合的な学習の時間では、各学年の学びを発展的に追求させながら「ともに生きる力」を育む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 閑静な住宅街の中にあり、寺町寺院群、藩政時代からの茶屋街、加賀料理の老舗、旧街道遺構等の歴史と伝統、香り高い文化が息づく落ち着いた環境にある。総合的な学習の時間を6期に分け、各教科との連携を図りながら環境教育、伝統文化体験、キャリア教育、地域理解教育、国際理解教育、環境・人権・国際理解教育を実施する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(産業・環境)

● サブカテゴリー
自然・環境 将来・職業

対象者 1～3年生

対象人数 440人

総合的な学習の時間を活用したESD活動



1期(自然とともに)1年生 自然体験学習動物園



II期(金沢を知ろう)1年生 伝統文化体験(和菓子)

活動目的

総合的な学習の時間を活用し、3年間を通じて各学年のテーマに基づきながら系統的に学習を進める。その中で環境教育、国際理解教育、人権教育、地域の文化財等に関する教育に力を入れる。

活動概要

I期〈自然とともに〉「いしかわ動物園」で自然体験学習を行い、環境やエコ活動を考える。環境に関するビデオ視聴・新聞記事を収集するNIE(Newspaper in Education)作業を行い、各自のテーマを研究しクラスで発表する。

II期〈金沢を知ろう〉1年生は事前に決めたテーマについて調べ学習、レポート掲示。その後伝統工芸の職人を講師に体験学習を行う。2年生は市内班別自主研修を行う。研修の成果をまとめ、授業参観時に張り出す。

III期〈人とともに〉職業体験の事業所連絡・打ち合わせ、事前学習の一環として講演会を行う。

IV期〈日本を知ろう〉2年生は日本の伝統文化を知るために京都を中心に学習。3年生で2年次の学習を生かし修学旅行を行う。

V期〈世界を知ろう〉世界情勢について新聞スクラップを作成するNIE作業を行う。また日本人学校勤務の経験を持つ教員を講師に招き、国際理解に関する講演会を実施する。

VI期〈社会とともに〉3年間の学習を通してグループでの卒業研究。学級発表会、授業参観での学年発表会を行う。

かな ざわ だい がく

金沢大学



分科会後の振り返りでファシリテーションをする鈴木教授

発表者名

すず き かつ のり
鈴木 克徳

役職

環境保全センター教授

交流会感想

少人数のワールドカフェ方式により、グループ内のすべての参加者による意見交換が積極的に行えたことを評価。今回の交流会が、今後の積極的な交流の拡大に向けた第一歩となることを期待。

所属先情報

所属先長	なかむら しんいち 中村 信一	役職:会長	教職員数	2,622人
所在地	〒920-1192 いしかわけんかなざわ し かく ま まち 石川県金沢市角間町			
TEL	076-234-6899	FAX	076-234-6899	
E-MAIL	-			
HP	http://www.kanazawa-u.ac.jp/index.html			

◆教育目標 金沢大学の教育カリキュラムにおける環境・ESDの強化、教員養成プロセスにおけるESDの導入教科を図る。また、地球環境基金、日本/ユネスコパートナーシップ事業等を活用し、北陸におけるESDの普及と学校におけるESDの推進、特に、ユネスコスクールの申請の支援、ESDに係る授業の改善への助言等を行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 北陸ではESDについてほとんど知られていなかったため、平成20年度以降、ユネスコ協会関係者、地域の自治体やNGOネットワーク等と連携し、地球環境基金や日本/ユネスコパートナーシップ事業を活用し、教員向けのESD講座や一般市民用のESDシンポジウムの開催、学校におけるESDモデル事業、北陸におけるESD事例集の作成・周知等により、ESDの普及に努めている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー ESD推進

●サブカテゴリー
人材育成 環境

対象者 ESD推進関係者

対象人数 活動に応じ、20~数百人

北陸におけるESDの推進



「ESD石川シンポジウム」での子どもの発表

活動目的

各学校や地域の特性を踏まえつつ、ユネスコ協会関係者や自治体、NGO、企業等様々なステークホルダーとの連携・協力のもと、基本的に「北陸方式」と呼ばれる北陸の特徴を活かしたESDの積極的な推進を図る。

活動概要

金沢大学では、環境・ESDに関する研究・教育の強化を図ることに加え、平成20年度から、北陸3県それぞれにおいて、主に以下の活動を行っている。

- ① 学校教員を主たる対象とするESD講座の開催
- ② 一般市民を対象とするESDシンポジウムの開催
- ③ 学校を対象とするESDモデル事業の実施、「北陸におけるESDE推進事例集」の出版
- ④ 様々なESD関係者からなるESD推進連絡協議会の開催
- ⑤ 北陸のユネスコスクール申請への助言、ユネスコスクール等におけるESD研修支援
- ⑥ ユネスコスクール関係者間の情報・経験交流会の開催
- ⑦ その他、北陸地域で行われるESD活動への支援 等

ユネスコスクールについては、以下に述べるような、いわゆる「北陸方式」と呼ばれる方式の推進に努めている。

- ・ ESDの学校教育目標への統合
 - ・ 教科学習、総合的な学習の時間、生徒会活動や様々な学校行事を含むあらゆる教育機会を活用したESDの推進
 - ・ ESD推進に際しての学年間のつながりへの配慮
 - ・ その学校を卒業するまでの全過程を通じた総括的なESDの評価
 - ・ すべての教員によるESDに関する共通理解とESDを推進するための校内の仕組みの確立
 - ・ 父母会や地元の町内会、商店会等の地域の関係者の理解と協力
 - ・ ユネスコスクール推進に向けた大学と地域のユネスコ協会、教育委員会との緊密な連携
- 今後の課題としては、例えば以下のようなものが考えられる。
- ・ 学校とNGO関係者、企業等との連携や協働の推進
 - ・ 幼小中、中高、高大等の校種間連携の強化
 - ・ 公民館、図書館等を中心とする幅広い社会教育分野でのESDの展開

いし かわ けん かな ざわ し りつ しょう がく こう ちょう かい

石川県金沢市立小学校長会



発表者名

いけ はた ひろ ひさ
池端 弘久

役職

会長
(金沢市立中央小学校校長)

交流会感想

各地に課題を抱えながらもESDを学校改善の鍵として取り組む学校があることに勇気をもらい、改めて何のためにESDに取り組むのか、自校の教育課題をしっかりと見据えるかが極めて重要であると再確認しました。

所属先情報

所属先長	いけ はた ひろ ひさ 池端 弘久	役職:会長	職員数 59人
所在地	〒920-865 石川県金沢市長町1-10-35 金沢市立中央小学校内		
TEL	076-262-8560	FAX	076-262-8055
E-MAIL	chuuou-e@kanazawa-city.ed.jp (金沢市立中央小学校)		
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/chuuou-e/ (金沢市立中央小学校)		

◆活動概要 教育の普遍的使命を踏まえ新しい時代の要請に応える教育を推進すべく、学校経営の課題を改善・充実させる組織的・自主的な行動と教育行政機関や教育関係諸団体との連携と一層の働きかけを行う。また東日本大震災への支援を行うと共に、復旧・復興から多くのことを学び取る。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 伝統文化を特色に国より「歴史都市」の認定を受け、ユネスコより「クラフト都市」の認証を受ける。学校教育金沢モデルを施策とし、学校二学期制・学校指導基準金沢スタンダード・小中一貫英語教育・金沢「絆」教育を進める。主な活動として、学校経営への専念を基盤とし校長会組織の活性化・強化・不断の改善に努め、経営能力向上のための情報の共有、研修の実施等を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

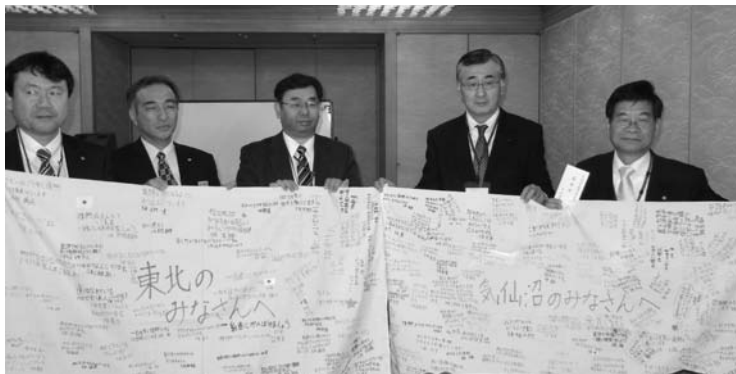
● 外部の協力

メイン
カテゴリー | ESD推進●サブカテゴリー
交流活動(復興支援)

対象者 金沢市立小学校校長

対象人数 59人

金沢市立小学校長会としてのESD・ユネスコ スクールの取り組み



気仙沼市教育委員会へ震災支援のメッセージ及び義援金を届ける



気仙沼市教育委員会白幡教育長(右)

活動目的

学校教育のトップである校長のESD(持続発展教育)の理解を深めると共に、各学校の取り組みが目的・計画的・組織的な取り組みとなるよう経営課題と位置づける。

活動概要

金沢市教育委員会が進める金沢「絆」教育の一環として各校のESDを行い、その結果の1つとして小学校のASPnet加盟は31校となり、4校が申請中である。金沢市小学校長会でも互いの取り組みを報

告・共有し、先駆的な学校や地域に職員を派遣し研修会や交流会に積極的に対応するよう努める。また本年度は東日本大震災の現実と持続的支援、復旧・復興より学ぶことを校長会の基本方針として加える。金沢市の各校では、義援金や文房具の支援を継続して行う。校長会では気仙沼市教育委員会から及川幸彦副参事を招聘し、気仙沼市のESDの取り組みと被災状況、今後の取り組みについての研修会を行う。今後も各校がESDを充実出来るよう校長が主体となって進めると共に、校長会としてESD推進の環境整備に取り組むと共に東日本大震災より多くを学びたいと考える。

ESD 石川 t



発表者名

いま い かず よし
今井 和愛

役職
顧問

交流会感想

ESDでは各分野の専門家同士が学び合い、互いに理解し連携を図ることが大切であり、学校教育だけでなく、社会教育や地域活動につなげて連携・協働していくことが本来のESDへと発展していく道筋であると思いました。

所属先情報

所属先長	おもて じゅんいち 表 純一	役職:会長	会員数 71人
所在地	〒920-344 <small>いしかわけんかなざわしうねだひがし</small> 石川県金沢市畝田東3-526 石川県立金沢西高等学校 気付		
TEL	076-268-4321	FAX	076-268-7329
E-MAIL	mmitsuno@m2.isikawa-c.ed.jp		
HP	http://blog.goo.ne.jp/esdit		

◆活動概要 石川県の学校教育機関で持続発展教育の各種活動をし、健全な児童生徒の育成への寄与を目指す。まず教育関係者へESDの広報とネットワーク作りをこの1～2年の目標とし、石川県のユネスコスクール加盟を推進、教育関係者以外へのネットワーク作りを目標としている。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 多様な自然環境と伝統文化が生活に溶け込み、豊かな環境を大切にす地域社会である。2010年2月に会員数45名で設立し、2011年5月には第2回総会を開き、高校教員中心に会員数は71名となる。その間学習会（会員や地域の学識者・実践者からのESD活動の講話）を10回、役員会を4回行う。「いしかわエコハウス」の見学や大阪ユネスコスクールへの視察も行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | ESD推進

対象者 教育関係者・ESDに関心を持っている人

対象人数 ー

『ESD石川t』を設立して



ユネスコスクールの大阪府立住吉高等学校を視察

活動目的

ESDでは各分野の専門家が学び合い、互いを理解し連携を図ることが大切である。そのための教員間ネットワーク作り、学校間支援体制の構築、ASPnet加盟の促進を目的とする。会設立の目的、活動内容の周知でのネットワーク拡大も目的である。

活動概要

- ① メーリングリスト作成やESDについての情報交換・発信、『ESD石川t』公式ブログ開設
 - ② 運営・協議のための総会を年1回、役員会を年4回開催
 - ③ ESD関連の大会参加、先進校への視察会実施
 - ④ 約月1回の学習会
- 会員や地域の学識者・実践者を講師にESD活動に関する学習会を実施。JICA専門家としてエチオピアへ赴任し生態調査や環境修復に携わる方から、大規模森林皆伐とコーヒー農家の関係について学習。全国の山岳地域での低地性植物について研究している会員から、調査報告と低地性植物除去の奉仕活動を行い、開発と環境保全の問題を考える。本会顧問でもある講師より、途上国での活動報告を講話してもらい、途上国での持続可能な開発への援助について深く考える。

だい がく いし かわ 大学コンソーシアム石川



発表者名

おお うら ひろ ゆき
大浦 博幸

役職

地球環境基金助成金事業推進委員

いしかわ動物園園長 美馬美馬秀夫氏による講話
「トキの復活をめざして～トキ分散飼育がスタート」
「ESD石川シンポジウム」(2011年1月)

交流会感想

北陸の地での取り組みが始められたばかりの時期だけに、お互いの戸惑いや課題を率直に交流でき、また新しいネットワーク作りが広がったことは大変意義深いと思います。

所属先情報

所属先長	なかむら しんいち 中村 信一	役職:会長	職員数	8人 (ESD関係「地球環境基金助成事業」メンバー:委員19人事務局員5人)
所推進委員在り地	〒920-0962 いしかわけんかなざわし ひろさか 石川県金沢市広坂2-1-1 石川県政記念いのぎ迎賓館3階			
TEL	076-223-1633	FAX	076-223-1644	
E-MAIL	info@ucon-i.jp			
HP	http://www.ucon-i.jp/			

◆活動概要 大学コンソーシアム石川の「地球環境基金助成事業」としてESDを北陸地域の市民全体に広く認知・普及させ、それらの活動を支援するために北陸三県の大学・国際機関・企業・NGO/NPO等によるESD支援のためのマルチステークホルダー・コンソーシアムを形成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 「北陸におけるESD普及のためのしくみづくり」に取り組んで4年になる。北陸三県においてESD推進に中核的な役割を担う教員、学校数は飛躍的に増えている。社会教育においては4年間にわたり「広く市民に周知するためのESDシンポジウム」を開催し、ようやく動物園、博物館でのESD活動が始められるようになった。また学校と企業等との連携において、情報交換の場を数度にわたり開催している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | ESD推進

対象者 学校教職員

対象人数 ー

学校におけるESD取り組みの課題について

ESD石川シン
ポジウムの様子
(2011年1月)

石川県立津幡高校教諭 松井元雄氏による「トキサポート隊」の結成と活動について発表

活動目的

学校でのESD活動が着実に広がる中、強く求められているESD活動の中での“学力向上”の位置づけと、子どもの具体的な姿としてその質を問われている。学校教育目標の「豊かな心と確かな学力の育成」に結びつくESD活動について効果的な展開と具体的な授業実践について考える。

活動概要

学校では学力、自然体験不足やいじめ、不登校、学習意欲の低下や家庭や地域社会の教育力低下、急激な情報化や環境問題等の問題を抱えている。

こうした社会の変化や子ども達の状況に対応しながら、ESD導入を目指す学校の課題を探る。〈ESDをめぐる実践上の課題〉全国の研修会で報告された実践での問題点を挙げる。

- ・ ESDの視点が明確でない
- ・ 全校的、地域的な取り組みになっていない等

また教育現場からの質問、課題として

- ・ 総合の時間が減少する中での全校的取り組みは難しい
- ・ ESDにおける「学力」「生きる力」とは何か等（日本ユネスコ協会連盟理事 米田伸次氏より）

〈学校でのESD導入の課題〉

- ① 学校教育目標及び運営方針に位置づける
- ② ESD実践の重点指導領域と関連領域の明確化（ESDカレンダーの作成）
- ③ 学校内外の環境整備、教職員の指導力向上
- ④ 学校外との連携

ユネスコスクール
地域交流会 in
気仙沼



ユネスコスクール地域交流会

2012年1月18日 / 気仙沼ホテル観洋 (宮城県気仙沼市)



開会挨拶



加藤慶太 気仙沼副市長

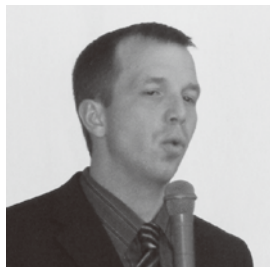


柴尾智子
ACCU事業部次長

基調講演 (韓国・米国より)



韓国 パク・スンヒョン氏



米国 ジェームス J. パーリンジャー

米国と韓国よりゲストをお招きし、これまでの気仙沼市とのかかわりから今後の展望について基調講演を頂いた。



パネル ディスカッション

左から伊東毅浩気仙沼市教育会指導主事、白幡勝美教育長、及川幸彦副参事兼指導主事、ティム・ジョーンズ 米国カリスバーク高等学校元教諭

基調講演 (文部科学省より)

池原充洋文部科学省大臣官房国際課長による「持続発展教育(ESD)とユネスコスクールの活用について



閉会挨拶



気仙沼市教育委員会
白幡勝美教育長



分科会1

分科会の
振り返りの様子



分科会2



分科会3



基調講演



サンギル小学校

キョンサンナムド チャンウオン
韓国・慶尚南道昌原

発表者名

パク・スンヒョン

役職

教諭

担当教科・学年

5年生

【気仙沼とのかかわり】

韓国で多くの環境教育に関する活動に取り組む。2010年1月国際連合大学委託事業の韓国教職員招へいプログラムに参加、気仙沼を訪問。2011年3月、大津波で気仙沼は甚大な被害を受け、津波が生じる1年前に歩いた通りはその時に消失したと聞く。津波で破壊される気仙沼を見て、訪問先や関係者を思い出し、再び気仙沼に来ることを決意、来日。気仙沼で被災に立ち向かう人々の姿にESDの真の意味を見出し、環境教育をESD活動に、受け身の参加ではなく自ら考え参加することに変えていかねばならないと考える。

交流会感想

気仙沼を訪問したのは、今回で2回目です。この交流会に参加させて頂き、私の住む町や生徒へ持ち帰るお土産がたくさんできました。

国が違っても、伝統や地域社会、文化が同じように存在するということ、私達は同じ人間であり、同じ目的でESDを実践している先生がいるということが分かり、参加者の方々の情熱も肌で感じる事ができました。

そして、何よりも気仙沼の先生に支えられ、励まされました。

今後も気仙沼の先生方と協力しあい、強い絆で結ばれていくことを願っています。みんなで一緒に住みよい地球を作っていきたいです。

学校情報

学校名 サンギル小学校 (SANGIL Elementary School)

所在地 21 Gwangryeocheonseoro Naeseo-eup Masanhoiwon-gu
Changwon-si Gyeongsangnam-do 630-857 KOREA

TEL +82-55-232-7631

FAX +82-55-232-7633

HP <http://www.sangil.es.kr>

私の夢 その変化の中に私がついて皆さんがいます

気仙沼^{チャンウォン}と昌原

地理も文化も類似した気仙沼と昌原は、私にとって特別な場所です。海を埋め立てた昌原には韓国最大の港があり、1970年代は海産物が豊富に獲れましたが、その後急速な工業化で貿易港となりました。街の変化と人口急増による公害で環境は破壊され、1990年代以降、貿易量は急減し港市の特徴を失いました。港の変化で孫は祖父から手仕事を学べなくなり、親は子供を大都市の学校に転校させ地方の伝統と文化は廃れていきました。

では、この状況をどうすればいいでしょうか？



宮城県気仙沼市の
衛星写真



韓国昌原の
衛星写真
(google earthより)

その解決策を、面瀬小学校のESD活動に見出しました。児童は校区の面瀬川を中心に森や川、海の素晴らしい自然環境下で継続学習に取り組み、森が豊かになれば海も豊かになることを体験学習で学びます。漁業中心の地域の生活を維持する方法とは、地域の伝統と文化を守ることだったのです。森林と海を育むことは、祖父と父、そして父と私を繋げるのです。



国際連合大学の委託事業である2010年度の韓国教職員招へいプログラムに参加。気仙沼市立面瀬中学校を訪問



2011年夏に韓国を訪問した気仙沼の教職員との再会



気仙沼の魚市場にて(2010年1月撮影)

抗し難い自然災害と人々

2003年、台風の高波で昌原では18人が死亡し、自然の恐ろしさを再認識しました。人間に都合の良い自然開発は、人間にも環境にも痛みを与えるのです。私は東日本大震災を見て、同じことを考えました。

自然の猛威には逆らえません。私たちは後世に自然と共生する持続可能な生き方を教えねばなりません。

私の夢。私たちはつながっている

私たちはESDを通して生活を振り返り、伝統と文化を存続させ地域を甦らせるのです。これが私たちの生活を望ましい方向に導き、ESDを実践する真の理由なのです。

私には夢があります。昌原のかつての姿を見出し、私たちの将来を見据えた取り組みを生徒と一緒にやるのです。

海辺の街の暮らしとは…？

私の父や祖父の暮らしとは…？

私の息子たちのこれからは…？

生徒の暮らしは…？

この問題解決は親の最大責任であり、地域の伝統を保護し後世に伝える上でも重要なことです。



コミュニティと地元の伝統や文化を生き返らせ、私たちの生活を豊かにする。それがESD実践のあるべき姿です。

私は極めて重要な変化の渦中にいます。周りにいる多くの人が、私を支え、励ましてくれています。そして彼らに心から感謝します。

気仙沼の人々も重大な変化の真ただ中にいます。気仙沼には同じ目的を胸に、ESDに取り組んでいる先生方がいます。一緒にESDを実践していきましょう。私たちは共に取り組むことで、共に強くなれるのです。

基調講演



カリスバーグ中学校

米国・テキサス州カリスバーグ

発表者名

ジェームス J. バーリンジャー

役職

校長

【気仙沼とのかかわり】

テキサス州のカリスバーグは、ダラスから70マイル北にある農村地域である。カリスバーグ私立学区には、幼稚園前（4歳）から第12学年（18歳）まで、約1,200人の生徒がいる。地域の主要産業は石油と天然ガスの産出で、農業と大規模放牧も、テキサス北部の産業の重要な側面となる。今回は日本とカリスバーグがどのような関係を築いてきたのか、カリスバーグでどのような取り組みをしてきたか、今後日本とどのような関係を築いていくかを発表。

交流会感想

これまでカリスバーグと気仙沼が7年間交流を続けてきたように、ESD（持続発展教育）とは世界共通のものだと思います。生徒たちの未来の学びのために抱えている希望は日本もアメリカも同じだということはとても素晴らしいことです。

地域交流会に参加して、地元の市民、サービス機関、学校職員や学生、そして周囲の人々と新しいアイデアを共有する名誉が与えられました。

この交流会でカリスバーグと気仙沼の歴史を振り返り、私たちに学びの機会を与えてくれた気仙沼市教育委員会とACCUに感謝しています。

学校情報

学校名 カリスバーグ中学校 (Callisburg Independent School District)

所在地 Callisburg Independent School District 148 Dozier Street
Gainesville, Texas 76240

TEL 940-665-0961 | FAX 940-665-0961

HP www.cisdtx.net

カリスバーグと気仙沼のつながり： 私たちのESD活動

日本とカリスバーグがどのような関係を築いてきたのか

カリスバーグと日本との交流の始まりは、2005年に日本フルブライトメモリアル基金（JFMF）マスターティーチャープログラム（MTP）で、カリスバーグの小中高校と面瀬小中学校、気仙沼高校とが交流校になったことです。2006年と2007年には鹿折小学校も新たな交流校となり、MTPに正式に参加した3年間、気仙沼とカリスバーグの学生は日本とテキサスの両方で様々な環境、持続可能な開発への教育を目標に共同プロジェクトを実施しました。

2008年、カリスバーグの教員とオースティン大学の学生とノース・セントラル・テキサス・カレッジの代表者は気仙沼を訪問しました。

2009年には、カリスバーグの教員1名が気仙沼を訪れました。またカリスバーグの学生1名が、ダラス・フォートワース日米協会後援のヤング・アンバサダープログラムに受け入れられ、仙台の学校を訪問しました。

2010年チリ沖地震による津波が、気仙沼港の水産養殖に大打撃を与えました。カリスバーグの3校全ての生徒は、復興活動支援の募金を行い、カリスバーグの教員と生徒1名が寄付金を携えて気仙沼へ支援を申し出ました。



2007年にテキサス州上院議員、気仙沼市とカリスバーグの教職員と撮影した写真



気仙沼市からカリスバークに教職員が訪問した時に撮影。
環境教育に焦点をあてて、意見交換が行われた。(2007年)

2011年3月11日の東日本大震災と津波発生に対し、カリスバーク各校では再び救済活動支援のための募金を行い、折鶴を作って気仙沼の復興を支援することにしました。日本で起きたこの災害は、私たちにESDの重要性を再認識させてくれました。カリスバーク、そしてまた世界全体が、計画と備えによって、悲劇的な出来事が生じた時に人命損失を最小限に止めることができるということを思い知らされました。そして私たちは、気仙沼の人々との連携により、そのためにはどうしたらよいかを探っていきたく強く願っています。



東日本大震災後、カリスバークの学生は1,000羽の鶴を折り、気仙沼市の学校に2,700ドルを寄付。(2011年4月)

カリバーグでどの様な取り組みをしてきたか

本年度から私たちは「キャラクター・カウント」という人権を学ぶ授業を毎週行い、信頼性や尊敬等のテーマに取り組みます。最近では、様々な自然災害に備える責任を学ぶ授業も行いました。更にまた本校では、地域における他のESDプロジェクトも進めており、科学室でのリサイクル運動、その他の教室での虫の堆肥化^{たいひ}といった簡単な取り組みを行っています。「カリバーグをいつもきれいに」という取り組み（テキサス州後援）により、学校内の環境教育を拡大し、地域全体の清掃活動といった行事に積極的に関わっています。これらの取り組みは、本学年度の奨励事項のひとつとして行っているもので、生徒に参加を促すだけでなく、ボランティア精神を育むことを目的としています。

今後、日本とどの様な関係を築いていくか

ASPnetは、現代だけでなく次世代のためにも、教育者が集いESDの好事例を探る理想的な活動だと確信しています。なぜなら、気仙沼、および世界中の他の地域と同様に、「持続可能な発展のための教育」が、不可欠なものになっているからです。私たちの文化そして社会も、将来世代に対する説明責任をより強く認識すべきだということ学んでいかねばなりません。私たちの地域全てが、独自の方法でESDを実現させる上で、何らかの役割を果たすことができます。日々の生活の中でこうした考え方を共有することは、世界中にネットワークを構築するために欠かせないことです。



パネルディスカッション



気仙沼市 教育委員会

発表者名

しらはた かつみ
白幡 勝美

役職 気仙沼市教育委員会教育長

【プロフィール】

昭和20年6月5日生まれ。昭和43年東北大学卒業。同年宮城県志津川高等教諭。昭和55～59年度、気仙沼高等学校教諭。この間より十八鳴り浜、九九鳴き浜の保護活動に取り組む。平成2年度、気仙沼市の津波観測システム作りの企画に参加。平成3～7年度宮城県教育研修センター指導主事。この間、理科、環境、防災教育を担当。平成16～17年度、気仙沼高等学校校長。小・中・高の連携を実現し、校種を超えたESDの推進に取り組む。気仙沼図書館長を経て、平成20年度より現職。

交流会感想

パネラーの話は各々、気仙沼やアメリカに特化したものであったはずですが、参加された皆さんが、熱心にディスカッションに臨んでくれました。先ず質問の鋭さに驚きましたが、その質問をめぐるやりとりを通して、災害に関する教育上での課題が日本各地、韓国、アメリカにおいても共通するものであることが浮かび上がってきていたと思います。午後の分会会での気仙沼市各学校での取り組みの発表も内容のあるものでした。未曾有の大災害を乗り越えて実践して来た自信が感じられました。

所属先情報

所属先 気仙沼市教育委員会

所在地 〒988-8502宮城県気仙沼市八日町一丁目10番1号

TEL 0226-22-3440

FAX 0226-23-0943

HP www.city.kesenuma.lg.jp

ESDの視点からの 気仙沼市における津波防災教育

気仙沼市の津波被害の歴史

気仙沼市には太平洋銀行という言葉があります。海は無尽蔵に富を提供してくれる理想的な銀行…そのような言葉ができるくらい海のもたらす富は大きいわけです。

気仙沼市を含め三陸地方の人々は海岸に港を築き、その近くに水産物の加工場家を建て、家を建て、商いをし、栄えてきました。しかし、そのことは同時に津波被害を受ける可能性が非常に高いということも意味しました。実際、気仙沼市を含む三陸地域は、繰り返し津波の被害を受けてきました。

明治以降の津波では、昭和8年の津波が大きいものでした。死亡者が明治29年の大津波での死亡者1,906名に比べて81名と少なかったことから、津波対策は大きな成果を挙げていたとされていたのですが、時と共に、いつの間にか津波についての記憶は薄れていきました。



気仙沼市内唐桑地区大沢の海嘯記念館
東日本大震災の津波で破壊・流失

これまでの津波防災教育

気仙沼市が再び防災意識に目覚め、現在の防災教育の取り組みに結びつくようになったのは、3つの出来事が影響しています。一つ目は、昭和53年に宮城県沖地震が起きたことです。県内での死者は27名、負傷者は10,962名に達しました。宮城県はこれを機に「みやぎ県民防災の日」を制定し、県を挙げての運動が起きました。二つ目は、平成14年にESDが実質的に気仙沼市でスタートしたことです。この年に気仙沼市立面瀬小学校が国際協働環境教育を始め、ESDの原点ができたのです。ESDは「地域、県、国、世界の未来を持続・発展させようとする志と、具体的にそれを実現可能とする資質・能力を培おう」とする教育実践で、そのために、宮城教育大学との連携もスタートしました。

津波防災教育をESDの視点から見ると、ESD的な要素がたくさんあります。

①学び、記憶し、活力する力 ②未来を予測し、備える力 ③主体的に行動し、命を守る力 ④情報を活用し、伝える力 ⑤人とつながり、協力する力 ⑥よりよい提案をする力 すべて防災教育に欠かすことはできません。

そして、気仙沼市の現在の防災教育に結びつく三つ目の出来事は、ESDが始まった翌年、平成15年5月に気仙沼沖16kmを震源とする震度5強の地震がおきたことです。地震後に、海岸沿い22,000世帯を対象に市役所が調査したところ、津波を意識して逃げたのはわずか1.5%に過ぎませんでした。

この数字に危機感を持った危機管理課は市内171自治区中131地区で講演会や地区懇談会を開き、若い保護者への啓蒙、児童・生徒への指導、学校と連携した防災教育を目指すようになりました。



学校と外部との連携による新たな事業例Ⅰ
「新たな公」によるモデル事業



学校と外部との連携による新たな事業例2
文部科学省防災教育支援事業「津波フィールドミュージアム」

東日本大震災を経て

2011年3月11日、大津波は予想を遥かに超える規模で起こりました。気仙沼市内の死者1,026名、行方不明者383名、被害事業者3,314社／4,102社、被災従業者25,236人／30,232人、被災漁船3,000隻／3,566隻と、実に80%を越す大きな被害でした。(統計は「気仙沼市復興計画」による)

小・中学校も大きな被害を受けました。電気・水道もない学校が残る中、4月21日に市内すべての学校が再開しました。そして、気仙沼市は10月7日に防災教育を重点事業とした「気仙沼市震災復興計画」を纏めました。

今回の震災を経て、学校に欠かすことができなくなったもの、また、保護者や地域から強く期待されているものは、児童・生徒、個人や住民の行動をより意識した防災教育であり、未来づくりとしての復興教育です。それは、地域と連携した幅広いESDとしての確かな防災教育、そして、復興教育の実践とそれを通じたコミュニティづくりへの貢献です。そのため、各方面との連携の再構築、人材育成、地域の実態に即した防災マニュアルの作成・実践、体験の記録と教訓の発信が必要となってきています。

未来にむけて…

今回の津波被害を通して私が感じていることは、私たち人間はこの地球上に生きている限り、何らかの自然と関わりを持っているのですが、その自然は災害の芽を隠し持っているということです。その中でどう生きるのが今問われているのですが、気仙沼市のすべての学校が取り組んでいる防災教育、環境教育をはじめとするESDは地域、日本、世界を持続発展させ明るい未来をつくらうとする志や、その思いを実現できる資質・能力を育む教育になるもので、ひとつの答えになるものだと思います。

基調講演



気仙沼市 教育委員会

発表者名

おい かわ ゆき ひこ
及川 幸彦

役職 学校教育課副参事兼指導主事

【プロフィール】

2002年に気仙沼市立面瀬小学校で宮城教育大学と連携しながら米国の学校と協働してESDをスタートさせる。2006年に気仙沼市教育委員会に異動し、国連大学・仙台広域圏RCEの認定に寄与するとともにユネスコスクール加盟促進に尽力し、ESDの普及啓発に取り組む。2008年から気仙沼市立中井小学校教頭として「メビウス」や「気仙沼ESD共同研究紀要」を発行するなど気仙沼ESDの発信に努める。2011年から現職。政府・国連ESDの10年円卓会議委員、環境省「+ESDプロジェクト」評価委員、京都大学・宮城教育大学非常勤講師等を務める。

交流会感想

地域交流会では、ユネスコスクールの国際的な連携の下でのESDの推進の可能性や震災時の危機的状況でESDで育まれる諸能力が生きて働くこと、今後復興に向けては、地域や海外との絆をもとに自然と共生し、未来を切り拓こうとするESDの理念が、キーコンセプトになることが再認識されました。また、各地域の実践発表は、それぞれに個性と工夫が見られ優良事例としての発信性に富むものでした。まさに、ESDの過去と現在、そして未来を見据えた時間と、地域間や海外との絆という空間を皆で共有する機会となりました。

所属先情報

所属先 気仙沼市教育委員会

所在地 〒988-8502宮城県気仙沼市八日町一丁目10番1号

TEL 0226-22-3441

FAX 0226-23-0943

HP www.city.kesenuma.lg.jp

気仙沼市の持続発展教育 (ESD) と 東日本大震災からの教育復興

気仙沼市の持続可能な社会の担い手を育成する教育 (ESD)

気仙沼市は20年以上にわたり、「森」、「川」、「海」の豊かな自然環境を生かした環境教育、食教育、国際理解教育、そして防災教育などの特色ある活動をしてきました。そして、2002年から気仙沼市立面瀬小学校を中心に地域に根ざした体系的なプログラム開発と実践がスタートしました。この実践はフルブライトメモリアル基金のマスターティーチャーズプログラムとして、「水辺環境」をテーマに米国の学校と協働でローカルとグローバルの視点を併せ持った国際的な環境共同学習へと発展し、現在の気仙沼のESDのベースとなりました。

広範な協力体制のもとでの気仙沼市のESD活動が評価され、2005年6月に国連大学から国連持続可能な開発のための教育の10年 (DESD) の地域拠点 (RCE) のひとつである「仙台広域圏」のモデルに認定され、世界のESD推進の一翼を担うことになりました。

このような市の推進施策により、各校は、RCEやASPnetのネットワークを活用し、国際的な視野から自分達の地域や取組のよさと課題を捉えなおすことを通して地域への愛情と豊かな国際感覚の育成を目指してきました。

東日本大震災からの教育復興

悲劇は突然、訪れました。中学校の卒業式を翌日に控えた3月11日の金曜日午後2時46分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が東日本を襲いました。それから30分ほどして、「千年に一度」といわれる想像を絶する巨大津波が東日本沿岸一帯を襲ったのです。

震災直後からほとんどの学校には、多くの避難者が押し寄せ、教職員の多くが、地域住民と協力し、避難所経営にあたることになりました。その一方で、教師は、自らも被災している中で、子どもたちの安否確認や被害状況の把握、臨時休業や卒業式等の行事のお知らせなど、通信手段や交通手段がない中で避難所や学区を巡回しながら情報の収集と伝達に奔走しました。

気仙沼市教育委員会と各学校は、「震災の中での学校再開」を合言葉に、不十分なインフラや多くの制約の中でも、学校再開を目指して、ひとつひとつ問題解決に取り組みました。



海外からのメッセージ(米国テキサス州カリスバーク)

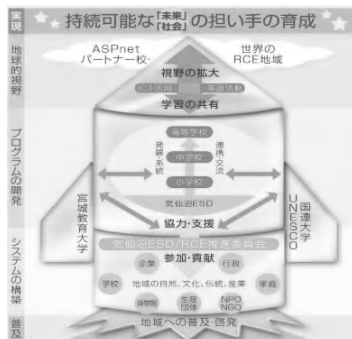


吹奏楽部による慰問コンサート(気仙沼市立津谷中学校)

復興への未来作りのESD

教育振興基本計画の記述にあるように、ESDは新教育基本法の理念と軌を一つにするものであり、子どもたちに「生きる力」を育み、未来の担い手として育成する重要な教育理念であると思います。この震災においてもこれまで気仙沼市が取り組んできたESDの下記7項目が震災直後の危機管理や避難対応などで機能し、今後の復旧・復興へのプロセスにおいても重要な理念になると確信しています。

- 1 危機対処力を育む地域と連携した防災教育
- 2 自然と共生する環境教育
- 3 豊かな自然の恵みを生かした教育
- 4 故郷の心を受け継ぐ地域遺産教育
- 5 国や地域を越えた学びの共有
- 6 未来を創る力
- 7 ESDグローバルネットワーク



気仙沼をはじめ、被災地の復興には、まだまだ長い道のりが待っています。しかも、混沌とした中でその道筋は見にくい状況です。ESDを通じた復興に向けて、子どもたちと地域の未来を拓くESDの在り方について、私たちと共に考えていただき、ご指導とご支援を頂ければ幸いです。

最後に、震災の中で行われた気仙沼市立階上中学校の卒業式の答辞を紹介します。

階上中学校といえば、防災教育と言われ、内外から評価され、
十分な訓練もしていた私たちでした。

しかし、自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、
私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。

天が与えた試練と言うには惨すぎるものでした。

つらくて、悔しくてたまりません。

しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、

助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

平成22年度気仙沼市立階上中学校卒業式
第64回卒業生代表 梶原裕太くんの答辞より

この言葉ひとつひとつに、気仙沼に住む私たちの現在と未来に向けた万感の思いが込められています。

パネルディスカッション

カリスバーク高等学校



米国・テキサス州カリスバーク

発表者名

ティム・ジョーンズ

役職 カリスバーク高等学校元教諭
 グラス/FW日米協会理事
 グラドニー牧場経営
 日米草の根交流サミット大会2012メンバー
http://www.manjiro.or.jp/jpn/summit/north_texas/north_texas.html

【気仙沼とのかかわり】

気仙沼とカリスバークは、日本のフルブライトメモリアル基金マスターティーチャープログラムに参加するカリスバークの学校3校が選定された時から交流が始まった。当時、ESDの概念やその目的は理解していなかったが、プログラムに参加することで、学区にどのような良い影響があり、私たちの考え方が変わるとは考えていなかった。気仙沼市教育委員会をはじめ、気仙沼市や宮城教育大学の素晴らしい教職員の方々の力を借りて少しずつ歩んできた。交流会では、持続可能な開発のための教育におけるこれまでの気仙沼とカリスバークのパートナーシップについて発表。

交流会感想

ESDを実践していくためには、活動に取り組んでいく人の情熱や前向きな姿勢、勇気が必要不可欠だと感じました。ESDの持続性において、教員や担当の異動が課題となっていますが、気仙沼市とテキサス州カリスバークのように長期的な友好関係を築けていく秘訣は、お互いへの思いやりや何かを成し遂げたいという共通の気持ち、つまり、ESDに対する情熱をもち、困難があっても乗り越えていく勇気をもつことだと思います。

学校情報

学校名	カリスバーク高等学校 (Callisburg High School)		
所在地	Callisburg Independent School District 148 Dozier Street Gainesville, Texas 76240		
TEL	940-665-0961	FAX	940-665-0961
HP	www.cisdtx.net		

持続可能な開発のための教育における 気仙沼とカリスバークのパートナーシップ

気仙沼の教員は、カリスバークの小学校3年生から高校3年生までのすべての学年の生徒にESDについて学ぶ機会を提供する計画を策定する中でカリスバークの教員を指導しました。

ESDの多くの焦点領域を網羅するあらゆるレベルのさまざまな活動を行いました。生徒は、スカイプやヤフーメッセンジャーを利用したビデオ会議を行って、ESDの目標について以下の事項を共有しました。

- 多様性…カリスバークと気仙沼の小学校、中学校、高校からの生徒が、農業、給食、ポピュラー音楽にいたるまで、生活様式に関する情報を交換しました。
- 地域に関する知識…小学校、中学校、高校からの生徒が、かぼちゃ、魚、牛肉、米を例にとって食品の生産の重要性など地域の習慣について学び、ビデオ会議を使用して共有しました。
- 持続可能な生物多様性の目標を、水に関する目標と組み合わせ、すべての学年の生徒が生物学的指標を使用して水質検査を行いました。



日本語を教えている大学講師とのスカイプ会議の様子。
時差があっても先生や生徒の情熱、忍耐、勇気は共通のもので、それがプログラムの成功につながった。

これらのプロジェクトは日本のフルブライトメモリアル基金マスターティーチャープログラムの資金提供と指導のもと、3年間にわたって実行されました。このプログラムの終了後も地域の教師の尽力と草の根レベルで集められた資金などを利用して継続されました。

マスターティーチャープログラムの終了後、共同で活動する機会は減りましたが、カリスバーグと気仙沼の双方の献身的な方々の尽力を通してこのパートナーシップが維持されています。このパートナーシップは結婚のようなものです。成果や親密さはそのときによって変わりましたが、絆は切れることなく、お互いに対する思いは毎年強くなっています。私にとっては、このような友情が持続可能な関係の基盤です。

この2年間、テキサスは深刻な干ばつを体験し、地球温暖化の結果、地球全体において自然災害が増加する可能性があることは地域社会で理解され始めています。

テキサスでの自然災害は、2011年3月11日の東日本大震災や津波とはまったく異なります。日本での災害は短時間に発生し大規模なものでしたが、テキサスの災害は長期間かかってゆっくり発生し、気付かない人も多くいます。テキサスA&M大学の気候学者は、この干ばつは2020年まで続くと予想しています。

カリスバーグは、気仙沼とのパートナーシップを活用して災害対策について学び、ESDプログラムの一環として災害リスク低減に取り組みたいと考えています。

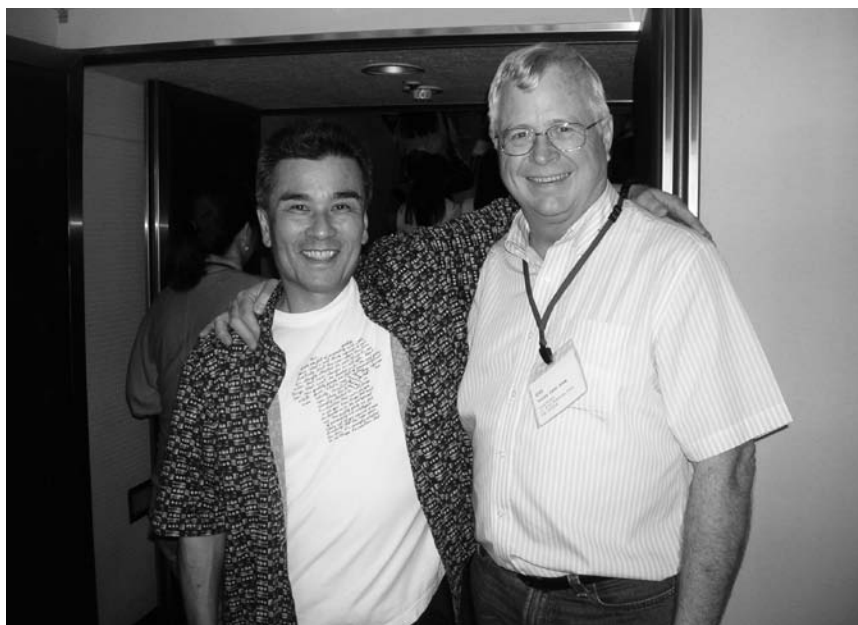
ESDの重要性をより深く理解した今、ESDは、欠くことができない非常に重要なものであると認識しております。気仙沼教育委員会と宮城教育大学の皆様からの友情と支援に感謝し、今後もこの友好関係と支援が続くことを願ってやみません。



テキサス州議会で可決された決議を宮城県教育委員会へ贈呈したときの様子。
テキサス州の議員も宮城県との深い友好関係の重要性を感じている。



気仙沼市立気仙沼高校での地理の共同授業の様子。
過去に何度も気仙沼とカリスマバーグで一緒に授業を行いました。



2005年度フルブライトメモリアル基金マスターティーチャープログラムで出会った先生と
高知の土佐島津で再会。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ みず なし しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立水梨小学校



発表者名

むら かみ み わ
村上 美和

役職
教諭

担当教科・学年
3、4年生

交流会感想

地域を見つめることから国や世界、自分自身を見つめる視点が養われることは、どの国においても同じであり、私たちが取り組む活動は間違っていないのだと、改めて感じることができました。

学校情報

学校長	えんどう きよし 遠藤 潔	全校生徒数	36人	教員数	9人
所在地	〒989-0169 <small>みやぎけんけせんぬましものくらやま</small> 宮城県気仙沼市物倉山6				
TEL	0226-23-8440	FAX	0226-21-2013		
E-MAIL	mizu.s8@mopera.net				
HP	—				

◆教育目標 教育目標を「豊かな人間性をそなえ、自ら学ぶ意欲のある心身共にたくましい児童を育成する」とし、「善悪の判断・相手を理解し、行動する態度の育成（徳）」「主体的な学習態度・基礎・基本の定着・創意工夫する態度の育成（知）」「体力の増強・規律的で安全な生活をおくる態度の育成」などを重点とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市の南西に位置し、周囲を山に囲まれた四季の自然豊かな山紫水明の郷里である。日本一のツツジの自生地「徳仙丈」、「羽田神社」、伝統神楽やキリシタン史跡、樹齢800年を超える杉等、古くから息づき地域に守られている文化財が多くある。地域の写真家や高前田乾隆察、稲作農家の協力で学校の教育力を高め、校区の自然や伝統文化を生かした体験学習を中心に、地域との交流活動を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー

自然・環境

● サブカテゴリー

食(稲作) 伝統文化(芸能)

対象者 1～6年生

対象人数 36人

ふるさとを「知って、学んで、伝えよう」



地域の石碑や
神社を見学



足踏みで土を柔らかく



感謝祭での餅つき

活動目的

水梨地区は隠れキリタン、羽田神楽、焼き物等歴史・伝統・文化に優れ、また稲作の盛んな地区である。体験学習を通じて児童がふるさとの魅力を再発見し、関心を持つことで地域への愛着を育成する。同時に他教科との連携により教科内容に深まりを持たせ、更に地域の課題を世界に広げていくことを目指す。

活動概要

<水梨を知る>

地域の歴史や自然に詳しい方を講師に、写真を使った講義や地域の様々な場所に赴き実際に見て触れて感じる活動を行う。

1、2年生：水梨地区の春の草花を観察

3、4年生：物倉山探検

5年生：水梨地区の雑木林の役割

6年生：水梨地区の歴史

<羽田神楽を学ぼう>

地域に古くから伝承される「羽田神楽」を保存会の協力で学習する。年に3回地域の方々に披露する。

<伝統工芸に挑戦>

地域の風土にこだわる陶芸家を講師に、作品のテーマを決め土作りから手作業で世界に1つの焼き物を作る。

<米作りを学ぼう>

地域の稲作農家を講師に米作りについて学び、地域の産業、自然・環境への意識を高め郷土愛を育む。体験学習を通じて勤労の大切さ、収穫の喜び、自然への感謝を実感する。感謝祭を開き、収穫した米を地域の方へ振舞う。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おお しま しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立大島小学校



発表者名

さとう あいこ
佐藤 愛子

役職
教諭

担当教科・学年
6年生

交流会感想

東日本大震災を経ての防災教育や環境教育、復興に際しての人権教育など、人と人との繋がりを大切にしている学校が多くあることが印象的でした。

学校情報

学校長 まくた えいしろう 菊田 榮四郎 | 全校生徒数 94人 | 教員数 13人

所在地 〒988-0613 みやぎけん けせんぬましたかい 宮城県気仙沼市高井40-2

TEL 0226-28-2604 | FAX 0226-28-2618

E-MAIL osim-s13@mopera.net

HP 準備中

◆教育目標 「心豊かで、たくましい子ども」を学校教育目標に、基礎的な学力の定着と学びを活用して自ら考える児童、人や地域とのつながりを深め思いやりの心をもつ児童の育成を目指す。教育活動においてはコミュニケーション能力や言語活動に重点を置き、家庭や地域との協働で目標の具現化に努める。

◆地域の特徴これまでの活動実績 豊かな自然に囲まれ、養殖業を中心とする漁業が行われてきた。亀山からの眺望をはじめ、美しいリアス式海岸が陸中海岸国立公園に指定され、2011年に「十八鳴浜」が国の天然記念物となった。校区の自然を生かした体験活動や交流活動、環境活動を進めてきたが、東日本大震災で地域の環境は変貌し、これまでの活動は困難となった。2011年度は今の状況・環境で地域の為にできる事を学年ごとに考え実践する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

自然・環境

● サブカテゴリー

交流活動 福祉(ボランティア)

対象者 1～6年生

対象人数 94人

大島に笑顔と夢を ～小さな力が大きな力に～



小田の浜海水場に「1日でも早くたくさんの方が戻ってこれるように。」という願いをこめて小さなガラスや貝殻をとりのぞく砂ふるい。



「自分たちができること」を考え、仮設住宅のお年寄りを訪問。

活動目的

①これまでの大島の環境と生活を振り返り、現在の地域の自然や環境を見つめ未来の大島を心に描きながら児童自らが問題に気付く活動。

②「今自分達にできること」を考え、問題を解決するための実践。

上記活動を通して児童が地域や人とのつながりを深め、地域を大切にする気持ちを育て、自主的な問題解決能力を育成する。

活動概要

大島の豊かな自然環境の中で、地域の自然や海にかかわる学習と体験活動を行ってきたが、東日本大震災で実践の継続が出来なくなった。2011年度は今の環境で自分達にできる事を計画して取り組み課題解決に向けた実践を展開する。

1、2年生：野菜作りを通して、植物の様子や季節や天気との関わりを知る。野菜作りに関わった方や自然に感謝し、焼き芋大会や収穫祭を開く。

3年生：これまで自然観察をしていた「ふれあい広場」へ行き、現状を見て今後の大島の為にどんな「ふれあい広場」になればよいかを考え、自主的に取り組む活動を行う。

4年生：大島特産の柚子について、栽培農家の見学、栽培作業体験を行う。柚子を紹介するポスターや柚子利用法のパンフレットを作成する。

5年生：養殖や海洋環境の調査が出来なくなったので、地域で始めた樺の栽培や森林に目を向け、森と海の関係を調査する。

6年生：家族や地域へのアンケートを行い、自分たちに出来る事を計画・実践する。仮設住宅の方々に歌を披露する交流会の企画・実施。「ちよこっとボランティア隊」を結成し、小田の浜の清掃活動。節電・節水の実施、啓発活動。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おも せ しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立面瀬小学校



グループの課題作りを指導

発表者名

いわ つき まさし
岩槻 仁

役職

研究主任

担当教科・学年

算数・3、4年生少人数指導

交流会感想

発表会では「継続することの難しさ」の情報交換をしました。本校でも教員の入れ代わりがありますが、これまでの実践をなくすことなく、プログラムを見直しながら更に深化・発展できるよう努めていきたいと思いました。

学校情報

学校長	さとう きよたか 佐藤 清貴	全校生徒数	411人	教員数	21人
所在地	〒988-0133 <small>みやぎ けん け せんぬま し まつざきしもあか だ</small> 宮城県気仙沼市松崎下赤田58				
TEL	0226-22-7800	FAX	0226-24-7215		
E-MAIL	omo-s14@marble.ocn.ne.jp				
HP	準備中				

◆教育目標 学校教育目標を「豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」とし「やさしく(思いやりのある子)」「かしく(進んで学ぶ子)」「たくましく(心と体を鍛える子)」を目指す。その為に「確かな学力」「豊かな心」の育成指導の充実、体力の育成、開かれた学校作り、ESDの推進と志教育を重点実践事項とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 2002年に日米教育委員会日本フルブライトメモリアル基金マスターティーチャープログラムに選抜され、国際的視点から日米共同の環境学習プログラムの開発を始める。2003年宮城県教育委員会より「学校活性化プロポーザルモデル事業」の指定を受け、地域と一体となった国際環境教育を推進する。地域・企業と連携し新しい環境教育に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境

● サブカテゴリ
ESD推進

対象者 5年生

対象人数 73人

探ろう、伝えよう豊かな気仙沼の海 ～森・川・海の環境と人々のつながりを追って～



大川上流の矢越山
での植樹体験



面瀬川河口の干潟
に生息する生きもの
の調査

活動目的

面瀬川や河口に生息する生物の調査、カキ養殖等の海に関わる仕事をする方々への取材等の体験活動を通して海洋環境の維持には森や川が大きく関与していること、豊かな海は人間の生活が左右することを追究する。主体的な思考・判断・表現を育成し、環境維持を考える機会とする。

活動概要

- ①課題設定
 - ・「カキ養殖の仕事を通じて感じる環境の変化」についてカキ養殖業者を取材。
 - ・大学連携センター職員を講師に、海の生き物について「環境講座」を開く。
 - ・面瀬川河口での生態調査。
 - ・追究するテーマ・課題の設定。
- ②計画作り
 - ・河北新報社と連携し、取材から新聞作成までの過程を学ぶ。
 - ・グループで課題解決の計画を練る。
- ③情報収集、整理・分析
 - ・計画に沿って取材活動。
 - ・河北新報社と連携し、情報の整理・分析方法を学ぶ。
 - ・取材をもとに新聞紙面構成を考える。
- ④まとめ・表現、実践・振り返り
 - ・グループ新聞作成、発表会を行う。
 - ・出来た新聞を地域へ発信。
 - ・今後できる事を考え、実践していく。

活動の成果や一層の充実が見えてきた矢先、東日本大震災で活動場所の面瀬川河口が壊滅的に被災し、今後しばらく海での活動は困難となった。新たな実践の見直しが迫られているが、これまでの活動を生かした本校のESDを発展させていく。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ しし おり しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立鹿折小学校



発表者名

わた なべ みちよ
渡辺 美千代役職
教諭担当教科・学年
3年生

交流会感想

2011年度になって作り直さざるを得なかった指導計画を再検討するところから始める必要があります。今回の交流会で得た各校の実践情報を参考にし、地域の人々や各地のユネスコスクール、外部機関との連携を図りながら開発していきたいです。

学校情報

学校長	おの での のりしげ 小野寺 徳茂	全校生徒数	280人	教員数	23人
-----	----------------------	-------	------	-----	-----

所在地	〒988-0817 <small>みやぎ けん け せんぬま し にしはちまんまち</small> 宮城県気仙沼市西八幡町54-1
-----	--

TEL	0226-22-6876	FAX	0226-22-6878
-----	--------------	-----	--------------

E-MAIL	sisisho@oregano.ocn.ne.jp
--------	---------------------------

HP	http://www.k-macs.ne.jp/~sisi-s4/
----	---

◆教育目標 学校教育目標を「人間性豊かで自ら学ぶ力を備え、国際社会にたくましく共に生きる児童の育成」とし、「夢をもち、進んで勉強する子、思いやりをもち助け合う子、協力し合い喜んで働く子、心と体を鍛える子」を目指し「ふるさとに学び愛着心を持ち、未来に向かって生きる児童の育成」を図る。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市北東部に位置し、商店、住宅、水産加工場で市街地を形成し、また造船所とその関連工場や田畑で構成される。震災によって校区半分の居住区は流失、焼失した。国際理解教育を中心にESDを推進し、自然環境をテーマに宮城教育大学留学生との国際交流活動を行う。2010年に第2回ユネスコスクール全国大会持続発展教育研究大会パートナーシップ事業・お米プロジェクトで実施を発表した。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

自然・環境

● サブカテゴリ
国際理解

対象者 5年生

対象人数 52人

ふるさとを愛する心を育てる 無農薬米作り体験



留学生の方に田植えを図で説明



草取り

活動目的

EM（有用微生物群）を使った無農薬での米作り体験を通して、自然環境保全の意識を養う。また健康で安全な食を調べ今後のくらしを見直す心情を育てる。さらに体験活動や環境学習で得たことを発信し、進んで人と関わり、繋がりを大切にする態度を育成する。

活動概要

米作り体験は鹿折公民館の「温故知新運動」と連携し実践している。

<環境教育>

- ・無農薬で米作りをしよう①（19時間）
- ・無農薬で米作りをしよう②（15時間）
- ・私たちの食について考えよう（26時間）
を使った料理作り

活動計画、田植え、草刈り、まとめ
観察、稲刈り、まとめ

テーマ設定、調査・まとめ、発表会、米

<国際理解教育>

- ・地域の外国人と仲良くなるう（10時間）
の学習内容を発表、情報交換

宮城教育大学の留学生と交流、米作りで

<今年度からの実践>

- ・校内ESD研修会、地域人材宅への訪問、EM田の観察とEMや稲作の学習。
- ・宮城教育大学のお米プロジェクトに参加し、外国の小学校との情報交換の在り方を
探ることを研究。

<次年度への課題>

- ・地域が大きく被災したため2012年度は、各学年の学習内容と身に付けさせたい能力の照らし合わせの確認、より系統的な指導計画への改善が必要となる。
- ・ESDカレンダーを作成し、教科間の連携が充実した指導を行う。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ なか い しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立中井小学校



発表者名

こまつ あや
小松 綾役職
教諭担当教科・学年
3年生

交流会感想

震災後は目の前の課題をクリアすることで精一杯な日々を過ごしていました。震災から10ヶ月が過ぎ、新年を迎えたタイミングでの今回の交流会は「なぜESDは必要なのか」を改めて考える機会となりました。

学校情報

学校長	まつもと なおと 松本 尚人	全校生徒数	107人	教員数	12人
-----	-------------------	-------	------	-----	-----

所在地	〒988-0563	みやぎけん けせんぬまし からくわちよう 宮城県気仙沼市唐桑町134-3
-----	-----------	---

TEL	0226-32-3146	FAX	0226-32-3072
-----	--------------	-----	--------------

E-MAIL	nakaisho@mediaweb.jp
--------	----------------------

HP	http://homepage3.nifty.com/nakaisho/
----	---

◆教育目標 「豊かな心もち、たくましく、共に生きる児童の育成」を目標に掲げ、(1) 基礎的な学力の定着と活用する力を伸長する教育活動の充実 (2) 豊かでたくましい心を持つ子供の育成と志教育の推進 (3) 健康な体力作りと体力向上を目指す (4) 信頼される学校作りと家庭・地域・諸機関との連携に重点を置く。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 リアスの海と山に囲まれた自然豊かな地域で古くから漁業の町として栄え、大漁唄込や風車等の地域遺産にも恵まれている。豊かな自然・文化・産業を実感的に理解し地域の良さを見直す契機とし、3年生以上は「ふるさと学習会」を公民館との連携で実施。各学年でも地域住民・機関の支援のもと様々な体験活動を行う。またALTや地域の外国出身者の協力で海外との交流・協働活動を行い体系的な国際教育活動を推進する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境

対象者 5年生

対象人数 17人

見つめよう!私たちをとりまく世界



水山養殖場
の見学



網起こし



海の環境について振り返り

活動目的

「環境領域」では地域の自然や人等、自分を取り巻く環境を正しく理解し、身近な海の保護・育成、海には多くの自然が関わることを捉え、自分にできることに取り組む態度を育成する。「外国語領域」では1～4年生で培った国際感覚を基に、体験活動を通して英語に慣れ親しみながらコミュニケーション能力の素地を養う。

活動概要

1学期：NPO法人「森は海の恋人」 畠山重篤理事長の協力で水山養殖場を見学。海洋環境でのプランクトンの役割を学ぶ。宮城教育大学連携センター青野哲広氏の環境教育講座で詳しくプランクトンと海洋環境を学ぶ。6月に来校した米国教員と参観日で発表。

2学期：森林と海の関係を課題に、国語科と連携して調べ学習を行う。畠山氏の案内で室根山を見学。腐葉土等山の環境と海の関係を学習。地域漁師の協力で「定置網起こし」を体験し、海の恵みを実感する。

3学期：これまでの学習を基に、水辺の環境を学習する宮城県仙台市立中野小学校5年生とTV会議を行う。夏頃から担任間でのやり取りを行い、児童は手紙や写真での交流を繰り返す。当日は互いの学習内容を発表し合い、また地域の伝統芸能を紹介しあう。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おち あい しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立落合小学校



発表者名

おの であ なつ え
小野寺 夏江

役職
教諭

担当教科・学年
3、4年生複式

交流会感想

震災の経験から防災教育について各校がますます重要に取り組んでいると感じました。本校は直接の被害はありませんでしたが、被災した学校の経験を生かして今後の防災教育に役立てていきたいと思いました。

学校情報

学校長	くまがい まさこ 熊谷 正子	全校生徒数	17人	教員数	6人
所在地	〒988-0844 <small>みやぎ けん け せんぬま し りつ おち あい しょう がっ こう</small> 宮城県気仙沼市象ヶ鼻114				
TEL	0226-55-2061	FAX	0226-55-2061		
E-MAIL	oti-s11@k-mopera.net				
HP	—				

◆教育目標 学校教育目標に「たくましく 心豊かな 子どもの育成」を掲げ、①あかるく(あいさつする子ども) ②かしく(自ら学ぶ子ども) ③たくましく(共に働く子ども)を旨とする児童像として教育活動に取り組む。「花・野菜・米」を育てる環境緑化活動などの自然体験活動や様々な交流活動を積極的に取り入れる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 山間に開けた平地に人家が点在する、自然豊かな山村である。少子高齢化・過疎化で地域住民は減るも、代々の田畑を受け継ぎ毎年の収穫を得ており、古くからの田植え踊りや打ち囃子の伝統芸能も高齢者から子ども達へ確実に伝承される。30年前から「栽培活動」に取り組み、緑化コンクールでの受賞経験もある。環境教育へも積極的に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 17人

自然豊かな落合小学校の栽培活動と 環境保全活動



地域の方から苗をいただき植え方を教わる



刈り取った稲を運んでほせ掛け



収穫した作物を使った収穫祭

活動目的

地域住民が手入れを続けてきた豊かな自然環境を生き、地域の方の教授のもと畑や花壇での「栽培活動」「自然保全活動」等の実践に取り組む。活動を通して身近にある豊かな環境の大切さ、環境を守る心・態度を育成する。

活動概要

3、4年生：自然探検をしよう

地域の環境（生態、野草、樹木等）や川の水質・生物の調査活動、作物の栽培・生長観察をする。

5、6年生：エコってなんだろう

エコロジーについて調べ自分達に出来る取り組みを考える。身近なエコ活動に取り組み、環境保護について考えパンフレットや新聞にまとめ、地域に発信する。

1～6年生：

こどもエコクラブ活動…環境図書委員会を中心に、身近なエコ活動に取り組み活動結果をまとめて発表する。

作物の栽培活動…4月に栽培する野菜を決め、稲作と同時進行で畑や田んぼの管理、作物・稲の世話をし11月に収穫祭を実施し、お世話になった方々と収穫を喜びあう。

花の栽培活動…4月に花壇のデザインを考え、花壇の手入れや花の世話をし、12月に反省として花壇作りを振り返る。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ から くわ しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立唐桑小学校



発表者名

おの こう
小野 晃役職
教諭担当教科・学年
4年生

交流会感想

これまではESD＝環境教育というイメージでしたが、ESDは様々な分野や領域で取り組めることを再確認することができました。校内でも今回の交流会の様子を伝え、より積極的に取り組む改善を図りたいと思います。

学校情報

学校長 かいほら たかし
海原 孝

全校生徒数 136人

教員数 11人

所在地 〒988-0533 みやぎ けん け せんぬま し からくわ ちょうあけ どの
宮城県気仙沼市唐桑町明戸208-6

TEL 0226-32-3142

FAX 0226-32-3071

E-MAIL karasho@vanilla.ocn.ne.jp

HP <http://www1.ocn.ne.jp/~karasho/>

◆教育目標 学校教育目標は「かながえる子」(知)、「おもいやる子」(徳)、「きたえる子」(体)の3つであり、「基礎基本を確実に身に付け、筋道を立てて考え課題を追究する」「自然や生命を大切に、優しい気持ちと節度を持って友達と協力する」「強い意思と粘り強い実践力をもって進んで心身を鍛える」ことをねらいとする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 漁業従業者を中心とした漁協、PTAで組織した学校支援委員会の協力のもと、2004年度より牡蠣養殖を中心とした体験学習に取り組む。2008年度から文部科学省の「新しい環境教育の在り方に関する調査研究事業」を受け、実践協力校として環境教育やESDを意識した取組を行う。しかし東日本大震災の被災により、これまでの学習活動ができない状況にある。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境● サブカテゴリー
交流活動 伝統文化(産業)

対象者 4～6年生

対象人数 81人

唐桑の海の豊かさを実感できる牡蠣養殖を中心とした環境教育



水揚げ作業



牡蠣むき作業



ひこばえの森での植樹体験

活動目的

他教科と関連させ「水環境と水生生物との調和と追究」「沿岸漁業の発展と牡蠣養殖への理解」「ふるさとを愛する心の育成」をねらいに、保護者や地域と連携した牡蠣養殖体験活動を通し、地域の海や自然の良さを実感し保全重視の環境教育と持続発展教育の関わりを探る。

活動概要

4年生：おいしい牡蠣を育てよう
種ばさみ作業の体験と牡蠣の生態調査。宮城県水産センターを訪問し、牡蠣の解剖実験を行う。

5年生：唐桑の海の秘密を知ろう
前年度に種ばさみをした牡蠣に生長を促す耳つり作業を行う。NPO法人「森は海の恋人」の畠山重篤氏の水山養殖場を見学しプランクトンの役割を学ぶ。野外活動を行い、森林と海の関係への理解を深める。

6年生：唐桑のすばらしさを伝えよう
これまでの経験を生かし、4・5年生に種ばさみや耳つりを教え、養殖体験の準備や片付けを率先で行う。牡蠣の湯湯処理や水揚げ、牡蠣むき作業を保護者・地域と協力で行う。地域の「かき祭り」に参加する販売補助や学習成果をパンフレットにして配布。公民館の支援で鮭の網起こし体験も行い、海や地域産業への理解を深め、まとめに自分たちの未来へ提言をする。今後は環境教育を中心に、復興に向けた支援について知る学習もテーマとして考える。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ みなみ け せん ぬま しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立南気仙沼小学校



発表者名

の いえ あき ひさ
野家 章寿

役職
教諭

担当教科・学年
理科

交流会感想

今回の交流会に参加して、ESD活動が世界的なものであることや単なる環境教育や問題解決型の学習ではなく、様々なことを総合的に考えて、その原因と向かい合いながら解決していく行動だと分かりました。

学校情報

学校長	なかい みつ お 中井 充夫	全校生徒数	198人	教員数	21人
所在地	〒988-0073 <small>みやぎけん けせんぬまし さきがじん</small> 宮城県気仙沼市笹が陣3-1 気仙沼市立気仙沼小学校内				
TEL	0226-22-6963	FAX	0226-22-6964		
E-MAIL	k-s.nansyo@ivv.ocn.ne.jp				
HP	http://www.k-macs.ne.jp/~minami-s/				

◆教育目標 教育目標を「豊かな心情、確かな学力、たくましい体力を身につけた心身共に健康で、実践力のある児童の育成」とし、「思いやりのある子（徳）」「自ら学ぶ子（知）」「身体をきたえる子（体）」を目指す。校名の「みなみ」から「みんな仲良し なんでも挑戦 未来に羽ばたく南っ子」をキャッチフレーズにする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 校区を流れる大川を素材に、地域の環境保全活動、川と海の繋がりを意識した体験学習を行う。しかし東日本震災で校区8割の家屋が津波の被害を受け、160名の児童が転出する。2010年度までは「大川クリーン作戦」や鮭の稚魚放流、大川の水質・生態調査、鮭の捕獲所見学や飼育・観察、プロの料理人を講師に鮭の調理実習を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

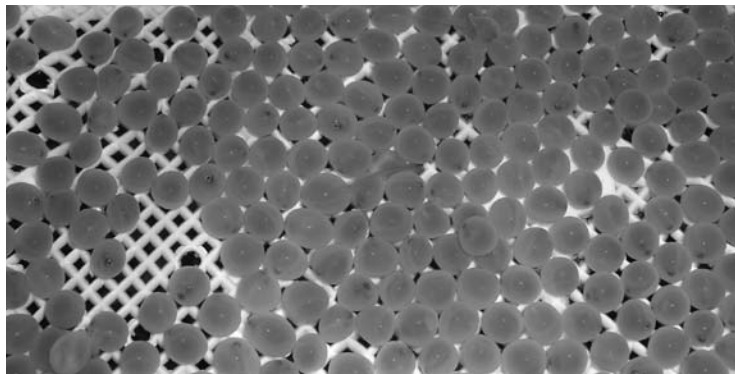
● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境● サブカテゴリ
食(生産・消費)

対象者 2年生、5年生

対象人数 125人

守ろう、鮭のふるさと大川を



受精卵の様子



サケの受精作業の見学と講話



サケの稚魚の放流

活動目的

- ①身近な大川に親しみ鮭を育てる活動を通し、鮭の生態を知り生命の連続性を理解する。
- ②自然を大切にしている心情を養い、自分達の生活を見通してより良くする意欲を持つ。

活動概要

「調べよう、大川と鮭」

さけます増殖協会作成の資料を基に、①鮭の生態 ②鮭の飼育法 ③鮭の調理法の3つを学習課題と設定する。

「鮭を育てよう」

学校近くの捕獲所への見学、本校理科室での受精作業の見学を行う。受精した受精卵は理科室で飼育する。5年生が当番となり、「サケ日誌」に記録し観察を継続する。

※鮭の飼育は繊細なので、孵化する前に死卵となったものは取り除かなければならない。2010年度は2500匹から1500匹の稚魚を孵化させる。

「鮭の料理教室」

料理として食べることで鮭への理解を深めると考え、校区で飲食店を営む方を講師に調理実習を実施。鮭のはらこめし、鮭とチーズを海苔で挟んだフライなど、プロの料理を学ぶ。

「鮭の稚魚放流」

5年生が育てた稚魚を2年生がペットボトルに入れて自宅へ持ち帰り、放流の日まで飼育する。年度末に大川への放流を行う。

<上記は、平成22年度までの活動です>

みやぎ けん け せん ぬま し りつ こ はら ぎ しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立小原木小学校



発表者名

お がた とし あき
尾形 俊明

役職

教務主任

交流会感想

遠方からの参加者は分科会で積極的に発言していました。それを聞いて自分も刺激を受けました。他地域からの参加者のいつもと異なる視点や考え方は、普段の取組を見直す参考となりました。

学校情報

学校長	<small>くまがい りょういち</small> 熊谷 良市	全校生徒数	58人	教員数	11人
所在地	〒988-0512 <small>みやぎ けん け せんぬま し からくわちょうい わ い さわ</small> 宮城県気仙沼市唐桑町岩井沢97-3				
TEL	0226-34-3201	FAX	0226-34-3281		
E-MAIL	harasho@chorus.ocn.ne.jp				
HP	—				

◆教育目標 教育目標を「自ら学び豊かな心もち、健康でたくましく生きる児童の育成」とし、確かな学力の定着と向上、組織的・機能的な生徒指導の推進、安全教育の徹底、家庭・地域・中学校との連携等に取り組み、思いやりのある・進んで学ぶ・心身を鍛える子を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市北部に位置し、岩手県陸前高田市に隣接する。校区は3つに分かれ、うち2つは東日本大震災で壊滅的に被災した。校庭に建つ仮設住宅から通う児童もいる。2010年度にASPnetに加盟し平成22年度文部科学省委託日本/ユネスコパートナーシップ事業「学校&みんなのESDプロジェクト」(ACCU実施)に参加。栽培学習や環境学習を中心に、公民館との連携で「ふるさと学習会」を開催。現在は震災の影響により、海での学習ができなくなり、代替案を模索している。

●ESD・ASPnet関連の連絡会議

●ESDカレンダーの作成

●外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境● サブカテゴリ
伝統文化

対象者 1～6年生、教職員

対象人数 71人

ふるさと小原木 ～過去を知り、現在を見つめ、未来を考える～



じゃがいもの
収穫



仮設住宅広場にてお祭りの参加をよびかけ



収穫祭のようす

活動目的

- ①地域への関心を高め、豊かな自然環境や地域の伝統文化を大切に受け継ごうとする態度を育てる。
- ②問題解決に取り組む姿勢を育て、生活や生き方を考える。
- ③他校・他地域での実践を学び、情報交換・交流から次の実践へと生かす。

活動概要

1、2年生：学校園でサツマイモを栽培・収穫。仮設住宅の住民を招いて収穫祭を実施。祭では手作りの神輿を担ぎ、収穫を祝う歌を披露する。

3年生：「ふるさとを知ろう」をテーマに、地域伝統行事の七福神の祭や神社の祭典について、参加体験をまとめ、由来や人々の込められた願いを学習。

4年生：学校周辺の自然環境を調査し、落ち葉で腐葉土を作る。それを学校園で使用し野菜を栽培・収穫する。栽培したトウモロコシで紙作り体験を行い、紙から地球環境を考える。

5年生：震災で水田が使用できず、バケツでの米作りを行う。収穫した米を食し食から地球環境を考える。また地域の漁師を講師に、定置網漁を学習。震災被害から、水産復興についてアイデアを出し合う。

6年生：より良いふるさとの未来を考えるため地域の歴史を学び、車椅子等のキャップハンディ体験、福祉施設への訪問を実施。様々な交流を通じて安心・安全な地域作りを提言する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ ま ごめ しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立馬籠小学校



馬籠幼稚園と合同環境教室(左が横山教諭)

発表者名

よこ やま せい いち
横山 清一

役職
教務主任

担当教科・学年
5、6年生

交流会感想

東日本大震災を経て、これまでの計画に修正を加えながらもESDを推進しようという、気仙沼の各校の取り組みは非常に刺激になりました。

学校情報

学校長	きむら れい こ 木村 玲子	全校生徒数	33人	教員数	11人
所在地	〒988-0364 <small>みやぎ けん け せんぬま し もとよしちょう こがねやま</small> 宮城県気仙沼市本吉町小金山1-1				
TEL	0226-43-2222	FAX	0226-43-2223		
E-MAIL	magome-sho@city.kesenuma.lg.jp				
HP	http://www.motoyoshi.ed.jp/magome-sho/				

◆教育目標 「創造性に富み、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標に、「進んで学ぶ子(知) やさしい子(徳) 元気な子(体)」を目指す。学びの楽しさや充実感のある学習活動を行い、保護者・地域に信頼され開かれた学校を目指し、人・自然・地域に触れ豊かな心・郷土愛を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 1873年創立、全校児童が例年30名前後の小規模校。3、4年と5、6年が複式学級。豊かな自然環境に囲まれ、地域住民の学校教育への関心は高く地域をあげて学校をサポートし協力・支援は惜しまない。PTAを中心に地域住民と行った緑化活動は、県の花壇や緑化コンクールで入選。学校林活動では朝日森林文化賞を受賞し全国植樹祭に招待される。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 33人

人・自然・地域に学ぶ馬籠っ子「地域の高齢者との交流を軸とし、馬籠の人、自然、地域の良さを発見しながら展開するESD」



祖父母交流会で地域のお年寄りに昔の遊びを教えよう



生活用水について詳しく知るために、本吉水道事務所を見学



木材加工工場での創作活動

活動目的

自分と人やもの、社会や自然環境との関わりや繋がりが分かり、より良い関係を作ろうとする児童を育てる。その為に地域高齢者との交流を取り入れた体験学習を実施しながら、地域学習を中心にESDの推進をする。

活動概要

- ①豊かな森林に囲まれた地域の特色を生かし、森林をテーマに地域の諸団体と連携しながらESDを推進する。
- ②林業復興に関する地域人材・団体・施設とのネットワークを活用した体験的活動を実施。
- ③外部専門家を講師に、環境面から森林の役割を捉えるための児童対象の環境教室と教員対象のESD研修会を実施。
- ④学習内容を地域の人を招いての発表会、ポスターの作成、HPなどで発信。地元紙に何度か取り上げられることでESDの推進にも貢献する。
- ⑤高齢者との交流を軸に学習活動を展開し、地域の教育力や地域コミュニティを活性化させる互恵関係を築く。<今後の発展として・・・>
- ①外国や日本文化についての体験学習を行う。異国の文化を理解するためにも、自国の伝統文化、習慣への一層の認識を培う。
- ②協力団体・組織の一層の充実。
- ③幼稚園と連携を図りながら小学校の実践を中高へ繋げる。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ つ や しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立津谷小学校



発表者名

くま がい なお こ
熊谷 直子

役職
教諭

担当教科・学年
3年生

交流会感想

韓国のパク先生の「ESDを通して私たちの生活を見直していきたい」という部分が強く印象に残りました。及川先生の話の中にもありましたが、子ども達に体験的に捉えさせ故郷を受け継ぐ児童の育成が今求められていると思いました。

学校情報

学校長 おさだ かついち 長田 勝一 | 全校生徒数 239人 | 教員数 26人

所在地 〒988-0308 みやぎ けん け せんぬま し もとよしちよう つ やまつおか 宮城県気仙沼市本吉町津谷松岡126

TEL 0226-42-2613 | FAX 0226-42-2694

E-MAIL tsuyasho@motoyoshi.ed.jp

HP —

◆教育目標 学校教育目標は「かしこく、心豊かで、たくましい児童を育むと共に、自分とまわりを意識し、可能性を限りなく伸ばし、将来に夢と志をもって生きゆく児童を育成する。」であり、「津谷を見つめ、地域で学び、ふるさとの未来を拓く子供の育成」～人とつなぐ、自然とつなぐ、未来へとつなぐ～をスローガンとする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 宮城県北東部・南三陸地域の中央に位置し、海や山・田畑や川の豊かな自然に囲まれた、開校139年を迎える歴史と伝統のある学校である。東日本大震災後、日本各地から届いた支援物資やメッセージへのお礼を書く。緑化委員会を中心に、行う緑化・保全運動やケニアの緑化を応援する募金活動、縦割りや地域との交流活動を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

● サブカテゴリー
交流活動

対象者 1～6年生

対象人数 239人

地域教育～津谷を見つめ、地域で学び、ふるさとの未来を拓く子どもの育成～



緑化委員会：仮設住宅の方へあさがおの苗と竹をプレゼント。



全校：ひまわり栽培活動



3年生：幼稚園児とひまわりの苗植え

活動目的

津谷の恵まれた自然・地域の環境を生かした栽培・勤労体験を通じた緑化活動の充実を図り、「人・もの・こと」との関わりを通して、地域を愛しより良くする心を育み、自己の生き方を考える力の育成を目的とする。また震災のため校内に仮設住宅が建設される。これまで以上に地域との交流を大切に人を愛する心を育てる。

活動概要

1～6年生：

ひまわりプロジェクト…学校花壇でひまわりを栽培し、校内緑化活動を推進。秋のコンクールでの入賞学級を児童朝会で紹介。ひまわりを1人2鉢育て、自宅と近所の家へ配布。ひまわりの種は来年度用に回収。緑化委員が中心に育てた花や苗を地域に配布し、町の緑化を推進する。

あさがおプロジェクト…緑化委員が中心となって育てたあさがおの苗を仮設住宅の方に配布。

花の種を来校者へプレゼント…学校花壇で栽培した花の種を、学習発表会で来校した保護者や地域の方にプレゼントする。

1、2年生：運動会や給食の時間に幼稚園、保育所の園児と交流。

3年生：ホウセンカや百日草を育て、幼稚園、保育所の園児と栽培交流を行う。

4年生：津谷川の自然環境調査と保全活動。

5年生：稲作・大豆の栽培を通して、地域産業や地域の自然環境を学ぶ。

6年生：気仙沼・本吉の食材を生かし、オリジナルの「町弁作り」を行う。

いし かわ けん かな ざわ し りつ と いた しょう がっ こう

石川県金沢市立戸板小学校



発表者名

いずみ とし え
泉 紀恵

役職

研究主任

担当教科・学年

4年生

交流会感想

「ESDを推進する一番の原動力は危機感である」と聞いたことがあるが、そういった意味では現在の気仙沼は地域全体で危機感だけでなく、未来の創造園も共有でき、まさにESDが動く状況にあると感じました。

学校情報

学校長	なかがわ たかひろ 中川 隆博	全校生徒数	537人	教員数	25人
所在地	〒920-0051 いしかわけんかなざわ し ふたくちまち 石川県金沢市二口町八42				
TEL	076-231-5485	FAX	076-223-0170		
E-MAIL	toita-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/toita-e/				

◆教育目標 学校教育目標を「生きる力をもつ子の育成」とし、地域や自然を愛し互いを思いやる「心豊かな子」、確かな学力を身につけ自ら課題を見つけ高める「学ぶ意欲をもつ子」、関わりあいの中で自ら学び考え判断し、命を大切に逞しい心身を作る「よく考え行動する子」を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市中心部と日本海を結ぶ歴史ある街道沿いに位置し、1871年に開校。町の随所に神社があり地域の南端には犀川が流れる。近年大きな道路、工場団地や商店が周辺に作られる。2009年にASPに加盟し、地域の教材・人材との関わる体験活動を原動力とした問題解決型学習を深める。保護者や地域への活動発表や公開研究発表会で授業を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境● サブカテゴリー
交流活動

対象者 1～6年生

対象人数 537人

持続発展するESDをめざして ～戸板小ESD3年間の歩み～



底生生物の
実物と比べて
同定する



ESD学習発表会で自作の劇で学習したことを伝えた

活動目的

「ひと・もの・ことのかかわり」の内容面と問題解決型学習の学び方の二面でESDを捉え推進する。1年生は自然、2年生は地域、3年生は食文化、4年生は福祉、5年生は環境、6年生は国際理解をテーマとし、毎年より良い内容へと持続発展する工夫を行う。

活動概要

1～6年生：

体験活動の重視…体験活動の内容、タイミング、その

時に合った場や人を随時求める。

実践の記録…学年毎に毎時間の授業記録、使用資料・講師情報を書き残す。

学習履歴の共有…各学年の活動内容を校内学習掲示板に随時掲示。

発信する場の設定…ESD学習発表会を行い、保護者や地域の方にアンケートを実施し外部評価として活用。

5年生：「わたしたちの犀川」ASPnet加盟後の3年間の実践変化として紹介

調査方法…1年目は教師が採水し、水質・水生生物を調査。3年目は遠足を利用して児童が採水し、専門機関と連携してより高精度の調査を実施。

講師…1年目は金沢市環境指導課・森林組合職員。2年目は水生生物研究センター職員・金沢市内の高校化学部部員。3年目も高校生との交流を続ける。

発信…1年目は個人レポート。2年目は「犀川環境サミット」を開き、人にも他の生物にも良い環境にする提言を行う。

いし かわ けん かな ざわ し りつ ちゅう おう しょう がっ こう

石川県金沢市立中央小学校



発表者名

いけ はた ひろ ひさ
池端 弘久

役職

校長

交流会感想

気仙沼市の学校ではESDを進める上で重要な地域の教育的リソースを津波で失いながらも、ESDを始めとする教育活動を進められている報告を数多く聞き大きな感銘を受けました。

学校情報

学校長	いけ はた ひろ ひさ 池端 弘久	全校生徒数	534人	教員数	28人
所在地	〒920-0865 <small>いしかわけんかなざわしながまち</small> 石川県金沢市長町1-10-35				
TEL	076-262-8560	FAX	076-262-8055		
E-MAIL	chuuou-e@kanazawa-city.ed.jp				
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/chuuou-e/				

◆教育目標 「自己指導力を身につけた、心豊かでたくましい子どもを育成する」を開校以来掲げて、知徳体のバランスの取れた児童を育成し、自己肯定感を持ち、自己決定ができ、共感的な関係をつくる力が身につくよう教育活動を行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 金沢市都心の旧長町・長土堀・松ヶ枝町・芳斎町の4つの学校を統合し、1987年現在地に開校。2011年度で25周年を迎える。開校以来、統合前の4校の授業研究を継承発展すべく、自主的に教育研究発表会の開催や全国小学校理科・社会研究大会の開催に取り組み、金沢市学力向上拠点校の指定を受ける。2010年にユネスコスクールといしかわ学校版環境ISO認定校となる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 537人

出会い・発見・探求・行動 ～歴史の息づくまち、美しい環境を未来へ～



木の成長のためには間伐が必要であることを体表現で実感した



合宿で医王山系の医王の里・白兀山・夕霧峠・医王の里へと登山を行った

活動目的

金沢「絆」教育の一環として教育活動を充実するため、地域の交流を大切に、地域の持続可能な社会に繋がるリソースを再発見・再評価する。持続可能性への探究・行動、地域と共に経験できる取り組みから希望を持てる将来を担う児童の育成を目指す。

活動概要

1年生：「中央むかし遊び」地域の方から地域伝承の遊びを学ぶ。

2年生：「探検・発見・大発見」地域の建物・施設と住民の関係を調査し、地域の自然・環境を学ぶ。

3年生：「地域から学ぼう」地域の方から盆踊りを学ぶ。

4年生：「ふるさと再発見」校区用水路の水生生物を調査し、自然・社会・文化の環境を学ぶ。

5年生：「つながる!つなげる!」金沢の里山の生態調査から自然・社会・文化の環境の繋がりを学ぶ。校区用水の生態調査から環境保全と自分達の繋がりを学ぶ。

6年生：「中央環境白書」用水調査やツバメ観察を比較分析し、環境保全への取り組みを考える。「加賀百万石の秘密を探れ」加賀百万石関係の施設を見学・交流し、地域との「絆」を深める。

児童会：牛乳パック、アルミ缶等のリサイクル・エコ活動を継続的に取り組む。

金沢市・気仙沼市の両地域交流会に参加

ふく おか けん お お むた し りつ よし の しょう がっ こう

福岡県大牟田市立吉野小学校



発表者名

あら き かつ のり
新木 勝憲

役職
校長

交流会感想

気仙沼の先生方の発表は、震災前から行っていた内容・震災により出来なくなった為、内容を変更して実践している内容・復興に向けて積極的に取り組む内容があり、どれも力強さを感じるものでした。

学校情報

学校長	あら き かつ のり 新木 勝憲	全校生徒数	461人	教員数	24人
所在地	〒837-0912 <small>ふくおかけんおおむたし おおあざしらがね</small> 福岡県大牟田市大字白銀967-17				
TEL	0944-58-1037	FAX	0944-58-7990		
E-MAIL	yoshiro-es@st.city.omuta.fukuoka.jp				
HP	http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/yoshino-es/				

◆教育目標 学校教育目標に「心豊かで、知・徳・体のバランスのとれたたくましい児童の育成」を掲げる。ここ6年間は算数科の学力向上に取り組むが、2011年度は算数科の学力向上に加え、感謝と思いやりの心の育成を重点目標とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 戦後の石炭産業隆盛時に本市東北部の丘陵地に市営住宅を中心に開発された地域である。以来九州新幹線の新大牟田駅ができる等、新旧入り混じった住宅地域である。吉野町づくり推進協議会や公民館連絡協議会等の地域関係機関は充実しており、地域住民の教育への関心も高く、日常的な学習支援等非常に協力的である。1992年に生活科の研究発表会を実施し、自然環境や地域との関わりが以前より活発に取り組みれる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 461人

大切にしよう、吉野小学校の自然環境



「なかよし池」
環境改善のため
の植樹



調べた内容を公民館で発表

活動目的

校区は中心市街地への主要幹線道路が通っているが、校区にある河川はまだ汚染が進んでおらず豊かな自然が残されている。この環境を活用し自然と関わり環境保全を理解すると共に、地域と関わりながら自らできることを考える力を育成する。

活動概要

「守ろう! 私たちの自然環境」と題し、自然環境との関わりから環境・エネルギー教育に取り組む。

- 1年生: 「生き物と触れ合おう」 校内や校区での昆虫の調査、飼育をする。
- 2年生: 「レッツゴー! 町たんけん」 校区内の町探検で季節の移り変わりに伴う植物の変化を学ぶ。
- 3年生: 「生き物が住みよい学校に」 4年生が実施するなかよし池(観察池)の環境作りや飼育を調べる。
- 4年生: 「緑と水の憩いの広場大作戦」 壊れていたビオトープの復活・水質管理、鳥や水生生物を増やす取り組みを行う。
- 5年生: 「守ろう環境! 隈川・白銀川探検隊」 校区の川の水質調査。結果を地域に広報し、環境美化を啓発する。
- 6年生: 「育てよう環境! 吉野の未来のために」 施設見学を契機に、学校の緑化・地域の美化・省エネを考え、地域に啓発する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ しし おり ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立鹿折中学校



発表者名

さいとう さとし
齋藤 智役職
教諭担当教科・学年
理科・3年生

交流会感想

本校と類似した環境や全く異なる環境を持つ学校と実践について情報交換することは、生徒にとってとても良い学習の機会になるのではと思います、2012年度以降機会をもうけて実践していければと思います。

学校情報

学校長	むらかみ てつ や 村上 徹也	全校生徒数	213人	教員数	19人
-----	--------------------	-------	------	-----	-----

所在地	〒988-0812 <small>みやぎ けん け せん ぬま し おおとうげやま</small> 宮城県気仙沼市大峠山1-263
-----	--

TEL	0226-22-6764	FAX	0226-23-3160
-----	--------------	-----	--------------

E-MAIL	sisiori-jh@blue.ocn.ne.jp
--------	---------------------------

HP	—
----	---

◆教育目標 宮城県及び気仙沼市の教育基本方針に則り、本校生徒の実態や保護者・地域の願いを踏まえ「自らの将来を見据え、心豊かに力強く学び続ける生徒の育成」を教育目標とし、知（学ぶ意欲）、徳（認め合い・高めあい）、体（目標を持ち体を鍛える）のバランス調和を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市東北部に位置し山と海に囲まれた自然豊かな環境にあったが、大震災により大半の地区が壊滅的な被害を受ける。従来は地域の特色を生かし、地域の協力を得ながら8～10のテーマから生徒の主体的な活動を中心に学習する。防災教育では2009年度「防災まちづくり大賞」を受賞。環境学習ではNGOによる講演会を設け体験的な学習を行う。震災後は厳しい環境にあるが、実態に応じて継続して活動に取り組む。

●ESD・ASPnet関連の連絡会議

●ESDカレンダーの作成

●外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境● サブカテゴリー
防災教育 福祉 国際理解

対象者 1～3年生

対象人数 213人

ESD活動の一環としての総合的な学習の 時間の取り組み



有用微生物
の培養による
浄化活動



鹿折川上流地域の水生生物調査の様子

活動目的

郷土の自然環境に関心を持ち、重要性を認識する。郷土の自然を保護し、育てる心情・態度を育てる。地球環境の視点に立ち生活する意識を育てる。以上の3点を目的とし、文化祭での展示と壇上のプレゼンテーション発表を学習内容の報告の場とする。

活動概要

総合的な学習の時間で講座制を採用し、震災を踏まえ「防災1」「防災2」「福祉」「環境」「国際理解」

を設定する。生徒は希望の講座に分かれ、研究活動に取り組む。

「環境」では鹿折の環境を考える活動から郷土の自然愛護の意識を高め、震災後も残る鹿折の環境を保全・復興に貢献する生徒の育成を目的とする。安全性や調査方法を検討し、鹿折の河川調査を行う。震災前も河川調査を行っており、震災前後での水質変化について調査を実施する。また河川の環境保全活動を考える。生活排水や節水について学び、家庭からの実践に取り組む。

他講座でも担当教員が指導し、地震の仕組みや震災時の対応、現在の支援状況を調査する。被災した地域として、郷土の環境に目を向け日本や諸外国との関わりを考える取り組みを行う。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ から くわ ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立唐桑中学校



発表者名

とう やま あつし
藤山 篤

役職
教務主任

担当教科・学年
理科

交流会感想

分科会で奈良市立柳生中学校の校長先生の「子どもたちに自分たちのふるさとを誇りに思ってもらいたいと願って努力している」という話は大変感慨深かったです。今後もこのような交流会に参加して、学びを深めたいと思いました。

学校情報

学校長	こまつ やすお 小松 康男	全校生徒数	167人	教員数	16人
所在地	〒988-0541 <small>みやぎ けん け せんぬま し かわくわちちゅうぎたなか</small> 宮城県気仙沼市唐桑 町北中130番地				
TEL	0226-32-3144	FAX	0226-32-3073		
E-MAIL	karachu@dream.ocn.ne.jp				
HP	準備中				

◆教育目標 心から人間と社会を愛し、想像力と実践力に富む生徒の育成を図る。(1)心豊かな生徒 (2)勉強に励む生徒 (3)健康で明るい生徒その内容を(徳)お互いのよさを認め合い、決まりを守り助け合う生徒、(知)自ら進んで課題に取り組み学習に取り組み生徒、(体)心身を鍛え、健康で明るい生活を進める生徒、とし、来ることが嬉しく居ることが楽しく、夢を語れる学校を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 雄大な自然に囲まれる宮城県最北東部に位置し、2006年に気仙沼市と合併。生徒は明るく純朴で、学習活動へ自主的に誠意をもって取り組める。東日本大震災で町の中心部や海岸沿いの集落が津波の被害を受け、生徒の十数名は現在も仮設住宅や親戚の家から通学する。第1回ESD大賞 ユネスコスクール最優秀賞、2010年度チャレンジ25 学校チャレンジ表彰制度最優秀校を受賞する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

● サブカテゴリー
エネルギー エコロジー

対象者 1～3年生

対象人数 167人

2050年 私たちのエネルギーについて考えよう



BDF燃料について講義



放射線教室 霧箱の実験

活動目的

2050年、生徒たちが50歳になるころ、ふるさと唐桑のエネルギーをどのように供給し、利用していくかを考え、持続的・発展的な社会をつくるため、夢や志、プラスの気づきをもってエネルギーを学習し考えを発信することを目的とする。

活動概要

1年生：地域を知ることと物質の循環

NPO法人「森は海の恋人」、NPO法人「大島大好き!」、三陸EM研究会、佐々木産業（リサイクル業者）の協力で、自分たちの地域の環境を深く知り、海や生活での物質循環を学習。

2年生：「事業所等のリサイクルとエネルギー問題の実際」

海の物質循環の学習を更に深めると共に、海のエネルギーを学習する。職場体験から、事業所等のリサイクル意識やエネルギー問題の実際について調査学習。

3年生：「2050年 私たちの唐桑」

東北大学・浅沼宏准教授、東北電力・松田厚生氏、東北放射能センター、NPO法人「森は海の恋人」の協力で、修学旅行自主研修で訪問したリサイクル・エネルギー先進地域での取組を見学・体験学習し、エネルギーの基礎・応用や発電・送電、放射線についての講話を受ける。

学んだことを生かして個人レポートを作成、最終的に2050年のエネルギーについてレポートする。

各学年、学年発表会を経て全校発表会で公表し、情報を共有する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おお しま ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立大島中学校



発表者名

くま がい こう き
熊谷 孝貴

役職
教務主任

担当教科・学年
数学

交流会感想

交流会での発表は自然環境、伝統文化、産業など様々な視点がありました。すべてが私たちが生きていく中で廃れてはいけないことばかりです。そう考えると「ESDとはごく当たり前のことを当たり前としていくための営み」だと思いました。

学校情報

学校長 すずき たかみ
鈴木 孝三 | 全校生徒数 80人 | 教員数 12人

所在地 〒988-0613 みやぎ けん け せん ぬま し たか い
宮城県気仙沼市高井40

TEL 0226-28-2610 | FAX 0226-28-3255

E-MAIL osim-t5@mopera.net

HP —

◆教育目標 宮城県及び気仙沼市の教育基本方針に基づき「確かな知性と豊かな心を備え、創造力と実践力に富み、知・徳・体の調和のとれた健康で逞しい生徒」を育成するため、「創造・友愛・前進」の学校教育目標を掲げている。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 陸中海岸国立公園南端に位置し、気仙沼湾に浮かぶ周囲約22km、人口約3,200人の離島である。島民の多くは海にかかわる仕事に就いている。しかしながら、家業の養殖業等の手伝いをする生徒はほとんどいない。本校では「地域のよさを知り、持続して地域資源を活用する」ことに視点をあて、ホタテの養殖に取り組んで、循環型の生産と環境の在り方を探っている。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～3年生

対象人数 80人

ホタテ貝の養殖体験活動を通じた 海洋環境学習



稚貝の仕分け



ロープワーク

活動目的

体験活動を取り入れた環境教育を進める中で、自分たちを取り巻く環境に目を向け、望ましい環境の保全、育成、自然を愛し、守る実践的態度の育成、人と自然のかかわりを理解し、自然と共生する態度の育成を目的とする。

活動概要

「ホタテ貝の養殖体験学習」を活動の中心とするが、東日本大震災により地域の養殖いかだが全て流失し、活動の継続が不可能の状態である。そこで、震災前の活動内容を紹介する。

ホタテ貝養殖の4つの工程を、大島の漁業指導師・養殖従業者・漁船員OB会の協力を得て体験学習する。

- ①「稚貝採種」は稚貝を付着させる採取用ネットを作成する。
 - ②「分散」は大きさ別に稚貝を分別し成長を促す。
 - ③「耳吊」は貝を1つずつロープに吊るし成長を促す。
 - ④「水揚・出荷」は育った貝を水揚げし、フジツボ等を除去して島内の食堂等で販売する。
- 2009年度よりインターネットを利用しての通信販売を試みる。

以上の4工程を2年で1サイクルとする。また養殖体験を核に、「海洋環境学習講座」「環境教育講座」「ロープ結び体験」「遠洋漁業講演会」「漂着物調査」を各関係機関との協力で推進する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おお や ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立大谷中学校



発表者名

い とう こう じ
伊藤 浩志

役職
教諭

担当教科・学年
社会・1年生、技術・1～3年生

交流会感想

交流会全体から感じたことは、ESDと復興は切っても切り離せないものがあるということ、そして、自然豊かな地域の環境に目を向けていなくてはと強く感じました。

学校情報

学校長	うえすぎ よしのり 上杉 良範	全校生徒数	116人	教員数	14人
所在地	〒988-0273 <small>みやぎ けん け せん ぬま し もとよし ちょう みしま</small> 宮城県気仙沼市本吉町三島60-4				
TEL	0226-44-2004	FAX	0226-44-3742		
E-MAIL	ohyachu@motoyoshi.ed.jp				
HP	—				

◆教育目標 学校教育目標を「心豊かな生徒 生き生きと学ぶ生徒 明るく健康な生徒」とし目指す生徒像に「他人への思いやりを持って個性の違いを認め、目標を持って自主的に活動し、運動に親しみ健康と安全を大切に最後まで粘り強くやり抜く生徒」を掲げる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市の南にあたる海と山に囲まれた自然あふれる地域である。総合的な学習の時間「なみま」では体験活動と探究活動を2つの柱とし、本校の環境保全計画に取り組む。2004年度より小野寺雅之氏を講師として迎え「大谷中ハチドリ計画」を活動の軸に、各学年ごとにテーマを設定し活動している。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～3年生

対象人数 116人

「ふゆみずたんぼ」の再生



除草作業の様子



田植えのあとのひととき

活動目的

地域の林業・漁業・農業に目を向け地域産業の活性化を図る。震災の影響で思うような活動が不可能となった中、2011年度は1年生は「大谷の木と水」に、2年生は「大谷の海」にテーマを変更し、3年生の「ふゆみずたんぼ」の再生を中心に活動を進めた。

活動概要

1年生：「大谷の木と水」

学校で専門家の講話とワークショップを実施。小水力発電機と多種の木々に出会い、小学校6年生と共通の課題を設定し課題解決に取り組む。

2年生：「大谷の海」

漁業関係や地域へ現状のインタビューや海岸の調査を行い、出来る範囲での活動から今後の活動を模索する。

3年生：「ふゆみずたんぼ」

津波で瓦礫だらけの田であったが、4月下旬に用水路清掃、5月上旬に全国のボランティアの協力で瓦礫撤去を行い、ふゆみずたんぼが再生した。6月に畦の補修作業等を経て幼稚園児・小学生・中学生等400名以上の参加で田植えを行った。10月の稲刈りまでに草取り、生育調査、生態調査を行い、11月に収穫祭を開催。寿司職人に来校してもらい寿司にして食べた。また地元道の駅で「大谷っ子米」として販売。売り上げは次年度の活動資金とする。

な ら けん な ら し り つ や ぎ ゆ う ち ゆ う が つ こ う

奈良県奈良市立柳生中学校



発表者名

うら さき のぶ たか
浦崎 信高

役職

校長

交流会感想

気仙沼市教育委員会が率先してのユネスコスクールであろうが、各校の報告の中に借り物でないESDの理念が息づいていると感じ、及ばずながらも見習っていきたいと思いました。

学校情報

学校長	うら さき のぶ たか 浦崎 信高	全校生徒数	18人	教員数	11人
所在地	〒630-1237 奈良県奈良市柳生町212-2				
TEL	0742-94-0222	FAX	0742-94-0901		
E-MAIL	yagyuu-j@naracity-ed.ac.jp				
HP	http://www.naracity.ed.jp/yagyuu-j/				

◆教育目標 元気と活力を地域に向かって輻射 (radiate) することを目指す。輻射の「輻」は、自転車のスポークの様にあらゆる方向に伸びていくものを意味する。学校の全ての活動を通じて地域にエネルギーを与え、共振を呼び起こす取り組みを、創意工夫をこらし前例に捉われず展開する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 奈良市東部の山間に位置する校区には、春日大社の荘園などの歴史と山里で育まれた水と緑にあふれる自然がある。雑木山と化した校地の摩利支天山に「学校を核とした祭と和みの場を再生し、柳生地区の次の50年を展望したシンボルとして甦らせる」サクラプロジェクトを構想する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境●サブカテゴリ
伝統文化(歴史)

対象者 1～3年生

対象人数 18人

地域へ元気をradiate! ～地域を活性化すると同時に地域を守る主体を育てる～



湿性ビオトープ
を校内に造成



摩利支天山に桜の苗木を植樹

活動目的

厳しい現実の中で、地域の歴史や自然を再発見・再評価する取り組みを進め、地域の学校の元気をふりそそぎ地域を活性化すると同時に地域を守る主体をつくる。

活動概要

①サクラプロジェクト 摩利支天山再生

生徒たちの手で46本の桜苗木を植樹。柳生の心のよりどころとして再生を目指し手入れを継続する。(ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成)

②ビオトープ ニッポンバラタナゴ里親

学校の実習用水田跡に湿生ビオトープを造成。(毎日新聞・国際花と緑の博覧会記念協会助成)

近畿大学との連携により、ニッポンバラタナゴの放流を行う。大学教員より絶滅危惧種について指導を受ける。

③景観学習 校歌の風景

2010年は世界遺産学習として、残したい地域の宝物を生徒たちが自分の足で校区を探索し発表する。これを発展させ、校歌の語句の意味学習を国語科、歌唱を音楽科、歴史的な内容を社会科と体育科(木剣体操)、自然的な内容を理科で学ぶ。自らの目と心で咀嚼することを目指す。また学習内容を発表し、調査内容をまとめる力を育成する。(都市文化振興財団助成)

みやぎ けん けい せん ぬま こう とう がっ こう

宮城県気仙沼高等学校



発表者名

き むら なお ゆき
木村 直敬

役職
教諭

担当教科・学年
生物、2年生

交流会感想

交流会では、気仙沼や三陸地方の学校は今後の日本の防災教育の起点となり、東日本大震災の被災地として他の地方や海外に防災教育やボランティア活動の重要性を伝えて行く役割を担っていくのだと感じました。

学校情報

学校長 しょうじ ひでとし 庄子 英利 | 全校生徒数 818人 | 教員数 73人

所在地 〒988-0051 みやぎけん けいせんぬましじょうらく 宮城県気仙沼市 常楽130

TEL 0226-24-3400 | FAX 0226-24-3408

E-MAIL info@kesenuma-h.myswan.ne.jp

HP <http://kesenuma-h.myswan.ne.jp/>

◆教育目標 新しい時代に対応できる学力の形成を図り、創造的能力の啓発に努め国家及び社会の形成者としての資質を養う。心身を鍛え豊かな情操と協働の精神を培い、個性の伸長を図る。地域の自然や文化を学び、国際的視野に立ち活躍する人物を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 希望者を募り、環境教育と国際理解教育に力を入れる。環境教育は自然科学部の活動を中心に、植樹活動や生物多様性の学習に取り組む。地域の自然環境を学ぶため、バスで地層の見学や博物館を巡る地理巡検を行う。国際理解教育はオーストラリアへの短期語学研修、校内スピーチコンテスト等を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 自然科学部

対象人数 7人

気仙沼地域の復興を考える活動



田んぼを耕して区画整理



放射能測定の様子

活動目的

東日本大震災は各地に未曾有の被害をもたらし、更に追い討ちをかけるように福島第一原子力発電所での事故が発生した。気仙沼の田畑は津波で浸水し、生徒達は放射能による目に見えない不安を抱く。2011年度は震災後の気仙沼の環境変化を調査し、今後の復興のため何が出来るかを考えるきっかけとする。

活動概要

①ケナフを使い、震災で冠水した田んぼの回復を試みる実験。

放課後に海水に浸かった田んぼの見学に行く。田んぼのごみを片付け復興の手助けを考え、塩害からの回復のためケナフという植物に田んぼの塩分を吸収させる活動に取り組む。5月に田んぼの瓦礫を除去し、田んぼを耕し畑を作る。同時にケナフの苗を育成。6月にケナフを移植し、宮城教育大学環境教育実践センターの協力のもと月ごとの塩分濃度を測定。夏休みには除草作業を行い、3ヶ月間実験を行う。ケナフの生長より土壌環境の安定を確認する。

②本校敷地内での放射線量測定

5月中旬より校内の空気中の放射線量率を調べる。調査結果を毎日昇降口に掲示し、全校生徒へ情報を発信する。基準値より低い値になるが、今後の海洋汚染や体内被曝等と向き合う中で情報、知識、判断を正しくすることを学ぶ。

みやぎ けん け せん ぬま し にし こう とう がっ こう

宮城県気仙沼市西高等学校



発表者名

あお き じゆん
青木 淳

役職
教諭

担当教科・学年
理科・1年生

交流会感想

今回は地域交流会ということで、日頃接触の機会が少ない義務教育現場の活動を中心に知ることができ、今後本校に入学してくる生徒達の指導にいくらかでも生かすことができれば幸いと考えています。

学校情報

学校長 いのうえ まさかつ 井上 雅勝 | 全校生徒数 361人 | 教員数 33人

所在地 〒988-0171 みやぎ けん け せんぬま し あかいわまさわ 宮城県気仙沼市赤岩牧沢155-1

TEL 0226-24-1414 | FAX 0226-24-1413

E-MAIL chief@knisi-h.myswan.ne.jp

HP <http://knisi-h.myswan.ne.jp/>

◆教育目標 確かな目的意識を持って、将来の可能性を拓き次世代への責任を果たし、日本及び世界の共同社会の形成と発展に貢献できる、自主性に富み個性ある人間を育成するため「健やかな心身の鍛錬」「豊かな人間性の育成」「実りある知の達成」を教育目標に定める。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 恵まれた自然の中から学術的に貴重とされる生物や地学的題材をテーマに理科巡検を全校生徒に実施する。また「福祉の里」と称される様に校区には福祉施設が集中しており、普通科ながらも福祉類型を設置し、福祉分野に関わる生徒を育成する。これらの生徒育成の一環と地域貢献の側面から施設と協力して運営をする。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | 自然・環境● サブカテゴリ
福祉

対象者 1～3年生

対象人数 361人

東日本大震災以前・以降の取り組みについて



森林環境、地層の学習



福祉施設での校外実習

活動目的

地域の自然環境の観察や公共展示施設の見学を通して、環境の成り立ちや生物への理解を深め、興味を喚起し主体的に地域の自然に関わる態度を育成する。福祉施設の見学・交流・様々なボランティア体験を通して、福祉の意義や課題を理解し福祉に対する認識を深め協調性や共生の意識を高める。

活動概要

<環境教育>

1、2年生を対象に隔年で①唐桑・大船渡方面②大谷・岩井崎方面の巡検地を設定。①は大船渡博物館と周辺の環境、唐桑津波体験館及び森林環境・地層の学習。②は海岸の生態や地層・地域で発見された化石に焦点を当て学習。地域や文化と自然の関わりを考える。

<福祉教育>

学校近隣には福祉施設が多く、開校時からボランティア活動は盛んである。2000年度から福祉類型が設置され、資格取得や「心の成長」を促し地域福祉に貢献できる人材を育成する。学校が設定する実習や交流会、外部講師による講話等を積極的に実施。近隣の支援学校との交流会は、生徒が企画・運営する。長期休業期間は社会福祉部と福祉類型生徒が福祉施設等の行事運営のボランティア活動を行い、様々な施設との繋がりを深める。

さい たま けん し りつ し びらき しょう がっ こう

埼玉県さいたま市立新開小学校



発表者名

み たに しげる
三谷 茂

役職
教諭

担当教科・学年
5年生

交流会感想

米国のジェームズ校長先生が「テキサス州カリスパークと気仙沼のつながり」について講演しました。その中で様々な社会に関する事象について、体験や問題を「共有する」ことの大切さを話され、大変同感でございました。

学校情報

学校長	さいとう やすひこ 齊藤 靖彦	全校生徒数	423人	教員数	20人
所在地	〒338-0834 <small>さいたまけん</small> 埼玉県さいたま市 <small>し さくらく し びらき</small> 桜区新開 2-18-1				
TEL	048-864-6741	FAX	048-836-1577		
E-MAIL	shibiraki-e@saitama-city.ed.jp				
HP	http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/				

◆教育目標 「自ら学び、主体的に判断し行動できる子どもの育成」を教育目標に自ら学ぶ子（よく考え、進んで学ぶ子）、たくましい子（心身共に健康で、忍耐強く責任の果たせる子）、あたたかい子（相手を思いやり、協調性を持ち生き生きと活動できる子）の育成を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 埼玉県南部に位置し、土手や河川敷公園等の比較的 naturally 恵まれた地域にある。中でも「さくらそう公園」には国の特別天然記念物サクラソウの自生地があり、また近くの土手にはカントウタンポポの自生群もあり、野鳥や虫も多く生息する。これらの様々な自然教材を活用して本校では環境教育を行い、地域の環境を守る活動に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

自然・環境

● サブカテゴリ
食(生産・消費)

対象者 1～6年生

対象人数 423人

環境に関わり、環境を考え、 環境に働きかえる新開っ子の育成



カントウタンポポ
やサクラソウを
増やす取組み



カントウタンポポやサクラソウを増やす取
組み

活動目的

児童が身近な環境に触れ、自分の思いをめあてに主体的に課題解決する能力を養う。変化する地域の環境に目を向け、より主体的に環境に働きかける児童を育成する。

活動概要

- ①「身近な環境について自ら課題解決できる学習の工夫」を柱に、「直接体験や繰り返し関われる学習教材の開発」「環境意識を連続、発展できる学習展開の工夫」「評価と支援」を手立てに、1・2年生は「新開小を大好きになろう」「新開の町を大好きになろう」、3・4年生は「虫のたくさんいる新開小にしよう」「サクラソウのある町にしよう」、5・6年生は「クロメダカ環境博士になろう」「カントウタンポポと地域の環境」に取り組み、グループ内会議や他学年への発表、「さいたま市環境フォーラム」への参加を実施。
- ②「よりよい環境づくりを実践できる活動の工夫」を柱に、「自分の生活を見つめ、行動できる工夫」「家庭、地域との連携」を手立てに、委員会活動を中心とする古紙回収リサイクル活動、縦割り活動での普段清掃しない場所を清掃する美化活動、特別活動としてエコ集会「新開エコラリー」に取り組み。また地域のボランティア団体には積極的に学習の協力をしていただいている。

とう きょう と た ま し り つ た ま だ い い ち し ょ う が つ こ う

東京都多摩市立多摩第一小学校



発表者名

たな ほし かん
棚橋 乾

役職

校長

交流会感想

温暖化について扱えば、地域と交流すれば、自然体験すればESDかというところではなく、持続可能な社会づくりに必要な資質能力を捉えて、その上でのESDであり、ユネスコスクールであろうかと感じました。

学校情報

学校長 たなほし かん 棚橋 乾 | 全校生徒数 690人 | 教員数 30人

所在地 〒206-0011 とうきょうと たましせきど 東京都多摩市関戸3-2-23

TEL 042-375-7020 | FAX 042-337-7621

E-MAIL -

HP <http://www1.ttv.ne.jp/~tama1/>

◆教育目標 「自ら考え行動できる子」「健康な子 思いやりのある子 自ら学ぶ子」を教育目標に掲げ、読む・書く・計算する力の定着、知識を活用して問題解決を図る力を育成する。他校と積極的に交流を深め、教科横断的な探究学習を充実させる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 多摩市内で最も古くからあり、2011年に創立100周年を迎えた。校内の古戦場や鎌倉街道、多摩川など恵まれた環境の中で、NPOの指導のもと多摩川での体験学習や地域農家の指導のもと稲作体験、環境学習に取り組む。2011年度はグリーンカーテンのためゴーヤの苗を地域に300株配布する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境●サブカテゴリー
交流活動 ボランティア活動

対象者 4年生

対象人数 104人

ゴーヤプロジェクト 笑顔を送ろう、地球のために、日本のために



街頭で市民へ
ゴーヤ苗を配布



話し合い活動

活動目的

活動目的・方法・広報を児童が考え話し合い、地域と交流・交渉する中で児童の問題解決力の向上、地域と関わり地域を大切に思う心情の育成を目指す。4年生が理科で育てたゴーヤを市民に配布し、地球温暖化を考えグリーンカーテンに取り組むことを主な活動として行う。

活動概要

理科で観察したゴーヤ400株のうち300株の活用方法を相談し、地域のグリーンカーテンで使うゴーヤが不足していることから広く市民に配布し、地域での温暖化防止へ取り組むこととする。配布方法・日時・広報など児童がそれぞれ工夫した方法で実施する。実際は学級ごとに3日間校区内にある私鉄駅前で配布し、その際に被災地支援を呼びかけ募金を集め、児童が書いた寄せ書きとともに気仙沼市教育委員会に届ける。

①たくさんあるゴーヤの苗をどのように活用するか、②実際にどこで活動するのがよいか、③どのようなことがしたいのか、どのような仕事が必要か、を話し合い、必要物品の準備・当日の活動分担・配布シナリオ作り・当日の運搬などの仕事分担、当日の活動、グループや学級での振り返りに取り組む。

あい ち けん おか ざき し りつ しん か やま ちゅう がっ こう

愛知県岡崎市立新香山中学校



発表者名

やま うち たか ひろ
山内 貴弘

役職

教務主任

交流会感想

分科会はわずか3分と短い発表時間ではあったが、どの実践にも素晴らしい教育教材が見られ、参考になりました。特に気仙沼の学校は地域の特性を活かした教材開発が進んでいると思いました。

学校情報

学校長	ごん だ たか し 権田 隆志	全校生徒数	277人	教員数	26人
所在地	〒444-2141 <small>あい ち けん おか ざき し くわ はら ち ょ う おお さ わ</small> 愛知県岡崎市桑原町大沢20-86				
TEL	0564-45-2026	FAX	0564-45-7803		
E-MAIL	shinka@st.oklab.ed.jp				
HP	http://www.oklab.ed.jp/weblog/sinka/				

◆教育目標 校訓「創造」教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成」とし、師弟同行のもと校是「真面目・精一杯の心」「自主・自立」を育む。生徒の健やかな成長を願い、確かな学力・豊かな心・家庭や地域との連携を柱に教育活動を推進する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 岡崎市北部に位置し、地域は豊かな自然と山を切り開いて造成された新興住宅地の2つの特徴を持つ。開校以来ササユリの保護活動に、全校生徒が積極的に取り組む。2010年度に全小中学校で「岡崎市環境学習プログラム」が実施導入され、1年生では「獣害」をテーマに共生社会の在り方を考える新香山プログラムに取り組み、2・3年生はエコの取り組みを具体的に行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 自然・環境

対象者 1～3年生

対象人数 180人

環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成 ～環境学習を基盤としたESDの展開～



生物多様性の
しくみと大切さ
を実感する赤
い糸の体験
活動



環境家計簿を気仙沼市唐桑中学校とデータ比較して、エコの取り組みについて考えている。

活動目的

校区の自然環境の変化を感じ取り、持続可能な社会作りの視点で考えを深める教材開発・プログラム化を行う。2年次では教科横断的取り組み・ESDの知識の広がり・学びの深化を構成する。「人間と環境の関わりを正しく認識し、責任を持って持続可能な社会作りに自主的に参画する人材」を育成する。

活動概要

1年生：人の営みによる身近な生物の急激な減少等から生態系の崩壊が人類絶滅への一步であることを意識し、「生態系の一員である人類」として共生社会の実現を目指す意欲や態度を育む。校区での獣害が増加していることから、新興住宅開発・道路の拡張工事、間伐・下草狩りの山の保全活動が進められていない現状に眼を向け、関連する探究活動を設定し共生社会を考え自分の生き方のキーワードを導き出す。

2年生：東日本大震災で被災した中学校の環境学習や復興に取り組む中学生の取り組みを学び、持続可能な街作りを考える。

3年生：環境家計簿と1日1人2kgのCO₂排出削減に取り組み、自分の生きる信条となる倫理観を身に付ける。日本の生活が大量エネルギー消費を基盤としている実感を持ち、持続可能な社会作りの視点・アイデア・学びを共有する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ はし かみ しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立階上小学校



発表者名

お の でら ひろ ふみ
小野寺 裕史

役職

教務副主任・研究主任

交流会感想

基調講演でのアメリカ、韓国の先生方の報告から、地域社会の問題を解決していくことの大切さは国が違っても同じであり、自分達の活動のヒントとして取り入れられるものがあると感じました。

学校情報

学校長	すず き じんいち 鈴木 仁一	全校生徒数	237人	教員数	20人
所在地	〒988-0223 <small>みやぎ けん け せん ぬま し ながいそとり こさわ</small> 宮城県気仙沼市長磯鳥子沢23				
TEL	0226-27-2303	FAX	0226-27-2303		
E-MAIL	hasi-12@almond.ocn.ne.jp				
HP	—				

◆教育目標 生きる力を支える「確かな学力」「豊かな心」「健康でたくましい体」の育成を目指し、学校教育目標として「かしこい子」「やさしい子」「たくましい子」の育成を掲げる。「楽しく学び合い考える子」「思いやりと正しい心をもつ子」「逞しい体と心でがんばる子」のように、目標に沿った教育活動に取り組む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 東は海に面し観光産業や養殖中心の水産業が行われ、西は山に面し田畑での農業が行われている。地域は協力しあう体制が出来ており教育活動へも好意的で、三世同居の割合が高く生活習慣の教育も行き届いている。地域の協力で充実した体験学習が行われてきたが、震災により観光、水産関係は壊滅的に被災し、田畑も多く被災した。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

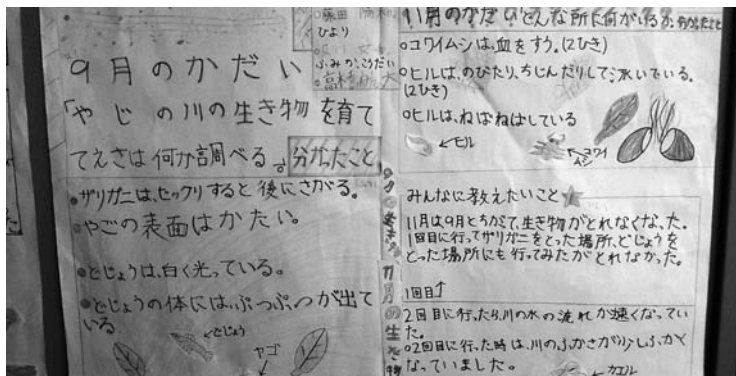
メイン
カテゴリー | 食(食育)

● サブカテゴリー
自然・環境 食(産業・経済)

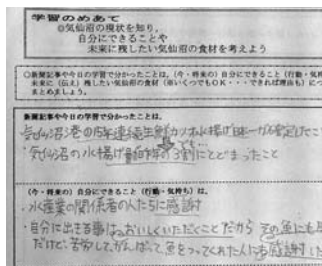
対象者 3~6年生

対象人数 157人

食を通して地域をみつめ 持続可能な郷土の未来を描く児童の育成



3年生 「やじの川ひみつをさぐる」のまとめ



6年生 「味の方舟」 児童のノート

活動目的

階上地区や気仙沼市の食や暮らしについて、問題解決的地域学習「階上小学校スローフード学習」を実施する。未来に残したい気仙沼の食材を中核に「理想とする未来社会」の実現へ向け、一人ひとりが方法を考え具体的に提言する。

活動概要

- 気仙沼市のスローフード都市宣言を基に、2002年より「階上小学校スローフード宣言」をする。1~6年生まで「食」の課題を見つけ、地域と関わり系統的に学習する。地域の「食」から、生き方や将来の在るべき姿を提言する力を育てる。
- 3年生：地域の「やじの川」に着目し、生態・水質・農業水路等の環境を調査。川の役割と農作物との関わりを学ぶ。
- 4年生：学校近くの田で体験・観察学習。環境と主食としての米の役割を考える。2011年度は震災により学校田が使用できず、観察や取材を中心に地形や気候と収穫の関係や工夫を学ぶ。
- 5年生：水産業に着目し、産業とくらしや地元食材と環境の繋がりを課題に探究活動を行う。また被災した校区の養殖業を題材に「階上の養殖業の未来」を課題追究する。
- 6年生：「スローフードを知ろう」では気仙沼のスローフードを学び、学習旅行で岩手県盛岡地方のスローフードと比較・体験学習をする。「味の方舟」では6年間の学習から、気仙沼の食の魅力や未来に伝える取り組みを考え、具体的な実践として提言する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ こ はら ぎ ちゆう がっ こう

宮城県気仙沼市立小原木中学校



発表者名

なが さわ
永澤 まりこ

役職

技師(栄養士)

交流会感想

海の産業が盛んな気仙沼で起こった津波被害。養殖体験や海辺での活動が困難となる学校もあり、海から山へ視点を変えながらも、気仙沼の自然と向き合っているようでした。

学校情報

学校長	よこやま ひでとし 横山 秀敏	全校生徒数	39人	教員数	13人
所在地	〒988-0511 <small>みやぎ けん け せんぬま し かわくわちようたて</small> 宮城県気仙沼市唐桑町館68				
TEL	0226-34-3614	FAX	0226-34-3282		
E-MAIL	koharagi@chorus.ocn.ne.jp				
HP	http://koharagi.web.fc2.com/				

◆教育目標 「豊かに考え、表現できる生徒」を目指し、学校教育目標及び校訓に「健康一自ら心身を鍛える生徒」「想像一粘り強く考える生徒」「礼節一けじめある生活を実施する生徒」を掲げる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 岩手県陸前高田市と隣接する宮城県最北東端に位置し、風光明媚で豊かな自然に囲まれる。東日本大震災で甚大な被害を受けたが、世代同居の世帯が多く家族の絆・地域の連帯が強く、皆で子どもを育てようという高い教育力がある。本校は健康は自分で守るという意識が強く、1987年より宮城県健康な口腔と良い歯の学校表彰を連続受賞し、2007年度から「食育全体計画」、2008年度から「食に関する年間指導計画」を教育計画に加え、学校全体で食育を推進する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 食(食育・健康)

対象者 1～3年生

対象人数 39人

食を通して地域を学び、生きる力を高めよう



こんにゃくづくりの様子



学校農場での活動風景

活動目的

食は生きる上での基本だと踏まえ、心身の成長や健康の保持増進への望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自らの健康を管理・改善していく能力を身に付ける。給食を通し食事のマナーや衛生管理を身につけ、食事を通して好ましい人間関係を形成する。また、地域の産物や食文化を理解し、食べ物を大切にすることを養う。

活動概要

①給食指導での実践

ランチルームでの全校給食を実施し、生徒・教員の交流の場、マナーや手洗い指導の場とする。給食前には生徒が輪番で、献立や地場産品等の豆知識を紹介する。

②地場産品の積極的な取り入れ

地元生産農家で構成される団体と栄養士が定期的に打ち合わせ、旬の野菜を給食に活用する。

③掲示物の工夫

階段や玄関に食育コーナーを設け、生徒が興味をもつ掲示物を貼り出す。

④学校農場での活用

技術の授業や生徒会活動でこんにゃく芋、ナス等を栽培する。地元生産農家の指導で栽培、こんにゃくへの加工を学び、文化祭で販売する。

⑤保健講話

歯の衛生週間に養護教諭と栄養士が連携し、虫歯や清涼飲料水の講話を行う。

⑥歯科校医との連携

歯科校医を講師に「歯と口の健康」の授業を実施する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ じょう なん ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立条南中学校



発表者名

お の であ り こ
小野寺 紀子

役職
教諭

担当教科・学年
社会・2年生

交流会感想

自然と共生、地域との関わり、コミュニティを生かす工夫等、問題解決に向けて今の生活を見直し、世代間の交流を経ながら将来に伝えることの重要性、取り組みませ方などを改めて考えさせられました。

学校情報

学校長名 くまがい ちようえつ 熊谷 長悦 役職: 校長 全校生徒数 269人 教員数 28人

所在地 〒988-0053 みやぎ けん け せん ぬま し た なかま え 宮城県気仙沼市田中前4-8

TEL 0226-24-3131 FAX 0226-24-3132

E-MAIL jyounan-jh@blue.ocn.ne.jp

HP <http://www.geocities.co.jp/NeverLand-Homeroom/3945/>

◆教育目標 「いのちを大切に、たくましく伸びる生徒（健康・活力）、思いやりをもって、共に明るく生きる生徒（友情・寛容）、自ら学ぶ喜びを求める生徒（自主・責任）」を学校教育目標とする。東日本大震災により大きな痛みを背負う生徒が多い中、「思いやり」に重点を置き教育活動を行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 大川と神山川に挟まれたかつての田園地帯にあり商店街も多く、震災後は仮設住宅建設、事務所移転等で最も往來の激しい地域となる。「国際社会の一員としてふさわしい人になろう」をテーマに、地域と協力して体験的・探究的活動を行う。ふるさと「気仙沼」・日本を知り、発信する。2010年度より講座数の増設・縦割り活動への変更を行い、より主体的な活動とする。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン | 国際理解
カテゴリ

対象者 1～3年生

対象人数 269人

国際社会の一員として、ふさわしい人になろう



水木流師範水木史裕先生からの師事を受け、日本舞踊について理解を深めると共に、文化祭では日本舞踊(現代舞踊)を披露した。



気仙沼の復興について調査、発表

活動目的

日本の伝統文化を知るとともに他国の様々な歴史・文化の理解を深め、各々の良さを尊重し合う態度を育成する。相手の立場を尊重し、自分の考えや意見を表現する力を育み、地域社会や海外との繋がりを考え積極的に交流し、共に生きる態度を身に付ける。

活動概要

地元「気仙沼」を起点に世界を見るために「自然」「文化」「生活」に関する講座を開設。

「自然」…防災、身近なものの統計、気仙沼の復興

「文化」…haiku、条南中学校気仙沼観光課、気仙沼の方言、気仙沼と古典文化芸術

「生活」…音楽と生活、気仙沼とデザイン

講座は縦割り活動で地域の協力のもと、本や資料での調査活動、校内外での体験活動等を行う。校内発表会、文化祭でのステージ発表及びワークショップ形式の発表・展示発表を設け、保護者や地域へ学習内容を発信する。



気仙沼の魅力をもとめたパンフレット作成

みやぎ けん け せん ぬま し りつ ま ごめ よう ち えん

宮城県気仙沼市立馬籠幼稚園



発表者名

さいとう さつき
齋藤 五月役職
教諭担当教科・学年
年少・3歳児

交流会感想

午前中の講演は学ばせていただく内容が多く、大変有意義でした。今後は学べる機会を利用し幼稚園としてより良い活動の方向性を導き出したいと思います。

学校情報

園長	おいかわ たいこ 及川 たい子	全校生徒数	11人	教員数	3人
所在地	〒988-0367 <small>みやぎ けん け せんぬま し もとよしちようむかいばた</small> 宮城県気仙沼市本吉町 向畑 14				
TEL	0226-43-2020	FAX	0226-43-2020		
E-MAIL	magome-yo@city.kesennuma.ig.jp				
HP	—				

◆教育目標 「たくましく 心豊かな幼児」の育成を目指し、「明るく元気な子ども」「仲良く遊べる子ども」「自然に親しむ子ども」「思いやりのある子ども」「考えてみる子ども」を掲げる。日々の園生活や交流活動で様々な人と関わり、豊かな教育資源を生かした体験を通し教育目標の具現化に努める。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 山に囲まれ自然豊かでのどかな環境にある。地域特有の歴史もあり、住民は教育への関心が非常に高く、地域全体が協働し幼児教育を理解・支援している。この特色を生かし、老人クラブや祖父母との世代間交流、作物の育成・栽培、地域環境（自然・住民）とのふれ合い活動を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー
自然・環境 食

対象者 全園児

対象人数 11人

ひと・しぜん・みらいを伝承する馬籠っ子



「作って食を楽しむ」～栽培活動を通して～



「馬籠の町を花で飾ろう」
～多くの人に支えられて～



たくさん野菜が採れますように

活動目的

馬籠地域における地域交流を通して、人とかかわる力を身につけ継承する幼児、栽培活動を通し地域食材に触れ多様な文化に気づける幼児、豊かな自然を維持するために必要な環境を大切にしていける幼児を目指している。

活動概要

①「馬籠の町を花で飾ろう」～多くの人に支えられて～
UFJ銀行から届けられた400株の苗の活用方法を幼児と共に相談する。

東日本大震災支援のため、自衛隊等の車両が園に面した国道で多く見受けられた。

幼児も自分達を助けてくれる人が通っていることを感じ、感謝の気持ちを花で表すことにした。また、日頃お世話になっている地域の商店街、老人施設等にも寄せ植えした鉢花を届け飾ってもらい道路を通る人達の心も明るく和んでもらいたいという願いをこめて取り組みを行う。

②「作って食を楽しむ」～栽培活動を通して～

春の畑作りから収穫までの一連の栽培活動の取り組み。さまざまな野菜を栽培し、収穫を喜び合って食べる。2011年度は地域恒例の敬老会に園で収穫した野菜を使って地域の方にかぼちゃがゆを作ってもらいそれを振る舞う。また1月には収穫したそばの種を使い地域の老人クラブの方を講師に招き、気仙沼市立馬籠小学校1年生との交流活動も兼ねてそば打ち体験を行う。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ まつ いわ しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立松岩小学校



発表者名

すが わら り え
菅原 理恵

役職

研究主任

担当教科・学年

算数・4～6年生

交流会感想

交流会に参加して、学校教育の中の教科指導や諸活動のカリキュラムの中に、どうESDを位置付けていくか、教科教育とESD活動の関連性をはっきりさせていくことが大切だということです。

学校情報

学校長	さとう ひとし 佐藤 均	全校生徒数	432人	教員数	24人
所在地	〒988-0122 <small>みやぎ けん け せん ぬま し まつざき こだんたら</small> 宮城県気仙沼市松崎五駄鱈5				
TEL	0226-22-7153	FAX	0226-22-7155		
E-MAIL	matu-s7@royal.ocn.ne.jp				
HP	http://www1.ocn.ne.jp/~matsuiwa/				

◆教育目標 「自ら学ぶ力をもち、豊かな感性と広い心を備えた、たくましい児童を育成する」を教育目標とし、思いやる子（人と関わり、社会の役割を果たす「志教育」を推進）、考える子（高学年の教科担任制、中学年の少人数・TT指導）、きたえる子（地域と連携し危機回避・安全行動の訓練）を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 児童数432名と在籍数は市内で最多。市街地に接するも海・山・川の豊かな自然に囲まれている。宅地化も進む一方、工場・大型店舗の進出など商・工業化も進む。校区には高校、支援学校、美術館があり文教地区でもある。三世帯同居の家庭が多く、地域の教育的関心は高い。地域の特性を生かし、福祉や自然環境、文化の体験学習を展開する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー

福祉(ボランティア) 自然・環境

対象者 3～6年生

対象人数 290人

共に生きる 共に生きていく社会・共に生きていく未来



福祉施設の
皆さんと折り
紙を楽しむ



キャップハンディ活動



復興祭での地域の皆さんとの交流

活動目的

大きなテーマを「共に生きる」に、地域や住民の過去・現在を調査・交流する体験活動を行う。「共に生きていく社会・未来」を考える学習から環境・国際理解・福祉等のESDを推進する。2011年度は震災により活動を制限、変更せざるを得ないが、その状況を含め「共に生きる」ことと考え活動を工夫し取り組む。

活動概要

- ①6年生「福祉の心を学ぼう」
「朝ボラ活動」:朝のボランティア活動(略して「朝ボラ活動」)として、「朝の読み聞かせ活動」「朝のあいさつ運動」「朝のクリーン活動」など校内で出来ることを考え展開する。
交流活動:老人福祉施設や授産施設など接し方や仕事、生活の様子を調べ、一緒に楽しめる内容で交流を計画・実施。
キャップハンディ体験:交流活動を基に、「目の不自由な方の体験」「車椅子体験」を実施。
避難所での交流:本校は震災のため校舎一部を避難所とした。卒業生である畠山美由紀氏のコンサートを開き、避難所の方を招待する。
- ②5年生「漁業気仙沼の未来を見つめて」
植樹活動:水産業と自然環境の関係を学ぶ「わかめの養殖体験」を予定するも、震災で海に関する活動ができなくなる。保護者との協議の末、水を育む室根山を豊かにするための植樹活動を行う。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ く じょう しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立九条小学校



発表者名

お の であ たつ や
小野寺 龍哉

役職

研究主任

担当教科・学年

3年生

交流会感想

韓国のESD取り組みを聞いて感じたことは、実践は多少違っててもESDの考え方や方向性は違ってないということです。持続発展を続けるための手立てを日韓の交流で再確認できたことはとても有意義でした。

学校情報

学校長	お の ひろゆき 小野 弘之	全校生徒数	345人	教員数	21人
所在地	〒988-0064 <small>みやぎ けん け せん ぬま し く じょう</small> 宮城県気仙沼市九条327				
TEL	0226-22-6984	FAX	0226-22-6982		
E-MAIL	kujo@rose.ocn.ne.jp				
HP	http://www15.ocn.ne.jp/~kujo/				

◆教育目標 学校教育目標を「確かな学力と豊かな心をもち、心身共にたくましい児童の育成」とし、「かしこい子やさしい子、たくましい子」を目指す。体験を重視した学習で学ぶ意欲、自ら解決する力、表現力を育成する。また友達や周囲の人と関わる中で、豊かな人間性や体力を向上させる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市西部に位置し高台と平地及び新開市街地からなる。市内では文化発祥地として最も古くから栄えた地域で、史跡等が多く現存する。宮城県学校花壇コンクール等の入賞や学童農園県知事賞など環境教育への関心が高い。中国舟山市定海小学校との交流活動など国際理解教育にも力を入れる。また地域の自然や歴史に取り組む活動も行う。

●ESD・ASPnet関連の連絡会議

●ESDカレンダーの作成

●外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー
伝統文化

対象者 3年生

対象人数 53人

第3学年わくわくタイム 「九条のよさを教え合おう」



学区内にある
羽黒神社に
歩いて見学に
向かうところ



拝殿に案内していただく



神社の歴史や地域の中での役割を学ぶ

活動目的

「九条地区の調査活動を通し、地域の良さに気付く」を目標に、4つの具体的な活動目標を掲げる。

- ①意欲・主体性：興味を持って九条地区を調べる。
- ②問題解決能力：発表に向けて課題解決学習を生かす。
- ③コミュニケーション能力：疑問・不明点を積極的に聞き、学習成果を分かりやすく伝える。
- ④応用力：活動を通して地域の一員として生活する。

活動概要

まず、自分たちの住む地域の様子を知るために町探検を行う。探検で発見した町の不思議について話し合う。次に、学区内に古くからある「羽黒神社」を見学する。宮司の方に神社の説明や歴史についてのお話をいただき、神社と地域との関わりを考える。さらに、地域の川を浄化する活動を行っている方にお話をいただき、環境保全への努力について理解する。

そして、話し合いをもとに自然、歴史、生活、産業のグループに分かれ、個人の課題からグループの課題へと発展させ、調べ活動へと移る。

最後に、お世話になった方を招待し、学習した内容を伝える活動を行う。

な ら きょう いく だい がく ふ ぞく ちゅう がっ こう

奈良教育大学附属中学校



発表者名

ふく だ てつ や
福田 哲也

役職
教諭

担当教科・学年
理科・2年生

交流会感想

気仙沼の被災状況を実際に見て、映像では分からないものを感じました。それを子ども達にしっかり伝え、これからの生き方や将来について考えさせたいと思いました。

学校情報

学校長 たにくち よしあき
谷口 義昭 | 全校生徒数 464人 | 教員数 29人

所在地 〒630-8113 な ら けん な ら し ほうれんちやう
奈良県奈良市法蓮町2058-2

TEL 0742-26-1410 | FAX 0742-26-1413

E-MAIL imurat@nara-edu.ac.jp

HP <http://www.nara-edu.ac.jp/JHS/>

- ◆教育目標
- ①真理を求め平和を願い、幸せな世の中を築く人間に
 - ②科学と技術の基本を身につけ、進んでものの本質を究める人間に
 - ③自由と責任を重んじ、粘り強く現実を切り開く人間に
 - ④みんなの命や願いを大切に、励ましあい助け合う人間に
 - ⑤豊かな心と逞しい体を持ち、明るく健やかに生きる人間に

◆地域の特徴・これまでの活動実績 奈良盆地北部に位置し、近くに東大寺や平城旧跡がありいたる所で歴史を感じる。「いのちを大切に」「地域の人々の生き方や文化財を大切に」「子ども達の自主性を大切に」取り組み、ASPnetに加盟してからは「ホールスクールアプローチ」として学校活動のあらゆる面でESDを意識して教育を展開する。2010年に奈良ASPネットワークを立ち上げ、ユネスコスクール間の繋がりを大切に地域としてESDを推進する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

● サブカテゴリー
ESD推進

対象者 奈良県中心のユネスコスクールの児童・生徒

対象人数 24人

奈良ASPネットワーク「子ども会議」における「学び」の可能性



水のワーク
ショップ



ESD学習

活動目的

奈良 ASP ネットワークとして、夏休みに児童生徒を集め「こども会議」を開催する。

- ① ESDについてみんなで学び合い、奈良や自分たちの町の未来を考える。
- ② 互いの学校活動を知り、みんなで取り組める活動を考える。
- ③ 交流を通して友情を育む。

活動概要

奈良 ASP ネットワーク加盟校教員及び奈良教育大学学生・院生を指導者に、奈良県森林組合、御杖村三季館から特別講師を招き1泊2日の「こども会議」を開催。

御杖村・曾爾村で「森・水・人」をテーマに4つのワークショップに取り組む。

- ① 「水中探検隊」御杖村の川の水生物と地域の川の水と御杖村の川の水を比較する水質調査。
- ② 「素敵な山お助け隊」曾爾村の杉人工林で間伐体験に取り組み林業や共生を学ぶ。
- ③ 「ぼくら森林探検隊」木の葉・昆虫・鳥など森に住む生物を調査し、森全体の営みを学ぶ。
- ④ 「自然と遊び隊」山神信仰・森の楽しみ方を中心に、人と自然の共生を考える。

川遊び、あまごつかみ大会、キャンプファイヤー、学校紹介（各校のESD実践事例を児童が発表）、ESD活動（ワークショップの振り返り、学びの共有）

大阪府立大学・大阪 ASPnet ネットワーク



発表者名

い い なお ひ ろ
伊井 直比呂

役職

大阪府立大学 准教授
大阪ASPnetネットワーク事務局長

担当教科・学年

人間社会学部 人間科学学科

交流会感想

気仙沼地域の惨状に心を痛ませながらも、今次の力強いセミナーが開催され物理的な復興だけでなく、これまでの財産である「地域の誇り」を継承しようとすることも復興の大きな力だと感じました。

所属先情報

※下記は大阪府立大学の情報です。

学長	おくの たけとし 奥野 武俊
所在地	〒599-8531 <small>おおさか ふ さかい し なかく がくえんちよう</small> 大阪府 堺 市中区学園町1-1
TEL	072-254-9791
FAX	072-254-9791
E-MAIL	—
HP	http://www.osakafu-u.ac.jp/

◆教育目標 日本のみならず世界の研究型大学の変革の起点となり、地域に信頼される知の拠点となるべき基本理念を表す言葉として、高度研究型大学 — 世界に翔く (はばたく) 地域の信頼拠点 — を掲げる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 大阪ASPnetにより大阪や京都、兵庫のユネスコスクールと学び合っている。2010年は小中高18校とユネスコスクール加盟高校を卒業した大学生組織(大学ASPnet)で「夏の学び合い2010」を行う。2011年は文部科学省委託事業として、アジア諸国の小中高大学生233名で『アジア・太平洋 小中高大学生ESDワークショップ』を能勢町諸施設で開催。過去にはアジア・北欧7ヶ国高校生国際会議(2008)も開催。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動● サブカテゴリー
食(生産・消費) 自然・環境

対象者 小中高大学生(日・韓・中・タイ・フィリピン)

対象人数 約200人

「アジア/太平洋 小・中・高・大学生国際ワークショップ、2011」



ワークショップを通して学んだことを1枚の紙にまとめて発表



発表の様子

活動目的

未来を担う一人として「持続可能な未来」作りに参加するため、多様な視座から地域と地球規模で問題を理解し、当事者として関わり合う「若者世代」としての連帯感を深める。小中学生の学びから高校生・大学生が気付きを得たり、小中学生が高校生・大学生から将来を学ぶ“学び合い”の展開を目指す。

活動概要

文部科学省及び大阪府立大学(人間社会学研究科)主催、大阪ASPnet共催で「アジア/太平洋小・中・高・大学生ワークショップ2011」を大阪で開催。

開催の背景として大阪では2003年以降大阪ASPnetが積極的に活動し、2004年から2009年まで地域ネットワークで「アジア・北欧7ヶ国高校生国際会議(2008年)」等を開催。2010年からは大阪中心に京都、兵庫の小学校から高校までのユネスコスクールによる地域ネットワークに拡大して活動、「ASPnet学び合い交流会2010」を開催する。

ワークショップの最終日は、東日本大震災を体験した児童・生徒の発表を交え、ファミリー(学年や国を超えた1つの班)でワークショップを通しての学びを話し合い、1枚の紙にまとめて発表をする。当初は緊張の目立つ児童・生徒が、学び合いを通し世代を超えた活発な交流や大阪府能勢町の温かいもてなしに、笑顔あふれる活気のあるワークショップとしていた。

金沢市・気仙沼市の両地域交流会に参加

せい がく いん えい ち しょう ちゅう がっ こう

聖ウルスラ学院英智小・中学校



発表者名

いとう のぶ こ
伊藤 宣子

役職
校長

交流会感想

加盟校の皆様方の熱心な教育活動にふれ、感動と大きな教育エネルギーが沸き起こる思いでした。このたびいただいた教育ミッションを更なる子ども達の教育に生かしていく決意を新たにいたしました。

学校情報

学校長	いとう のぶ こ 伊藤 宣子	全校生徒数	428人	教員数	30人
所在地	〒984-0828 <small>みやぎ けんせんだい し わかばやし く いっぼんすぎちよう</small> 宮城県仙台市若林区一本杉町1番2号				
TEL	022-286-6451	FAX	022-286-6431		
E-MAIL	teachers@st-ursula.ac.jp				
HP	http://www.st-ursula.ac.jp/junior/index.php				

- ◆教育目標
- ①世界と自己のうちに働く神を知り、感謝と愛のうちに生きる人
 - ②自己に与えられた課題に常に挑戦し、自他を発展させるために努力する人
 - ③内なる良心に従い、自己の言動に責任を持つ自由な人
 - ④自他の尊厳を認め、謙る心をもって福音的な社会の建設に向け自己の使命を果たそうとする人

◆地域の特徴・これまでの活動実績 体系的な学習と体験的な学習との連携を実施する。1年生の合同宿泊生活体験、2年生の農漁山村生活体験など各学年に宿泊の生活体験学習を取り入れ、小学部高学年からアメリカやオーストラリアなどの海外児童・生徒との交流学習、ホームステイに取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー

交流活動

●サブカテゴリー
自然・環境 国際理解

対象者 ①3年生 ②6年生

対象人数 ①46人 ②40人

①農業山村生活体験及び交流学习

②アメリカンサマーキャンプin青森



月と星の観察
について調べ
た内容を発表



キャンプファイヤーの灯かりを囲んでタバを楽しむ

活動目的

- ①地域の生活文化の違いを知る。現地での体験を通し、新発見や疑問に触れる機会を持つ。人との触れ合いで、自主性・自立性を高める。
- ②アメリカ人大学生と3日間共同生活を行い、国を超えて協力する喜びを知る。知っている英語を駆使して理解に結びつける。自国文化を客観的な視点で見つめる。

活動概要

①山形県の金山町での農業・林業体験を中心とする宿泊合宿、ユネスコスクールである山形県新庄市立新庄小学校と交流会を行った。

体験学習のプログラム・川魚つかみ取り体験・スキー場登山・ミニホースとのふれあい体験・天体観測・枝打ち作業（林業体験）・稲刈り見学・ジャンボかぼちゃ収穫（農業体験）・谷口銀山探検・新庄小学校と交流会

②14名のアメリカ人大学生と青森で文化交流を中心とする宿泊合宿を行う。英語で会話することで語学学習としても取り組む。

American Summer Campのプログラム・奥入瀬溪流探索・三内丸山遺跡の見学・合同清掃（英語で掃除の説明）・アクティビティーステーション（発音訓練や英会話学習）・Japan Project（日本文化を英語で紹介）・American Town（アメリカの街を再現し、アメリカ文化を疑似体験）・Outdoor Activities（アメリカの祭を疑似体験）・Campfire・津軽三味線会館訪問

とう きょう と せ た が や く り つ な か ざ と し ょ う が つ こ う

東京都世田谷区立中里小学校



発表者名

みやもと まさひこ
宮本 正彦

役職
校長

交流会感想

本校は今年度よりESDの研究を始めることもあり、最新の情報と数多くの実践事例を伺うことによって、今後の研究の方向性を見出す貴重な機会となりました。

学校情報

学校長 みやもと まさひこ
宮本 正彦 | 全校生徒数 179人 | 教員数 33人

所在地 〒154-0024 とうきょうと せ た が や く さ ん げ ん ぢ ゃ や
東京都世田谷区三軒茶屋1-4-1

TEL 03-3422-7474 | FAX 03-3422-7577

E-MAIL dai014@setagaya.ed.jp

HP <http://school.setagaya.ed.jp/nato/>

◆教育目標 「健康でたくましい子ども よく考え最後までやりぬく子ども 仲よく助け合う子ども」を教育目標に、「地域に進んで参加できる子ども」「互いに認め合い、分かり合い、高めあう子ども」「自分を素直に表現できる子ども」を目指す児童像とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 世田谷区三軒茶屋駅の繁華街と商店街が校区にあり、5つの町会に囲まれる。高齢者、障がい者施設も多くゲストティーチャーや施設訪問等の交流会を実施。2011年度は創立80周年事業を行い、更に地域との交流が深まる。また地域住民と連携して避難所運営委員会を開催し、訓練や協議を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 交流活動

●サブカテゴリー
食(食育) 自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 179人

かかわり、つながりに視点をおいた 授業実践を通して



高齢者施設
での交流学习



フラフープにスポンジボールを入れる「ころがしゲーム」の様子

活動目的

「人との繋がりを大切にし、ともに伸びる児童の育成」「関わり、繋がりを重視する授業実践」を通して、教師の授業改善・持続可能な社会の担い手を育む教育の充実を図り、人格の発達などの人間性や様々な関係を認識・尊重できる個人を育む。

活動概要

研究テーマに沿うESD視点に立ち、世田谷区教育委員会教育ビジョンの一環として研究することを踏まえ世田谷区の目指す児童への具現化に向け、本校児童や地域の実態に合わせた年間計画や実践に取り組む。

- 1年生：高齢者施設との交流学习…合唱やゲーム、肩たたき等を通して高齢者と交流する。
- 2年生：触れ合い給食を成功させよう…児童の祖父母を招き合唱発表やゲームで交流を深め、栄養士が計画した献立で給食交流会を行う。
- 3年生：よりよいクラスを作るう…司会・提案者等の役割に基づいて、身近な課題を解決するための重要事項を互いに確認しながら意見交換をする。
- 5年生：これからの食糧生産…「安くて、便利でいいの？」を課題に意見交換を進め、10～30年後を見据えた内容に発展させる。
- 6年生：お礼にしたいあの人物…地域の方を推薦する理由が明確なスピーチを行う。推薦者を講師に講話中心の学習展開を実施。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ しん じょう しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立新城小学校



はせがけ後の集合写真(写真中央 松岡教諭)

発表者名

まつ おか きよ たか
松岡 清貴

役職
教諭

担当教科・学年
3年生

交流会感想

被災地でこのような会が開かれたことはとても意義深いことだと感じました。教育長が「今は来てもらうのが嬉しい支援だ。」と話されていたことが、市民として、とても共感できました。

学校情報

学校長 はしもと 橋本 しげみ | 全校生徒数 192人 | 教員数 17人

所在地 〒988-0823 みやぎ けん け せん ぬま し みょう が さわ 宮城県気仙沼市 茗荷沢 239-13

TEL 0226-22-6696 | FAX 0226-22-6696

E-MAIL sinn-s9@guitar.ocn.ne.jp

HP <http://www.k-macs.ne.jp/~sinn-s9/>

◆教育目標 学校教育目標を「個性を生かす教育を重視し、自ら学び、心豊かでたくましい子供の育成を図る」とし、「進んで学ぶ子(知)」「仲良く助け合う子(徳)」「明るくたくましい子(体)」を目指す。「個性を生かす」ため「自分の思いを正確に伝える」「相手の思いを正しく受け止める」を指導する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市西部に位置した丘陵地帯にある。田畑の多い地区であるが、近年新興住宅地として戸数が増加し土遊びをしたことのない児童も増えている。児童は自分達の地域をよく知るために、校区の自然を中心に地域の方々と交流し地域の伝統や現状を学び、地域の為に出来る事を考え持続可能な社会に向け実践する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

伝統文化(芸能・産業)

● サブカテゴリ
食(稲作)

対象者 5年生

対象人数 22人

守るぞ!伝統を



稲刈りの様子



精米作業

活動目的

新城地区に伝わる伝統芸能「打ちばやし太鼓（農業の収穫を喜ぶ儀式で演奏される太鼓）」や伝統産業の「削り花作り（農閑期の副収入、こし油の木を削り花のように彩色する）」等の体験学習や由来や課題を調査・まとめ学習を行い、地域の伝統文化を学ぶ。

活動概要

新城地区に伝わる伝統芸能の1つである「打ちばやし太鼓」と伝統産業の「削り花作り」の体験学習が大きな活動の目玉となる。これらの由来や課題を調べてまとめ、将来について考えることが学習の流れとなる。2009年度から学校の目の前にある田んぼで稲作をする地域の方の協力で、稲刈りや精米体験、精米したもち米で赤飯を炊くなど、より豊かな活動となる。協力していただいている農家より田植えから収穫までの体験学習を提案してもらい、稲作を活動の柱に年間計画を行う。他教科との連携を充実させるためESDカレンダーを作成し、教員・児童とともに課題意識を忘れず活動に取り組み、活動の終末段階に「20年後の新城の稲作を考えよう」という内容を加え、地域の現状にたいして主体的に考える力を育成する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ はく さん しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立白山小学校



発表者名

とよ た やす ひろ
豊田 康裕

役職
校長

交流会感想

韓国やアメリカの講演者から気仙沼のESDについて賛辞をいただき、改めて気仙沼の取り組みの良さを知ることができました。学校単独ではなく、各関係機関や外国との連携を永年にわたり積み上げてきたことは素晴らしいことだと思います。

学校情報

学校長	とよ た やす ひろ 豊田 康裕	全校生徒数	26人	教員数	8人
所在地	〒988-0818 <small>みやぎ けん け せんぬま し かみひしがわ ね</small> 宮城県気仙沼市上東側根245				
TEL	0226-29-5053	FAX	0226-29-5054		
E-MAIL	haku-s6@mopera.net				
HP	http://www.k-macs.ne.jp/~haku-s6/				

◆**教育目標** 教育目標は「自ら学び、自律心のある、将来に向かい遅しく生きゆく児童を育成する」である。「自ら学ぶ」とは、学ぶ意欲・関心・態度を持つことである。「自律心のある」とは、人に頼らず自分の考えをもつことである。「将来に向かい遅しく生きゆく」とは、生きる力を育てることである。

◆**地域の特徴・これまでの活動実績** 宮城県最北端に位置し、平安時代より産金・産馬の地と知られたが昭和に金山を閉抗し地域の主たる産業は農業となり、世帯の多くは会社勤めで生計を立てる。地域は学校に協力的で2005年より地域との連携学習を再編し、指導者は「白山小学校区コラボスクール推進協議会」を結成し伝統文化学習、体験活動を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(伝承)

● サブカテゴリー
交流活動

対象者 1～6年生

対象人数 26人

地域に伝わる「白山太鼓」の未来への継承の工夫



運動会での
白山太鼓の
発表



リズムに乗った演奏



アフリカンドラム体験

活動目的

白山太鼓(鉱山の祭で演奏され、気仙沼の打囃子のルーツとも言われる)を保存会が中心となり本校児童で演奏する。中心指導者の高齢化、演奏者の不足等の問題を抱えつつ、白山太鼓が継続発展するよう奏法を確立し、地域の文化を理解し意欲的に白山太鼓を演奏できる地域集団を育成する。

活動概要

- ①白山太鼓保存会：児童への指導のため1988年に発足。1、2年生は教育課程外の時間、3年生以上は総合的な学習の時間で指導を受ける。白山太鼓の歴史についても学習する。地区運動会、学芸会、引継ぎ会で演奏を発表。
- ②奏法の確立：保存会会員の教頭が演奏曲3曲を五線譜に記譜する。これまで指導者によって僅かの違いがあった箇所を明確化する。
- ③笛の練習の工夫と発表の場の設定：高学年の希望者を対象に、教頭が笛の指導を実施。篠笛教本を作成し段階的に習得できるようになる。
- ④小学生の枠を超えた演奏集団の形成：卒業生の受け皿として高校生から大人まで呼び掛けて演奏集団を形成する。PAT会長と地域有志が中心になり発足。
- ⑤南アフリカの太鼓演奏家との交流：ドラムカフェジャパンのメンバー3名を招聘し、アフリカンドラムを体験する。太鼓演奏を通して世界と繋がる機会を持つ。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ つき だて しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立月立小学校



発表者名

きく ち たけ お
菊地 丈夫

役職
教務主任

担当教科・学年
2年生

交流会感想

それぞれの学校が実態に合わせ、活動を工夫しながら進めていることを実際に知ることができました。今回の交流会を通して生の声が聞けたことは、本校の活動を進める上でも良い刺激となり参考になりました。

学校情報

学校長	やまもと まさみ 山本 正美	全校生徒数	34人	教員数	7人
所在地	〒988-0864 <small>みやぎ けん け せん ぬま し つかざわ</small> 宮城県気仙沼市塚沢65				
TEL	0226-55-2260	FAX	0226-55-2713		
E-MAIL	tuki-s10@mopera.net				
HP	http://www.k-macs.ne.jp/~tuki-s10/				

◆教育目標 「ふるさとに誇りをもち 夢と希望に満ちた 心豊かでたくましい児童の育成」を教育目標に、【つ】強い心と体にいどむ子、【き】気持ちよく働く子、【だ】だれにでも優しい子、【て】ていねいに学ぶ子を目指し、「かかわる」「もとめる」「はたす」を意識し教育活動を行う。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 標高200～600mの山々に囲まれ、中央に清らかな川が流れる。また化石の採掘場所や炭焼き小屋が点在する豊かな自然環境の恵まれた地域である。神楽等の伝統文化も継承され、地域・保護者は教育への関心が高く協力的で、地域との交流を大切にしながら農園栽培や地域文化等の体験学習を実施する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

伝統文化(芸能・伝承)

● サブカテゴリ
交流活動

対象者 1～6年生

対象人数 34人

地域の伝統文化を継承する 「早稲谷鹿踊り」「塚沢神楽」



早稲谷鹿踊り



塚沢神楽



鹿踊り(創意の時間)

活動目的

伝承芸能の体験により地域に伝わる伝統・文化の良さを知り、ふるさとを大切にする心を養い、更に地域との交流を尊重できる児童を育成する。

活動概要

<早稲谷鹿踊りの活動>

早稲谷鹿踊りは120年以上地域に伝承される伝統芸能であり、宮城県指定無形文化財である。2005年から保存会の指導のもと、伝統芸能の伝承を目的に取り組む。

- ①鹿踊りタイム：週1回、6年生のリーダーを中心に業前時間に練習する。
- ②鹿踊り：月1回保存会の指導のもと、創意の時間に「鹿踊り」を練習する。
- ③鹿踊り子供教室：年10回、5、6年生が八瀬地域郷土文化保存伝承館で保存会の指導を受ける。
- ④生活総合発表会：1年間のまとめに発表会を実施。オープニングセレモニーで5、6年生が保護者や地域の方々に踊りを披露。
- ⑤発表会、交流会への参加：宮城教育大学舞踊発表会(2010年度)、気仙沼市子ども伝承芸能発表交流会(2010年度)に参加。5、6年生が踊りを披露。

<塚沢神楽の活動> 1884年から伝えられる住民の幸福と豊作を祈る神楽。

- ①神楽の練習：5、6年生が保存会の指導のもと練習に取り組む。
- ②学芸会：6年生が地域の方々を招待する学芸会で神楽を披露。
- ③気仙沼市子ども伝承芸能発表交流会(2010年度)：6年生が神楽を披露。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ にい つき ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立新月中学校



発表者名

よしだ ゆき
吉田 由紀役職
教諭担当教科・学年
国語・1～3年生

交流会感想

ESDの推進は被災地復興に向けての鍵となると考えます。本校においても、地域の豊かな自然や優れた人材を生かした特色あるESDの取り組みを改善・発展させていきたいと思います。

学校情報

学校長	おの でのら ゆういち 小野寺 有一	全校生徒数	138人	教員数	17人
-----	-----------------------	-------	------	-----	-----

所在地	〒988-0822 <small>みやぎ けん け せん ぬま し きりどおし</small> 宮城県気仙沼市切通100
-----	---

TEL	0226-22-5340	FAX	0226-22-5341
-----	--------------	-----	--------------

E-MAIL	niitsuki@rose.ocn.ne.jp
--------	-------------------------

HP	http://www4.ocn.ne.jp/~niitsuki/
----	---

◆教育目標 ①基礎・基本を身につけ、自ら考える生徒(知)

②正義感を持ち、思いやりのある生徒(徳)

③心身を鍛え、粘り強く頑張る生徒(体)

以上を学校教育目標に「確かな学力を身に付けさせる指導の在り方～言語活動の充実を目指した「授業づくり」を通して～」を校内研究主題並びに副題とする。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市の西部に位置し学区が広いため、20%の生徒がバス通学をする。東日本大震災の被災が最小限で済み、震災後は医院、住宅地が増え、学校教育への関心も高く積極的に協力していただく。2007年度に気仙沼市教育委員会「キャリア教育実施プロジェクト」指定校を受けPTAや地域と協力して職場体験、面接実習などを実施する。

●ESD・ASPnet関連の連絡会議

●ESDカレンダーの作成

●外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(工芸)

●サブカテゴリー
食(稲作) 職業体験

対象者 1～3年生

対象人数 138人

生き方を学ぶ ～過去 現在 そして未来へ～



職場訪問学
習で東京消
防庁を訪問



「たたら製鉄」の体験活動

活動目的

- ①主体的な課題設定・学習・判断する力、創造的な問題解決力の育成。
- ②持続可能な社会へ貢献する人間性の育成。
- ③人・社会・自然との繋がりを尊重する態度の育成。
- ④学習内容を自分の将来に結びつける態度の育成。

活動概要

1年生：「ふるさとから学ぶ（過去）」

「たたら製鉄」を軸に地域との交流で郷土愛を育む。たたら製鉄の職人を講師に、歴史的背景や技法の講話・砂鉄の採集から製鉄までの体験活動に取り組む。2011年度は新たに「八瀬そば」の体験活動も取り入れる。

2年生：「はたらく人々から学ぶ（現在）」

「職業体験学習」を軸に、望ましい勤労観・職業観を育成する。4日間の日程を予定したが、震災の影響で受け入れが困難になる学習先が多く中止となる。2011年度に限り、校区の田んぼでの稲作体験学習に取り組み「第一次産業から学ぶ」をテーマとする。

3年生：「生き方を考える（未来）」

東京への修学旅行での「職場訪問学習」と「立志式」を軸に、自分の生き方を熟考し社会の一員としての自覚と貢献する態度を育成する。「職場訪問」では都内にある大企業・官公庁を訪問。「立志式」では学習内容や震災の体験を踏まえ、今後の生き方を全校生徒・保護者・地域の方の前で発表する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ つ や ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立津谷中学校



発表者名

さ さ き しん
佐々木 伸

役職

研究主任

担当教科・学年

社会・3年生

交流会感想

県内外の特色ある取り組みを拝見しましたが、どの取り組みも地域の切実なる課題が背景にあり、その解決の為に地域や組織が支援している状況に、多くの取り組みの成果が伺えました。

学校情報

学校長 あべ まさひこ 阿部 正彦 | 全校生徒数 147人 | 教員数 23人

所在地 〒988-0341 みやぎけん けせんぬまし もとよしちようつ やさくらこ 宮城県気仙沼市本吉町津谷桜子2

TEL 0226-42-2654 | FAX 0226-42-2698

E-MAIL tsuyajhs@motoyoshi.ed.jp

HP —

◆教育目標 「自主と研鑽、友情と協力、秩序と責任、真摯と敢闘」を目標に掲げ、「自ら学ぶ生徒（自ら考え意欲的に学ぶ生徒）」「心豊かな生徒（思いやりを持ち共に学び合う生徒）」「たくましい生徒（未来を見つめ心と体を鍛える生徒）」を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 奥州藤原氏の時代より、平泉黄金文化を支える金鉱山の労働者が集う拠点として栄え、合併を繰り返し2009年に気仙沼市に編入合併し現在に至る。山田大名行列（市指定無形民俗文化財）を始め、古くから様々な伝統芸能が継承される。打ち囃子は各行政区間単位で継承され、本校でも地域指導者の指導で伝統芸能伝承活動に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

伝統文化(芸能・伝承)

● サブカテゴリ

交流活動 福祉

対象者 2・3年生

対象人数 97人

2・3年向が丘楽習～地域の人々とかかわろう 伝統芸能伝承活動「御岳太鼓」～

御岳太鼓
練習風景

福祉施設慰問披露

活動目的

第一に地域の協力のもと生涯学習の基礎を培う教育活動を推進する。第二に地域の願いでもある若手の伝統継承者を増やす。第三に生徒の社会参画を促し地域コミュニティの活性化し、学校と地域社会の協働を構築する。

活動概要

ESD活動の中心は、6年前から始めた2・3年生の伝統芸能伝承活動「御岳太鼓」にある。春先に保護者・地域住民の協力で太鼓の基礎練習で使用する青竹の切り出しを行う。約8mの竹を40本程度切り出し運搬し、屋外練習場の土台に固定する。練習用のバチを作成し、夏まで振りの動作とリズムをひたすら練習する。笛を担当する生徒は体育館で、下川内保存会の指導のもと打ち囃子を数曲練習する。夏季休業期間も太鼓や衣装を保存会から借用し、3ヶ月で完成させる。2011年度は中間発表として2・3年生合同で打ち囃子を披露し、10月の文化祭で3年生が、11月の秋祭りで2年生が、11月の福祉施設慰問では3年生1クラスが演奏を披露。(1年生は「人・自然」をテーマに稲作体験・畑作体験・職場体験に取り組み、地域との交流や自然との触れ合いを学ぶ。)

な ら し きょう いく い いん かい じ む きょく がっ こう きょう いく か
奈良市教育委員会事務局学校教育課



発表者名

にしぐち みさこ
西口 美佐子

役職

指導主事

交流会感想

地域や大学、各専門機関、留学生などの外との繋がりは学校教育を活性化
する上では大変重要だと思えます。色々な組織と連携する可能性を探していきた
いと思えます。

所属先情報

学校教育課長 きたたに まさと
北谷 雅人

職員数 25人

所在地 〒630-8580 ならけんならしにじょうおおしみなみ
奈良県奈良市二条大路南1-1-1

TEL 0742-34-5498

FAX 0742-34-4597

E-MAIL sekaiisan@naracity.ed.jp

HP <http://www.city.nara.lg.jp/>

◆教育目標 2009年に「奈良市教育ビジョン」を策定し「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子どもの育成」を目指し、「奈良らしい教育の推進」を図る。その中核として世界遺産学習を位置付け、全市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校で取り組む。

◆地域の特徴これまでの活動実績 1998年に東大寺を始めとする8資産が「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録され、人類の宝「古都奈良の文化財」の価値を知り、守り受け継ぐために世界遺産教育を開始。大学や博物館などの専門機関との連携、対象学年の拡大を進め、年1回の実践研究会を実施。2009年に世界遺産学習全国プレサミット、2010年に世界遺産学習全国サミット、2011年に第2回世界遺産学習全国サミットを開催する。

●ESD・ASPnet関連の連絡会議

●ESDカレンダーの作成

●外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化(文化遺産)

● サブカテゴリー
交流活動

対象者 奈良市立幼稚園～高等学校全幼児・生徒

対象人数 約28,000人

世界遺産学習 ～地域を誇りに思い、 未来を担う子どもを育てる学習～



「第2回世界遺産学習全国サミット2011 in なら」の「子ども会議」



食文化を考える授業(唐菓子作り)

活動目的

- ①奈良のよさを深く理解し、奈良に愛着を感じ、奈良を誇りに思う子どもの育成。
- ②文化遺産の創造・継承・保護・取り巻く自然環境の維持に長年取り組む人々の思いや努力を共感的に理解し、文化遺産や自然遺産を尊重する態度を育成する。
- ③学びを国際理解や環境、人権、平和等の現代的諸課題に広げ学ぶ力を育む。

活動概要

教材開発・実践の充実のため、奈良市世界遺産学習推進委員会作業部会を2007年に設置。10部会(社会・総合、理科・環境、国語、音楽、図工・美術、道徳、国際理解教育、情報、食育、幼小)で実践研究を進め、近隣の大学から指導者を招き教師力向上を図る。

国語部会では、地域の民話や俳句を取り上げ、国語の目標達成に加え地域のよさを感じ、地域を好きになる実践研究を行う。

音楽部会では870年以上途切れずに継承される雅楽を学び、創作音楽の発表や正倉院に納められている楽器の学習に取り組む。

2011年度から始まった食育部会では、昔のお菓子や郷土料理を取り上げ実践研究する。各部会の新たな実践は、広く教員に知ってもらうために世界遺産学習サミットや、教員研修で発表したり、冊子にして各校に配付したりしている。

おおむたしきょういくいんかい
大牟田市教育委員会



発表者名

やすだ まさのり
安田 昌則

役職
指導室長

交流会感想

韓国の小学校・アメリカの中学校や国内の学校のそれぞれの地域の状況を踏まえ、児童生徒の実態に応じた取り組みについて、直接学校関係者から話を聞くことができ、本市の取り組みの参考となりました。

所属先情報

教育長	みやた ただお 宮田 忠雄	職員数	693人
所在地	〒836-8666 <small>ふくおかけんおおむたしありあけまち</small> 福岡県大牟田市有明町2-3		
TEL	0944-41-2861	FAX	0944-41-2862
E-MAIL	—		
HP	http://www.city.omuta.lg.jp/kyouiku/		

◆**教育目標** 小学校22校、中学校11校、特別支援学校1校の計34校があり、2011年に全ての学校でユネスコスクールへの申請を行う。各校では2011年度より地域校区や生徒の実態において、様々なESD活動に取り組む。本市教育委員会主催のユネスコスクール研修会を開催し、ユネスコスクールの目標・意義やESDの内容の研修や各校の実践紹介、先進地域の気仙沼市教育委員会から講師を招聘し先進地域の実践を学ぶ。

◆**地域の特徴これまでの活動実績** 石炭関連産業で栄えた地域であるが、1997年に炭坑は閉山。炭坑閉山後は石炭関連遺産群の世界遺産登録に向けた取り組みもあり、新しいまちづくりに努める。市教育委員会として「子ども大牟田検定」に取り組む。また市教育委員会主催のユネスコスクール研修会を2011年に2回開催。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 伝統文化

対象者 小学校3年生～中学生

対象人数 7,069人

子どもが主体的に郷土について学ぶ 「子ども大牟田検定」



国指定重要文化財「三池炭鉱宮原坑跡」を見学



子ども大牟田検定に取り組んでいる児童の様子

活動目的

大牟田の歴史的・文化的財産に関する「子ども大牟田検定」の受検を通し、小中学生が大牟田の宝について学校や自主的に学び、大牟田の良さを理解し興味を深める。また子どもが進んで検定の問題を作成するなど、学習活動を通して今後のまちづくりに貢献する機会とする。また、郷土学習の充実で「ふるさと大牟田」への郷土愛を醸成する。

活動概要

大牟田の素晴らしい自然や優れた文化・伝統の「大牟田の宝もの」を学習するため、「子ども大牟田検定」ガイドブックを作成。「大牟田の宝もの」50選として石炭関連施設7件、施設関連11件、遺跡関連3件、自然関連10件、生き物関連3件、伝統関連8件、食べ物関連6件、人物2件を掲載。市内小学校3～6年生全員と各中学校に150冊程配布。学校の授業や自主的な子どもの学習後、2011年9月に「第1回子ども大牟田検定」を開催し市内3700名を越える小中学生が受検する。正解数に応じて博士・達人・名人・新人の4つの称号をカードで渡す。検定の様子は地元TVや新聞に取り上げられ、保護者や住民からの共感や市外からの問い合わせを受ける。また学んだ内容を次の検定問題の参考にすよう、問題の募集を行い、多数の問題が申し込まれる。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おも せ ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立面瀬中学校



発表者名

くま がい たけ や
熊谷 岳哉

役職

研究主任・学年主任

担当教科・学年

美術・1～3年生

交流会感想

今回の交流会で、世代から次世代への「つながり」が改めて重要であると感じました。持続可能な社会に向け、今の世代から次世代へどうつないでいくかが大切であり、何のため何ができるのかをもう一度考え、活動に生かしていきたいと思いました。

学校情報

学校長 おの のでら りょういち 小野寺 良一 | 全校生徒数 203人 | 教員数 16人

所在地 〒988-0206 みやぎ けん け せんぬま し いわつきてらさわ 宮城県気仙沼市岩月寺沢44

TEL 0226-27-4288 | FAX 0226-27-5393

E-MAIL omose-jh@blue.ocn.ne.jp

HP <http://www17.ocn.ne.jp/~omose/>

◆教育目標 学校教育目標を「自ら学び自ら考え心身共に健やかで心豊かな生徒の育成」とし、教育基本法及び気仙沼市教育委員会の方針に則り、生徒と地域の実態に即応しながら知・徳・体の調和のとれた新しい時代に生きる、心身共に健やかで心豊かな生徒の育成に努める。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市中部に位置し、市街地の南進により世帯数は増加し、地域住人の職業構成も多岐にわたり同時に保護者の価値観も多様化する。地域は中学校開校を機に連携を強め、総合型地域スポーツクラブの開設、「面瀬ふれあい交流」の実施など地域づくりに励む。2009年度より環境教育を中心にESDに取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

福祉(災害復興)

● サブカテゴリ
交流活動(スポーツ)

対象者 1～3年生

対象人数 203人

災害復興に向けたスポーツと文化における一試み



面瀬ふれあい交流「キャッチザスティックの様子」



総合的な学習の時間「集団演技とチアリーディング」

活動目的

東日本大震災により当地区も甚大な被害を受け、今までに無い全く異なった生活環境となった。大きな変化の中、災害復興として「スポーツと文化」をテーマに「持続可能な社会を担う生徒」の育成と、生徒・教師・地域の交流を図り心のケアに取り組む。

活動概要

<ふれあい交流> (2011年5月8日実施)

「ニュースポーツを通してのふれあい活動」総合型地域スポーツクラブ(通称NEO)と連携して実践。震災の影響で小学校の校庭・体育館を使用し、NEO担当者と代表生徒の打ち合わせのもと協力して交流会を運営する。本校体育館で避難所生活を送る方にも参加してもらい、交流を深める。

<保健体育> (2011年9月16日実施)

「バランスボールを活用した体育の実践授業」桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授・松原静郎研究室による実践授業。震災の影響で体育館を使用できないことから、限られた場所を活用して授業を行う。

<総合的な学習の時間> (2011年9月1日～10月30日実施)

「集団演技とチアリーディング」スポーツ文化コースの実践。体力向上、仲間同士の信頼感・復興への勇気と希望を高めること、絆を深めることを目的に活動。文化祭で学習の成果として実演する。

上記の他にボランティア活動、綱引き大会等も行う。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ け せん ぬま ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立気仙沼中学校



発表者名

ふじ た あつ し
藤田 篤志

役職
教諭

担当教科・学年
数学・2年生

交流会感想

金沢市立中央小学校の発表では、PTAも生徒と同じ立場での参加と聞きました。本校にも仮設住宅で約100世帯が生活をしており、地域の方々との交流がしやすい環境にあるので今後検討してみようと考えています。

学校情報

学校長 さいとう はじめ
齋藤 一 | 全校生徒数 310人 | 教員数 25人

所在地 〒988-0073 みやぎ けん け せん ぬま し さき が じん
宮城県気仙沼市笹が陣4-1

TEL 0226-22-6989 | FAX 0226-22-6988

E-MAIL kesenuma-jh@blue.ocn.ne.jp

HP <http://www15.ocn.ne.jp/~kechu/>

◆教育目標 人間・社会・自然への愛と畏怖を深め、豊かな知恵と創造性に満ちた教育によって「人間性豊かで 向上心に満ち 夢を持って 磨き合う生徒」「1、課題意識を持ち自ら学ぶ生徒 2、心豊かで共に支え合う生徒 3、健康でたくましく生きる生徒」の育成を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 宮城県北東部に位置し、天然の良港として日本屈指の漁業基地となり水産業を基軸産業とする。しかし東日本大震災の甚大な災害により、漁業基地としての機能低下、経済的大打撃を受ける。地域の食材や環境を学習する体験・保全学習は生徒の生活も変わり出来ない状況である。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ

福祉 (ボランティア活動)

● サブカテゴリ
地域交流

対象者 2年生

対象人数 120人

ボランティア活動 ～東日本大震災後、「今」私たちにできること～



避難所の方
にクッキーと
メッセージカ
ードを配って
いる写真



避難所の掃除をしている様子

活動目的

本校は東日本大震災の甚大な被害を受け、全校生徒の半数が家屋や家族を失う直接被害を受け、震災当日から体育館のみならず教室も避難所となったがそのまま新学期を開始し、同じ校舎に生徒と避難者が共生することとなる。そこで避難者の為にできることを考え実践することで、互いの気持ちを共有し気仙沼の将来を見直す機会とする。

活動概要

- ①オリエンテーションを行い、ボランティア活動について学習する。
- ②震災の状況下でどのようなボランティアが行われていたか、その時自分達は何をしていたかを思い出し、ボランティア活動をする心構えなどをまとめる。
- ③校内に避難している方に何ができるかを考え、具体的な計画を班活動で考える。
- ④高齢者の肩揉み、避難場所の清掃、ダンスの披露等、様々な活動を実践する。
- ⑤班ごとに活動内容をまとめ、学年全体で発表会を行う。

評価として、「思考力（ボランティア活動の意義や社会への貢献について考えられたか）」
「企画力（今自分にできることを計画できたか）」「実践力（ボランティア活動ができたか）」
「表現力（活動を通して感じたことをまとめられたか・発表できたか）」を基準とする。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ まつ いわ ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立松岩中学校



発表者名

もり みきこ
森 美紀子

役職
教諭

担当教科・学年
技術、家庭科・1年生

交流会感想

他の地域の先生方と交流できたことは大きな意味をもつと思います。震災を理由にせず、「未来を担う人づくり」のため積極的に他の地域と交流し、互いに高めあっていくことがユネスコスクールとしての責務だと感じました。

学校情報

学校長 かや き きいち 榎木 喜一 | 全校生徒数 250人 | 教員数 21人

所在地 〒988-0141 みやぎ けん け せんぬま し まつざきやなぎさわ 宮城県気仙沼市松崎柳沢186

TEL 0226-22-7158 | FAX 0226-22-7159

E-MAIL matu-jh@hyper.ocn.ne.jp

HP —

◆教育目標 「知を磨き 身体を鍛え 人格を練る」を学校教育目標に、向上心・集中力・探究心を持って学習に励み、体力の向上に努め健康に留意し、自己を大切に他を思いやり、規範意識を持って生活する生徒を育成する。生徒も教員も保護者も誇りに思う真の学舎を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市南方に位置し、東を気仙沼湾に面す。震災により湾に面した地域は壊滅的に被災し、本校も1割の生徒が仮設住宅に入居、校庭には83世帯の仮設住宅が建設される。福祉施設が本校徒歩圏内に集まり、活発に福祉交流を行う。気仙沼支援学校とは30年以上交流を続ける。震災の経験から、今まで以上に福祉や地域の大切さを感じ活動に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 福祉● サブカテゴリー
交流活動

対象者 1～3年生

対象人数 250人

福祉の里づくり ～福祉をとおして未来を考える～



気仙沼老人
福祉センター
福寿荘訪問
ウォーキング
大会



支援学校とのクリスマス交流

活動目的

校区内の福祉施設との連携・交流を中心に地域に根ざした「協同的学び」「探究的学び」として取り組み、福祉を通して「全ての人」のための未来を築く必要性を実感し、その担い手として自覚を高め積極的に関わる心と態度を育成する。

活動概要

1年生：「仲間作り・互いを知るために」

気仙沼支援学校と年に4回の交流を実施し、互いに認め合い協力し合う意識を育てると共に、障がい者福祉を考え福祉に対して主体的・創造的な態度を育成する。

2年生：「先人に学ぶ」

気仙沼老人福祉センターを訪問し、高齢者対象のウォーキングに参加。高齢者との交流活動を通し、人生の先輩として尊敬する意識を育てると共に高齢者福祉を考え、福祉に対して主体的・創造的な態度を育成する。

3年生：「未来への提言」

震災時の福祉活動に注目した探究活動に取り組み、文化祭で提言を発表する。福祉の視点から地域を見直し、問題点や課題を見つけ解決方法を考える。福祉の学習を通して、社会の仕組みや未来に向け、未来の社会の担い手として自覚を持ち、積極的に関わる姿勢を育成する。

みやぎ けんしば たぐん おおがわ ら ちょうりつ おおがわ ら ちゅうがっ こう

宮城県柴田郡大河原町立大河原中学校



発表者名

いけだ なおと
池田 尚人役職
教諭担当教科・学年
理科・3年生

交流会感想

県内外のESD活動に取り組む先生方の熱い思いを肌で感じられたことが特に良かったです。気仙沼の先生方の被災も環境の1つと前向きに捉える力強さ、復旧そして復興へ向かうための過程もESDに繋がるという思いを感じました。

学校情報

学校長	いっばいもり ひろし 一盃森 広志	全校生徒数	634人	教員数	43人
所在地	〒989-1247 <small>みやぎけんしばたぐんおおがわらまちあざひがし</small> 宮城県柴田郡大河原町字東1番				
TEL	0224-52-3501	FAX	0224-52-3502		
E-MAIL	daichu@town.ogawara.miyagi.jp				
HP	—				

◆教育目標 教育目標を「自らの行動に責任を持ち、志の実現に努める。健康で逞しい生徒を育成する」とし、具現化のために「地域・学校の伝統に根ざし特色ある学校づくり」を掲げ①学力向上支援事業と連携した学力向上策の拡充、②ボランティア活動を核としたユネスコスクール登録に取り組む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 福祉教育・ボランティア活動の母体として、1954年に加盟登録したJRC委員会がある。毎年全校生徒が登録し、委員会が中心となって募金活動や清掃奉仕活動を行う。1998年に生徒の自由意志で参加する「大中ボランティアセンター」を設立。2007年に警察と連携し規範・防犯意識を高める「アスカル・オリオン」を結成。学校・個人・地域との連携の3つを複合的に展開する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー

福祉（復興支援）

● サブカテゴリー
交流活動

対象者 1～3年生

対象人数 634人

大河原中学校 震災復興支援プロジェクト



仮設住宅の方々からの聞き取りの様子



各学級でベンチ作り 設計図通りに作れるかな？

活動目的

生徒会・委員会活動、文化祭でのボランティア活動で笑顔の増える継続的な活動を行い、復興の後押しをする。活動を通じて絆や繋がり、宮城はひとつという気持ち、協力や協働の心を育む。

活動概要

東日本大震災の東北地方沿岸部の被害は甚大であり、復興に向けあらゆる支援が行われている。避難所や仮設住宅での生活から地域コミュニティが希薄となる中、

本校でも被災者の方が少しでも笑顔で生活できる支援、中学生が継続できる支援を考える。

①リサーチ

プロジェクトリーダー、生徒会による岩沼市の仮設住宅での聞き取り取材を実施。

②プランニング

本校生徒会の目標が「笑顔あふれる明るい学校」であり、被災した方の笑顔を取り戻すために「憩いの場」作成を計画。住民交流を促進するため「ベンチ」の製作を決定。

③実行

全校生徒が関わるよう文化祭準備期間を利用し、各学級1つベンチを製作し岩沼市内の仮設住宅へ寄贈。岩沼市の計らいで贈呈式を行う。

④振り返り

活動の今後の発展や継続について全校アンケート、感想、ベンチ寄贈に関するメディアの反応などをもとに振り返る。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ うら しま しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立浦島小学校



発表者名

いし もり しょう ぞう
石森 正三役職
教頭

交流会感想

ESDの取り組みが日本以外でもアメリカ、韓国を始め世界で進められていることが今回の交流会で再認識できました。また、どの国でも環境教育は急務であると理解しました。

学校情報

学校長	はやし ぎき あき ひこ 林崎 秋彦	全校生徒数	11人	教員数	9人
所在地	〒988-0816 <small>みやぎ けん け せん ぬま し に の はま</small> 宮城県気仙沼市二ノ浜83-2				
TEL	0226-22-7170	FAX	0226-22-7170		
E-MAIL	ura-s5@coda.ocn.ne.jp				
HP	http://www.k-macs.ne.jp/~ura-s5/				

◆教育目標

- 【知】 かんがえる子…自ら学び、考え、自主的に判断・行動し、課題を解決する資質や能力
 【徳】 やさしい子…自ら律しつつ、他人とともに協調し他人への思いやる心や感謝する心
 【体】 げんぎな子…強い意思を持ち、たくましく生きるための健やかな体と体力

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼湾東に位置し養殖漁業が盛んで、漁業で生計を立てる世帯も多い。また津波に被災しやすい地形でもある。地域の自然環境を生かした体験学習を中心に、環境教育として漁港や周辺の清掃活動や警察・消防と連携して防犯訓練を行う。2011年8月には校庭に仮設住宅が建設されたため、避難訓練は地域と仮設住民と合同で実施。震災後には「海から浦島を観る学習会」を実施。

●ESD・ASPnet関連の連絡会議

●ESDカレンダーの作成

●外部の協力

メイン
 カテゴリー | 防災教育

対象者 1～6年生

対象人数 11人

東日本大震災後における地震津波避難訓練



高台への避難



危機管理課「地震と津波」

活動目的

津波は地震同様、未然に防げない自然災害であり、避難訓練をすることで不時の災害に即応できる様にする。集団避難を通して、地域の避難場所や避難の道順を周知すると共に、協力する必要性を理解し冷静・迅速に行動できるようにする。避難訓練を通して、日常の津波避難の意識を高めることを重点目標とする。

活動概要

気仙沼市東部、海拔42mの小高い丘に位置する。校区内約240戸の家屋は、東日本大震災の津波により9割が流失、焼失・浸水の被害にあった。現在は他校区にある仮設住宅・アパートから7割の児童が乗り合いタクシーで通学する。

この地域は昔から津波に被災しやすい地形であり、2003年度より全校で津波を想定した避難訓練に取り組む。

<これまでの取り組み>

- 2004年度 PTA避難キャンプ
- 2005年度 津波防災教育出前講座
- 2006年度 通学路での津波避難訓練
- 2007年度 休日を想定した津波避難訓練
- 2008年度 登校時を想定した津波避難訓練
- 2009年度 休日を想定した津波避難訓練
- 2010年度 登下校時を想定した津波避難訓練

気仙沼市総務部危機管理課と連携し、職員に防災講座開催を依頼。「地震と津波」について自分で自分の身を守ることを学ぶ。

学校独自の緊急事態対応手順引きを作成し、地震・火災・津波・不審者への対応を年間指導計画の中に位置付け全職員で確認する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ け せん ぬま しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立気仙沼小学校



発表者名

おいかわ りえ
及川 理恵

役職
教諭

担当教科・学年
6年生

交流会感想

基調講演では韓国の先生の話に非常に感銘を受けました。気仙沼の地形や産業を視点とした学習展開は実践してきましたが、風土や歴史という時軸からその地域を捉える点は自分の中で新しい視点でした。

学校情報

学校長 さいとう ますお
齋藤 益男 | 全校生徒数 296人 | 教員数 23人

所在地 〒988-0073 みやぎ けん け せん ぬま し さきがじん
宮城県気仙沼市笹が陣3-1

TEL 0226-22-6966 | FAX 0226-22-6967

E-MAIL anba301@rose.ocn.ne.jp

HP —

◆教育目標 「自ら学ぶ意欲にあふれ、心身共に健康で、心豊かにたくましく生きる児童を育成する」を学校目標に、「生き生きと躍動する学校」を目指し児童が主役となる授業作り、集団での助け合い、自他の健康で安全な暮らしに関心が持てるよう教育活動を実践する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市中心部に位置し校区には市役所や図書館の公共施設、商業地域、水産加工地域、住宅地がある。本校は中心市街地の高台にあり地域のシンボルと言える。日本一のマンモス校だった時代もあり、地域の関心・協力は大きい。これらの立地条件から、地域と連携して防災教育、食育、環境教育等を行う。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | 防災教育

対象者 3年生

対象人数 54人

防災マップを作ろう



フィールドワークの様子



危機管理課の鈴木さん来校 模造紙に防災マップをまとめる



防災マップ発表会 参観日に披露

活動目的

宮城県沖地震の大きな被害が予想され、実際に東日本大震災で甚大な被害を被った当地方では、児童の防災意識を育む学習が必須である。気仙沼市危機管理課と連携し、防災視点の明確化・通学路点検・防災マップの作成を行い、実際の災害に備えた家庭での話し合いのきっかけを作る。

活動概要

- ①防災マップ作り オリエンテーション
気仙沼市役所危機管理課職員を講師に、防災マップを作る上での視点と「防災」の意味をコンピューターを利用し、具体的に学習する。
- ②GPS機能を利用した通学路点検活動
安全な活動を確保するために保護者に学習ボランティアをお願いし、フィールドワークを行う。危険箇所と災害時避難場所の必要情報を調査する。また危機管理課製作「フィールドミュージアムシステム」や携帯電話を活用し、「デジタル防災マップ」を作成。
- ③デジタル資料を活用した防災マップ作り
模造紙に地区別防災マップを作成。防災グッズや避難場所、家族間で話し合うことを記入し、自分達の防災マップを作る。同時に津波の危険性も理解する。
- ④防災マップ発表会
参観日と気仙沼市「防災教育シンポジウム」で作成した防災マップを発表。保護者や地域の防災への関心を啓発する。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ おお や しょう がっ こう

宮城県気仙沼市立大谷小学校



発表者名

すが わら ひろ のり
菅原 弘倫

役職

研究主任

担当教科・学年

5年生

交流会感想

討議で地域全体でESDを推進する気仙沼などに対し、単独で取り組んでいる学校とでは温度差があることが話題になり、学校間の結びつきを強めるためにも交流会の必要性があると強く感じました。

学校情報

学校長	ふじむら としみ 藤村 俊美	全校生徒数	214人	教員数	21人
所在地	〒988-0273 <small>みやぎ けん け せん ぬま し もとよしちょう みしま</small> 宮城県気仙沼市本吉町三島28				
TEL	0226-44-2202	FAX	0226-44-3744		
E-MAIL	oya-sho@city.kesenuma.lg.jp				
HP	—				

◆教育目標 「豊かな心を持ち、生き生きと学ぶ子どもの育成」を学校教育目標に、課題に対して強い関心を持ち多様な考えをもって解決する児童を育成する。課題設定の工夫や地域学習の充実、中学校やASPnet間の連携を図る。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 豊かな自然に囲まれ漁業・農業を主な産業とし、各種学校、公共・福祉施設が隣接する地域である。地域合同の海岸清掃や避難訓練、高齢者との交流活動を実施する。地域は強い意思のもと、学校教育活動に大変協力的である。地域の自然環境を学ぶため、地域住民や専門家との協力のもと、様々な交流・体験学習に取り組んでいる。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 防災教育

対象者 5年生

対象人数 34人

防災リーフレットをつくろう

津波到達
地図づくり
の様子

震災に備えての話し合いの様子

活動目的

地震・津波の自然災害に対する人の力には限界があることを踏まえ、震災を乗り越え新たな地域をつくるための心構え、地域への働きかけを責任と義務を自覚し考え取り組む。

活動概要

① ESDを生かした授業における、持続可能な社会づくりの構成概念

相互性：防災への計画・実践には自分と周囲の「人」「自然」「地域」との繋がりが大切であること。

有限性：自然災害に対する人の知力・能力には限界があること。

連携性：地域と協力して災害防止に努めること。

責任制：震災を乗り越え新たな社会をつくる為に、各々の責任と義務を自覚し主体的に行動すること。

②重視する能力・態度

批判的な思考力：防災の多種多様な情報から、必要な情報を選択し課題解決する力。

未来像を予想し計画を立てる力：過去の災害を教訓に、未来に向けて各々の心構え、地域への働きかけを考える力。

繋がりを尊重する態度：防災学習を通し、人や地域との繋がりを大切にしようとしている。

③ ESDを進める上での留意点

防災の視点から教科間の連携を見直し検証。専門家（気仙沼市危機管理化職員、消防団や地区会長等）を講師に、講話やワークショップに取り組む。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ はし かも ちゅう がっ こう

宮城県気仙沼市立階上中学校



発表者名

きく た ひろ ゆき
菊田 裕幸

役職
教務主任

担当教科・学年
理科・3年生

交流会感想

他の地域が実践する「ユネスコスクール担当者会」「子どもネットワーク会」など興味深く伺うことができました。指導者だけでなく子ども達のネットワーク作りの必要性も強く感じることができました。

学校情報

学校長 おの のでら たかしげ
小野寺 隆成 | 全校生徒数 149人 | 教員数 26人

所在地 〒988-0238 みやぎ けん け せん ぬま し ながいそなかはら
宮城県気仙沼市長磯中原125

TEL 0226-27-2304 | FAX 0226-27-2919

E-MAIL hasikami-jh@blue.ocn.ne.jp

HP —

◆教育目標 生徒や地域社会の実態に即し、遅しく未来に生きる健康で人間性豊かな生徒の育成を目指し「自主（自己形成を目指す）」「勤労（奉仕の心を持つ）」「規律（行動に責任を持つ）」「情操（心豊かな思いやり）」を学校教育目標とし、自ら学びよく考え、互いに鍛えあい、心優しい生徒を育成する。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 陸中海岸国立公園南端の海と緑の美しい景観に囲まれた地域である。宮城県沖を震源とする地震が想定され、7年前から防災教育を行う。「自助（自分を守る）」「公助（公的機関の活動を知る）」「共助（地域・公的機関と活動する）」を3年サイクルで行う。2008年に防災教育推進委員会を設立。地域と協力して実践し、防災教育関係の数々の賞を受賞する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 防災教育

●サブカテゴリー
自然・環境 交流活動

対象者 1～3年生

対象人数 149人

私たちは未来の防災戦士 ～持続可能な社会のために～



震災後の様子、成果と課題、防災教育の取り組みをまとめた

活動目的

災害発生時に中学生、地域の一人としての行動を「自助」「公助」「共助」の視点で考え、防災意識の波及、災害発生時の対応力養成、20年後防災教育を担う防災リーダー育成を目的とする。

活動概要

<3年サイクルの学習>

自 助：段ボールで自宅周辺のジオラマ作成、防災マップ作成

公 助：レスキュー隊訓練を見学、消火・救急・救助・防煙に分かれて体験活動

共 助：婦人防火クラブや地域住民と防災訓練

1年生：津波体験館で地震メカニズムを学習

2年生：日本赤十字社、消防署を講師に、応急手当・心配蘇生法・AED講習

3年生：非常食調理体験

<地域と総合防災訓練>

小学校高学年生と緊急地震速報による避難訓練。地域住民、公共機関と連携し救出、炊き出し、避難所活動等の防災訓練。軽可搬ポンプで放水訓練

<地震発生時の様子>

卒業式の練習中突然激しく揺れるが、生徒は訓練通りに行動し身の安全を確保。生徒数名の安否が確認できず、学校で一夜を過ごす。半数の生徒家屋が被災、学校には約2000名が避難、4つの行政地区が壊滅。この状況下には本校避難所では、本校卒業の高校生、大学生が率先して避難所運営を手伝う姿が見られる。

<第64回卒業式「卒業生代表のこたば」より>

苦境にあっても天を恨まず、運命に堪え、助け合って生きていくことがこれからの私たちの使命です。

みやぎ けん け せん ぬま し りつ こ いづみ ちゅう がっ こう
宮城県気仙沼市立小泉中学校



発表者名

こまつ あきら
小松 昭

役職
教諭

担当教科・学年
数学・2年生

交流会感想

ESDとして教育活動を展開してきた各校の事例発表を聴講したことは、自校のESD活動を振り返り、新たな切り口で教育活動を考える上で有効でした。また他校の体験活動を知る機会ともなり有意義でした。

学校情報

学校長	おの であ しやういち 小野寺 正一	全校生徒数	46人	教員数	11人
所在地	〒988-0333 <small>みやぎ けん け せん ぬま し もとよし ちやうひらが い</small> 宮城県気仙沼市本吉町平貝123				
TEL	0226-42-2619	FAX	0226-42-4344		
E-MAIL	koizumij@motoyoshi.ed.jp				
HP	—				

◆教育目標 学校教育目標は「心身ともに健康で豊かな情操と道徳性をもち、地域社会の発展に貢献できる創造性に富んだ人間の育成」であり、自ら求め、考え、表現し、実施する生徒、人の立場や意思を尊重でき、豊かな心を持つ生徒、心身ともにたくましい生徒を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 気仙沼市南部に位置し、豊かな自然環境に恵まれている。地域の教育への関心は高く、子どもの健全育成に熱心である。「1人暮らしをしているお年寄りとの会話」「幼稚園児との触れ合い」「小学6年生を対象にした中学校説明会」「スポーツ少年団の支援」などを企画・実践し地域の為に活動をする。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | 防災教育

●サブカテゴリー
自然・環境

対象者 2年生

対象人数 21人

地域づくり学習 ～問いと行動による中学生の社会参加～



津波の到達
地点に「ぐみ
の木」を植樹



生徒の司会による植樹活動の開会式

活動目的

地域づくりに関する具体的な問いに対する答えをえさせ、答えを確かめるために企画立案・実行し、成果と課題をまとめる。身近な生活や地域に目を向け現状を理解すると共に、その良さを高める方法や課題解決の方法を考え実践し、成果を振り返ることで自己の生き方を考えると共に進んで社会に参加する態度を育てる。

活動概要

「小泉地域には、必要な防災・安全への取り組みとして中学生に出来る活動を答えなさい」という「問い」に対して、下記を計画・実行。

<立案・企画>

「問い」に対し小グループで考え企画案を検討。個人で「問い」に対する答えと理由を考える。その後グループや学年で検討する。

<企画決定>

小グループで考えた企画を学年で検討する。2年生は東日本大震災では地域で協力して避難所生活を運営していたことから「人との関わり」が必要と考え、津波浸水域境界線での「植樹活動」を企画。地域への呼びかけ、植樹する苗木の調査に取り組む。

<準備・実施>

介護老人福祉施設「はまなすの丘」より費用の補助を受け、目白大学・大出英子先生を講師に植樹準備の指導を受ける。約50名の地域の協力で植樹活動を実施。

<検証・深化>実行した企画を振り返り、成果と課題をまとめる。

とう きょう と た ま し りつ れん こう じ しょう がっ こう

東京都多摩市立連光寺小学校



発表者名

まつ だ かず え
松田 一枝

役職

主任教諭・研究主任

担当教科・学年

6年生

交流会感想

気仙沼では幼稚園から高校までが地域と結びついた学習を10年近く行っており、学校の学習活動を中心とした地域づくりが「面」となり、ひとつの学校の「特色ある教育活動」にとどまらないESDとしての広がりを感じました、

学校情報

学校長 ふじい かよこ 藤井 香代子 | 全校生徒数 462人 | 教員数 21人

所在地 〒206-0021 とうきょうと たましれんこうじ 東京都多摩市連光寺3-64-1

TEL 042-373-1920 | FAX 042-337-7628

E-MAIL renkouji@educet01.plala.or.jp

HP <http://academic3.plala.or.jp/rensho/>

◆教育目標 子どもたちの「生きる力」を育むために「考えてやりぬく子（創意的・自主的・意欲的に学ぶ児童） 明るく思いやりのある子（多くの人と関わりを深め、相手の立場で行動できる明朗で心豊かな児童） たくましくじょうぶな子（心身ともに健康で、力いっぱい運動できる強い意思と体をもつ児童）」の教育目標を掲げる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 多摩川や広大な都立桜ヶ丘公園を代表する豊かな自然や歴史ある史跡に囲まれ、幼稚園、介護施設、寺社などの多様な施設が徒歩圏内に点在する地域である。地域環境を活用した体験活動を地域と連動して推進し、2010年度から多摩市環境教育実践モデル校に指定され、環境整備と共に環境教育に取り組む。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | ESD推進

● サブカテゴリー
自然・環境

対象者 1～6年生

対象人数 462人

校内研究で進めるESDの取り組み



教職員による授業研究



教職員による授業研究

活動目的

地域の自然・人・施設を生かした特色ある教育活動を行い、今後の持続発展にはESDの視点からの見直しが必要と考え、2010年度より校内研究としてESDに取り組む。児童の持続可能な未来をつくる力の育成を目的に、ESDの視点に立ち地域での学びを進める。

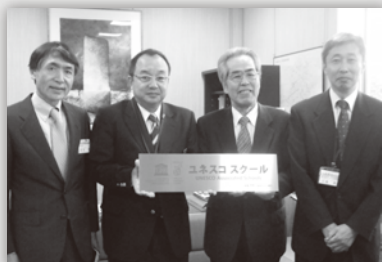
活動概要

連光寺小学校では10年以上実践を繰り返し作り上げてきた、地域の自然環境と歴史、住民等の「自然・人・社会と関わる」教育活動を柱に進めている。

「関わる力・課題を持つ力・課題を追究する力・表現する力・自分を見つめる力」を育成することを目指し、各学年が発達段階に応じて地域と関わり、体験を軸に問題解決的学習を通して学ぶ構成で取り組む。

研究を通して変化した事柄は、以下の三点である。①「ふるさとを学ぶ」学習から地域外の世界を意識する。「地域で学び、生かす」学習への変化 ②学校や学年の枠ではなく「卒業する時や将来に向けての姿」を意識した学習への変化 ③教科・人・態度・能力との繋がりを新たに意識した学習への変化。

た ま し きょう いく い いん かい
多摩市教育委員会



ユネスコスクールプレート贈呈式(左から2番目が清水教育長)

発表者名

しみず てつや
清水 哲也

役職
教育長

交流会感想

全国でユネスコスクールを推進する教育委員会の皆様と交流をもてました。また、東日本大震災における気仙沼の復興に向けたESDの取り組みや国内外でのネットワークの構築の様子を知ることができました。

所属先情報

教育長	しみず てつや 清水 哲也	職員数	100人
所在地	〒206-8666 とうきょうと たましせきど 東京都多摩市関戸6-12-1		
TEL	042-375-8111	FAX	042-337-7620
E-MAIL	—		
HP	http://www.city.tama.lg.jp/7491/index.html		

◆教育目標 「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズにESDを推進する。将来大人になるまでに地域環境や社会問題に多面的に応じる人材、地域文化を理解し未来に継承発展させる人材の育成は重要であり、学校教育で身に付けた知識を活用して実践・行動する力、多様な人と対話の中で未来を創造する力を育む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 全公立小・中学校がASPnet加盟を申請し、現在16校加盟で2011年度中に全校が指定予定である。年10回のESD研修会や保護者・地域住民と共同参加の「多摩みらい会議」を定期的で開催する。2011年11月には東京海洋大学にて第3回ユネスコスクール全国大会が開催され、本市小・中学校も事例発表を行う。国内・海外のASPnet加盟校との交流をASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)との協働で推進する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリー | ESD推進● サブカテゴリー
交流活動

対象者 多摩市立小・中学校全児童・生徒

対象人数 9,852人

多摩市のESD～2050年の大人づくり～



多摩市みらい
会議・ESDセ
ミナーにて



多摩市民団体によるポスターセッション

活動目的

「2050年大人づくり」を掲げ、ESD推進のため市内全校のESD導入とASPnet加盟を重要教育政策として取り組む。地球規模の様々な問題や地域での課題が山積する中で、地球的な視野で身近な暮らしを変え地域づくりに貢献する人材の育成を大切にする。

活動概要

<NPOとの連携>

2009年度よりESD研修事業に取り組み、NPO「持続可能な開発のための教育10年推進会議（ESD-J）」との連携を深める。環境・福祉・国際理解などの幅広い課題の現状を把握し子ども達と一緒に実践的に取り組むため、NGOの専門的な情報・経験と学校現場の教育力との協働により教育活動が進められるようにする。

<多摩市みらい会議・ESDセミナー開催>

「ESDセミナー2011」を開催し、地域の方・公立小中学校教員・インターネットで本会に関心を持った様々な方総勢121名が参加する。文部科学省国立教育政策研究所・五島政一博士による講話、「2050年大人づくり」への実現に向けてのディスカッション、多摩市市民団体によるポスターセッション、多摩市内の実践発表を行う。

<玉川大学ESDフォーラムに参加>

大学との連携として玉川大学ESDフォーラムに参加し、稲城市教育委員会と連携して分科会での事例提案を行う。

かな ざわ し きょう いく い いん かい

金沢市教育委員会



発表者名

さく だ よし た ろう
作田 芳太郎

役職

指導主事

交流会感想

気仙沼市、奈良市、多摩市、大牟田市、岡山市、愛知県などESDを推進する自治体の関係者とも交流を深めることができ、今後学校レベルでの交流を推進していく上でも大変貴重な機会となりました。

所属先情報

教育長	あさか くみこ 浅香 久美子	職員数	106人
所在地	〒920-8577 <small>いしかわけんかなざわ し ひろさか</small> 石川県金沢市広坂 1-1-1		
TEL	076-220-2449	FAX	076-223-4602
E-MAIL	gakkou_k@city.kanazawa.lg.jp		
HP	http://www.kanazawa-city.ed.jp/		

◆教育目標 「『世界都市金沢』小中一貫英語教育」「学習指導基準金沢スタンダード」「学校二期制」の3つの柱に2009年度から「金沢『絆』教育」を加えた「第2次学校教育金沢モデル」の実践に取り組む。人や自然・社会・世界との関わりを深め、自他共に認め合い命を大切にす豊かな心を育み、金沢に誇りをもつ児童生徒の育成を目指す。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 1995年に「金沢世界都市構想」を策定し、2009年に国から「歴史都市」第1号をユネスコより世界初「クラフト創造都市」の認定を受ける。2009年度より「金沢ユネスコスクール推進事業」を立ち上げ、教員の交流会議、「ユネスコスクールフォーラム in Kanazawa」等を開催する。「国連大学韓国教員招聘プログラム」(ACCU実施)等を受け入れる。現在市立小中学校36校が加盟、5校が申請中である。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
カテゴリ | ESD推進● サブカテゴリ
交流活動

対象者 金沢市立全小・中学校

対象人数 約36,000人

人と人のつながりから、 社会・自然・世界とのかかわりを深める



気仙沼市立津谷中・大谷中学生徒を迎えた金沢市「中学生会議」



市内中学校から集まった東日本大震災被災地への学用品送付のための仕分け・梱包作業

活動目的

金沢の豊かな個性を未来に伝えるため、知性・感性・個性を備えた優れた人材の育成。学校教育に自然・歴史・文化の学習機会を積極的に取り入れ、地域に貢献し世界に通じる人材の育成。多様性・持続性を兼ね備えた金沢に学び、新たな可能性を創造し世界へ発信する人材、持続可能な社会の担い手を育む教育の推進。

活動概要

① 金沢ユネスコスクール交流会議

金沢ユネスコスクール推進事業実施校を対象に年3回開催し、実践事例の発表・意見交換・宮城教育大学市瀬智紀教授を招いての講演会等を行う。

② ESD日米教員交流プログラム*

米国教員16名が金沢を訪れ、市内小中学校・各施設の見学、児童生徒・教員との意見交流を行う。

③ 東日本大震災被災地の子どもたちへ学用品を届ける…ユネスコスクール加盟校が市内の小中学校に呼びかけ、被災地の子どもたちへ学用品を届ける活動を行う。

④ 金沢市「中学生会議」

東日本大震災被災地である気仙沼市中学生からの報告をもとに、本市中学生が『絆』—今、私達が大切にしなければならないこと—をテーマに意見交換・協議を行う。

* フルブライト・ジャパン（日米教育委員会）が日米両国の共同出資により米国のInstitute of International EducationとACCUの協力で実施

あい ち けん きょう いく い いん かい そう む か きょう いく き かく しつ

愛知県教育委員会総務課教育企画室



発表者名

しま だ たか ひろ
島田 貴宏

役職

主査

交流会感想

ユネスコスクールのメリットで掲げているネットワークやつながりには、様々な学校との交流が必要だと思いました。今回の交流会で得たことを活かして、ユネスコスクールの加盟校増加、ESD教育の推進に取り組んでいきたい。

所属先情報

室長	あんどう あやこ 安藤 綾子	職員数	12人
所在地	〒460-8534 <small>あいちけん なごやしなかくさんのまる</small> 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2		
TEL	052-954-6827	FAX	052-961-3925
E-MAIL	kyoiku-somu@pref.aichi.lg.jp		
HP	http://www.pref.aichi.jp/		

◆教育目標 本県の教育振興基本計画である「あいちの教育に関するアクションプランII」を2011年に策定し、「幅広い県民の参加による道徳性・社会性の向上」「発達段階に応じたキャリア教育の充実」「学習意欲の向上と確かな学力の育成」「豊かな人生を送るための生涯学習の充実」の4つを重点目標に掲げ取り組んでいる。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 愛知万博COP10の開催を通じて環境に対する理解が深まり、環境に配慮した様々な活動が広がっている。また、中部ESD拠点での活動を始め、愛知県総合教育センターが研究事業に取り組んでいる。2011年には「ESDの10年・地球市民会議2011」を開催した。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | ESD推進

対象者 愛知県内の公立小・中学校、県立高等学校、県立特別支援学校

対象人数 約60万人

ESDの10年最終年会合の開催と ユネスコスクール加盟増加の取り組み



あま市立基目寺小学校(町たんけんて和菓子屋さんへ)



愛知県立豊田東高等学校(豊田東ふれ愛フェスタ)

活動目的

国連が定めた「持続可能な開発のための教育の10年」最終年にあたる2014年に、世界会議である最終年会合が愛知県・名古屋市で開催する。開催地に相応しい取り組みが必要であり、ユネスコスクール加盟校の増加に取り組む。

活動概要

2008年度から愛知県総合教育センターとEPO中部が連携して、ESDの視点を取り入れた授業展開の研究・実践を行った。2010年度からこれまでの研究成果を基に、県内4校を研究指定校として、学校レベルにおいて、ESDの視点を取り入れた生きる力をはぐむ実践カリキュラムの開発・研究を行っている。また、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教員を対象としたe-ラーニングを実施するなど、教員の資質向上にも取り組んでいる。2011年10月に、ユネスコスクールへの関心と加盟意欲の高揚を図るため、「ユネスコスクール研修会in愛知」を開催したところ、多くの参加者があるなど、ユネスコスクール加盟への関心が次第に高まってきている。今後も、ユネスコスクールの加盟増加に向けて取り組み、ESDの推進を図っていく。また、最終年会合を地域が一丸となって会議開催を実りあるものとするため、愛知県、名古屋市、経済界、教育関係者からなる「支援準備委員会」(事務局：環境部)を立ち上げたところであり、今後、県民へのESDについての理解の浸透と会合の開催機運の盛り上げを図っていく。

岡山市教育委員会事務局指導課



松岡 和俊氏



政久 秀生氏

発表者名

まつ おか かず とし まさ ひさ ひで お
松岡 和俊・政久 秀生

役職

指導副主査

交流会感想

危機対処力を育む地域と連携した防災教育や自然と共生する環境教育、国や地域を越えた学びの共有等、多くのことを学びました。気仙沼市立階上中学校卒業式の答辞の言葉には感動しました。

所属先情報

所属先長名	あまの かずひろ 天野 和弘	役職: 指導課長	職員数 31人
所在地	〒700-8544 おかやまけんおかやましきたくだいく 岡山県岡山市北区大供 1-1-1		
TEL	086-803-1591	FAX	086-803-1884
E-MAIL	-		
HP	http://www.city.okayama.jp/kyouiku/kyouikusoumuka/kyouikusoumuka_00065.html		

◆活動概要 ユネスコスクール推進事業を重点施策とし、岡山市内各校のESDの取り組み充実と発展を図る。岡山大学大学院教育学研究科の全面的支援と岡山ESD推進協議会との連携体制を整え、「岡山市ユネスコスクール推進校連絡研修会」開催と各校への指導・助言・実践支援、地域活動の財政支援などの事業に取り組む。

◆地域の特徴・これまでの活動実績 岡山市は近畿と九州、日本海と太平洋を繋ぐ東西南北の結節点に位置し、交通網が集中する中枢拠点機能を担う。水と緑あふれる豊かな自然環境と温暖で晴れ間が多く自然災害が少ない特性を持ち、「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」を目指す。国連ESD活動始動の2005年に、いち早く国連大学からESD地域拠点（RCE）の認定を受ける。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

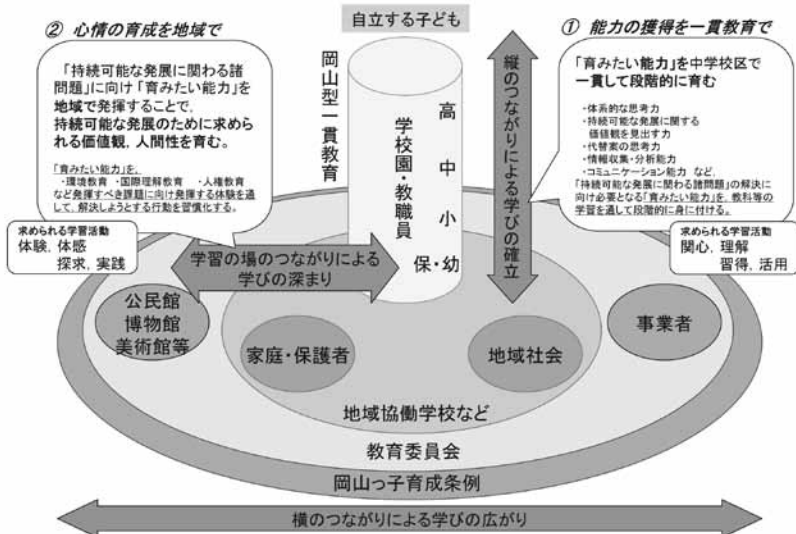
メイン | ESD推進
カテゴリ

対象者 岡山市立全小・中学校

対象人数 小 38,971人 中 18,781人

ユネスコスクール推進事業を通しての 岡山市の各校への支援

ESDと岡山市の教育との関係



活動目的

各校のESD推進拠点となるユネスコスクールの加盟を支援し、加盟校の実践例を全校に提供し市内各校のESDの取り組みの充実と発展を図る。これにより環境教育や国際理解教育、人権教育等の面から中学校区での一貫した教育や地域との協働実践を充実させ、自立する子どもの育成を図る。

活動概要

2011年度、岡山市では17校の小中学校がユネスコスクールへの加盟を申請。

岡山市では「岡山型一貫教育」と「岡山市地域協働学校」を推進する。

「岡山型一貫教育」は幼児教育から中等教育までの学校種間の不要な段差を取り除くことで、幼児・児童・生徒の教育活動に対する不適応な状態を軽減し、学びの連続性を意識し学力を伸ばしやすくすることを目的とする。

「岡山市地域協働学校」は中学校区をひとつの地域とみなし、学校・地域・家庭が各々の役割を果たしながら地域全体で子どもの豊かな学びと育ちを持続的に育むことを理念として運営する。

岡山市のユネスコスクール推進事業の特徴は、学校単体での申請ではなく「岡山型一貫教育」と「岡山市地域協働学校」等によって、ESDに必要な「育みたい能力」と「心情」、そして岡山市が目指す「自立する子ども」を育成することにある。

おおむたしきょういくいんかい

大牟田市教育委員会



発表者名

みやた ただお
宮田 忠雄

役職
教育長

交流会感想

自然の猛威と悲しみを乗り越え、復興に向かって行政と学校、子ども達、そして地域が心をつ一つにして推進していることに感銘を受けました。長年のESD活動の成果のひとつだと思います。

所属先情報

教育長	みやた ただお 宮田 忠雄	職員数	693人
所在地	〒836-8666 福岡県大牟田市有明町2-3		
TEL	0944-41-2860	FAX	0944-41-2862
E-MAIL	—		
HP	http://www.city.omuta.lg.jp/kyouiku/		

◆教育目標 「魅力ある住みよい地域づくりを担い社会の発展に貢献できる人づくり～まちづくりは人づくりから～」を基本理念に①次代を担う心豊かで思いやりのある健全な青少年の育成②確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく身に付けた児童生徒の育成③文化と伝統を尊重し、郷土を愛する市民の育成を目指す

◆地域の特徴・これまでの活動実績 明治期より「石炭関連産業」を基幹産業とするも、1997年に三池炭鉱が閉山。しかし石炭産業に関連する様々な交流・文化・自然が受け継がれ、インフラも整備される。高齢者や障がい者への福祉教育・小学校英語教育・国際理解教育・高等専門機関と連携した科学技術教育・電子黒板等の学校教育の情報化・産業遺産等の郷土教育に特色を持ち、校長会と連携しながら取り組みを推進する。

● ESD・ASPnet関連の連絡会議

● ESDカレンダーの作成

● 外部の協力

メイン
 カテゴリー | ESD推進

対象者 大牟田市立全小・中・特別支援学校

対象人数 9,000人

全ての市立学校で取り組む大牟田市のESD ～教育長の想い～



ASPUnivNet
 協力の下、震
 災の支援を行
 う



H22年度文部科学省ユネスコスクール研
 修会in大牟田にて

活動目的

基幹産業であった石炭関連産業の衰退で、人口減少・急激な高齢化・経済の停滞の問題を抱える。一方先人が築き受け継いできた様々な教育資源を有し、石炭関連遺跡群のユネスコ産業近代化世界遺産候補のリスト入りを果たす。地域環境を活かし子ども達が未来の大牟田に展望を抱き強く生き抜く力を育成していくためにESDを推進する。

活動概要

<ESD取り組みの経過>

- ① ESD及びユネスコスクール取り組みの契機として2009年青森県三沢市開催の全国都市教育長協議会にて「ESD及びユネスコスクールの推進」文部科学省説明会に参加。
 - ② 教育委員会の方針化と啓発及び研修等の推進
 - ③ 学校・教職員への啓発として2009年「ユネスコスクール全国大会」へ事務局職員と教職員を派遣、2010年「ユネスコスクール研修会in大牟田」開催。
 - ④ ESDの全体計画と年間指導計画の策定、市内全小中学校のユネスコスクール加盟申請
- ### <ESD取り組みの現状>

ESDカレンダーに基づく実践の取り組みと、教育研究所研究員によるモデル的研究の推進。ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）のコーディネートによる全市立学校児童生徒、保護者賛同の「震災被災地への文具・教材の物資支援」を実施。

[資料編]



ユネスコスクールとは

「戦争は人の心の中でうまれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

(ユネスコ憲章前文より)

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校です。世界180以上の国・地域で約9,000校以上のユネスコスクールがあります。(2011年6月現在)

●ユネスコスクールの活動目的

ユネスコスクールネットワークの活用による世界中の学校と生徒間、教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと

地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。

(『ユネスコスクールと持続発展教育 (ESD)』(2012年1月 日本ユネスコ国内委員会)より)

●ユネスコスクールに参加すると…

- ユネスコ本部（パリ）から認定証が送られてきます！
- 世界中の約9,000の参加校との交流機会が増加！
- ユネスコスクール（国内）公式ウェブサイトのログインID・パスワードが与えられ、情報発信が可能に！

このグローバルなネットワークへの参加に関心のある方は、ユネスコスクールウェブサイトにて詳細をご覧ください。

●ユネスコスクール公式ウェブサイト

- ユネスコスクール公式ウェブサイトでは、ESDに関するイベントや各校の実践、役に立つ教材、ユネスコスクールをサポートする団体・機関などの情報が得られます。
- ユネスコスクール参加校には、ログインID、パスワードが発行され、グループベースでユネスコスクールの活動などについての情報発信や交換を行うことができます。
- この冊子に掲載されている101の実践事例はこのウェブサイトのグッドプラクティスのページに紹介しています。また、英語版サイトにも日本のESD活動の好事例として紹介しています。

ユネスコスクール公式ウェブサイト（日本語） >> <http://www.unesco-school.jp/>

ユネスコスクール公式ウェブサイト（英語） >> 上記 URL からリンク

このサイトは本資料執筆時の表記による日本語/ユネスコパートナーシップ事業の一環としてACCUにより構築されています。

ユネスコスクールへようこそ!

ユネスコスクールはユネスコの理想を実現する学校です

2012年2月現在、日本国内では369校の幼稚園、小・中・高等学校及び教員養成学校がユネスコスクール(ASPnet Associated Schools Project Network)に参加しています。このサイトではユネスコスクールや持続発展教育(ESD)の実践報告等について紹介しています。ユネスコスクールに参加している学校同士が情報共有を行うこともできます。ログインIDをお持ちの方は、ページ上からログインしてください。

現在、ユネスコスクール・ネットワークへの新規参加校を随時募集しています。

ユネスコスクール TOPICS

2012年2月22日 ユネスコスクール・AUE・キックオフオンラインボジウム

豊田教育大学は2012年1月にユネスコスクール・大学間連携ネットワーク(ASPUnivNet)に参加いたしました。2月22日(水)、大学会館2階中ホールにてキックオフオンラインボジウムを開催いたしますので、ご関心のある方、ご来賓お待ちしております。詳しくはこちら (2月1日更新)

ユネスコスクール 年次報告書とアンケートにご提出ください(2月24日締切)

(ユネスコスクールのみ)

1月27日に日本ユネスコ国内委員会事務局よりメールで送らせていただきました。ユネスコスクール年次報告書とアンケートをご提出ください。締切の日は 2月24日(金)です。締切はここからダウンロードすることができます。ログインしてご確認ください。(2月10日更新)

2012年2月18日 奈良ASPネットワークESD教員研修会

奈良ASPでは、先生方のESD実践力の向上を目的に、下記の通り教員研修会を開催します。今回は豊富な実践経験をお持ちの先生を講師としてお招きしての、現場主義の研修会です。特に、若手教員のご参加を期待しております。ESDに関心のある方、授業力アップを目指されている方、ぜひご参加ください。詳細はこちら (2月10日更新)

2012年2月23-24日 筑波大学附属板戸高等学校 第156回総合学科研究大会

筑波大学附属板戸高等学校は、新しいキャリア教育と持続発展教育(ESD)を主題とし、第156回総合学科研究大会を開催します。同校の取り組みについて紹介すると同時に、ESD研究の第一人者である京都市大学(旧法政大学)大塚理博教授の佐藤真久准教授を講師として、勉強会を行う予定です。詳細はこちら (2月10日更新)

奈良からのESDテキスト『未来をこころBOOK』にて一校募集(3月12日締着締め切)

平成 23 年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」

ユネスコスクール地域交流会 in 金沢

プログラム

日時 2011 年 8 月 26 日(金) 13:00-17:30

会場 金沢ニューグランドホテル 4 階 金扇

12:30	受付
13:00	開会 柴尾 智子 財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 事業部次長
13:05-13:25	基調講演 井村 隆 文部科学省国際統括官付国際統括官補佐
13:25-14:10	全体会(事例発表) 杉山 麻子 村澤 弘子 金沢市立西小学校 横山 清一 気仙沼市立馬籠小学校
14:10-14:20	休憩・移動
14:20-16:15	3つの分科会(事例発表) 〈コーディネーター〉 鈴木 克徳 金沢大学 教授 池端 弘久 金沢市立小学校長会会長 金沢市立中央小学校校長 伊井 直比呂 大阪府立大学 准教授
16:15-16:20	休憩・移動
16:20-17:00	分科会の振り返り 〈コーディネーター〉 鈴木 克徳 金沢大学 教授
17:00	閉会

主催 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

共催 金沢大学

後援 石川県教育委員会、金沢市教育委員会、JICA 北陸

平成 23 年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」

ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼

プログラム

日時 2012 年 1 月 18 日(水) 9:30—16:30

会場 気仙沼ホテル観洋 4 階ベルサイユ

9:00	受付	
9:30	開会挨拶	
	柴尾 智子	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)事業部次長
	菅原 茂	気仙沼市長(代理 加藤慶太副市長)
9:40	基調講演	
	池原 充洋	文部科学省大臣官房国際課長
	パク・スンヒョン	(韓国 サンギル小学校 教諭)
	ジェームス J. パーリンジャー	(米国 カリスバーク中学校 校長)
		<コーディネーター>熊谷 聖 気仙沼市教育委員会 副参事
11:30	パネルディスカッション	
	白幡 勝美	気仙沼市教育委員会 教育長
	及川 幸彦	気仙沼市教育委員会 学校教育課 副参事兼指導主事
	ティム・ジョーンズ	米国 カリスバーク高等学校 元教諭(ダラス/FW 日米協会理事)
		<コーディネーター>伊東 毅浩 気仙沼市教育委員会 指導主事
12:30	昼食・移動	
13:30	3つの分科会(事例発表)	
		<コーディネーター>
	鵜川 義弘	宮城教育大学 環境教育実践研究センター長
	市瀬 智紀	宮城教育大学 国際理解教育研究センター 教授
	浅沼 宏	東北大学大学院 環境科学研究科 准教授
15:45	休憩・移動	
15:55	分科会の振り返り	
		<コーディネーター>小金澤 孝昭
		宮城教育大学教育学部 教授
		仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会 運営委員長
16:30	閉会挨拶	
	池原 充洋	文部科学省大臣官房国際課長
	白幡 勝美	気仙沼市教育委員会 教育長
		全体司会 中田 晃子 ACCU 事業部教育協力課

※プログラムの内容・スケジュールは、変更する可能性がございます。

主催	文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、気仙沼市教育委員会
共催	宮城教育大学、東北大学大学院環境科学研究科
後援	宮城県教育委員会、仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会、河北新報社、JICA 東北、ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学間ネットワーク)
協力	三陸新報社

持続発展教育(ESD)と ユネスコスクールの活用について

ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼
2012年1月18日



文部科学省
大臣官房国際課長 池原 充洋



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

持続発展教育 (ESD) について

Sustainable Development (持続可能な発展) とは…

「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうこと
なく、今日の世代のニーズを満たすこと」

※ 国連「環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)」
報告書『我ら共通の未来(Our Common Future)』(1987年)
における定義

持続発展教育(ESD) とは…

「持続可能な社会の担い手を育む教育」

⇒ 持続可能な社会を構築するための人づくり

2



持続発展教育 (ESD)について

国連持続可能な発展のための教育の10年

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案

- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 DESD最終年会合
 - ・ 日本(愛知県・名古屋市、岡山市)で開催予定

3

なぜ、ESDが必要なのか — 教育におけるESDの必要性 —

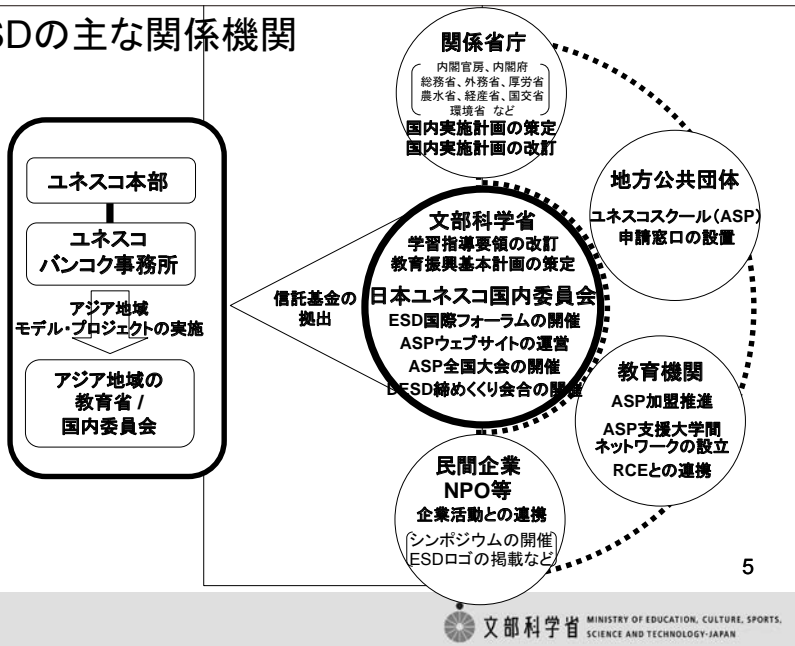
～ Education for Sustainable Development ～

【ESDの教育的意義】～体験とつながりの再構築

- 環境問題～温暖化, 酸性雨, 生態系危機の解決
- 国際理解～多文化理解, 国際協調, 平和の構築
- 学力問題から～生きる力, PISA型学力の育成
- 心の問題から～不登校, いじめ等の解決, 発達
- 社会問題から～社会秩序の回復と地域の再生

4

ESDの主な関係機関



ESDに関する我が国の取組

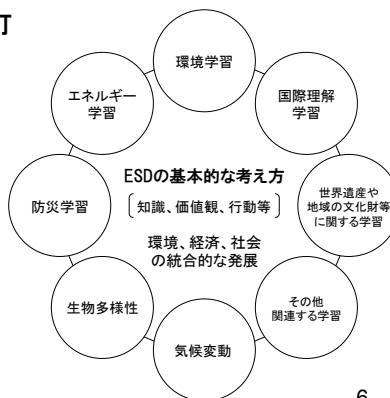
- 2005年 内閣官房に関係省庁連絡会議を設置
- 2006年 DESD国内実施計画を策定
- 2011年 DESD国内実施計画を改訂

基本的考え方(国内実施計画)

ESDは、持続可能な社会づくりの担い手となるよう個々人を育成する教育。

特に、

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。
- ・ 個々人が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。



ESDに関する文部科学省の取組（1/4）

日本ユネスコ国内委員会

- 2003年「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関してユネスコが策定する国際実施計画への提言
- 2007年「持続可能な開発のための教育の10年」の更なる推進に向けたユネスコへの提言
- → 同年第34回ユネスコ総会でESD推進のための決議へ
- 2008年 持続発展教育(ESD)の普及促進のためのユネスコスクール活用について(提言)

※ 2008年までESDは「持続可能な開発のための教育」と訳してきたが、より一層の普及のため、「持続可能な発展のための教育」と訳し、「持続発展教育」と略称することとした。

7

ESDに関する文部科学省の取組（2/4）

「持続発展教育(ESD)の普及促進のためのユネスコ スクール活用について(提言)」

- ◆ ユネスコスクール参加のメリット
 - ・ユネスコスクールへの支援の充実
 - ・事務局機能の強化による支援体制の充実
- ◆ わかりやすい登録システム
- ◆ 活動資金等の充実

8

ESDに関する文部科学省の取組(3/4) 学習指導要領の改訂(2008年3月公示)

- 中央教育審議会答申「学習指導要領等の改善について」
(2008年1月)
「持続可能な発展」、「持続可能な社会の構築」が求められている状況に鑑みた改善の実施
 - －教科等を横断して改善(環境教育、ものづくり教育)
 - －各教科・科目等の内容の改善(社会、地理歴史、公民、理科、技術・家庭)等
- 新学習指導要領(2008年3月、2009年3月)
小学校学習指導要領の総則や理科、社会、中学校学習指導要領の理科、公民、地理、高校学習指導要領の地理歴史、公民などに持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれている※

※ユネスコスクールHP参照(http://www.unesco-school.jp/?page_id=637)

9



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

ESDに関する文部科学省の取組(4/4)

教育振興基本計画の策定(2008年7月)

- 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策
いつでもどこでも学べる環境をつくる
持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進
 - ・ 一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について、広く啓発活動を行う・・・。
 - ・ 特に、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコスクール加盟校の増加を目指し、支援する。

10



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

◆参加資格

- ▶ 就学前教育、小学校、中学校、高等学校、技術学校、職業学校、教員養成学校、特別支援学校等（国公立を問わず）
- ▶ ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要

11

ユネスコスクールとESD

ESDのテーマ

- 環境学習
- 国際理解学習
- エネルギー学習
- 世界遺産・地域の文化財等に関する学習
- その他、持続可能な社会づくりのための担い手づくりのための学習

テーマが一致

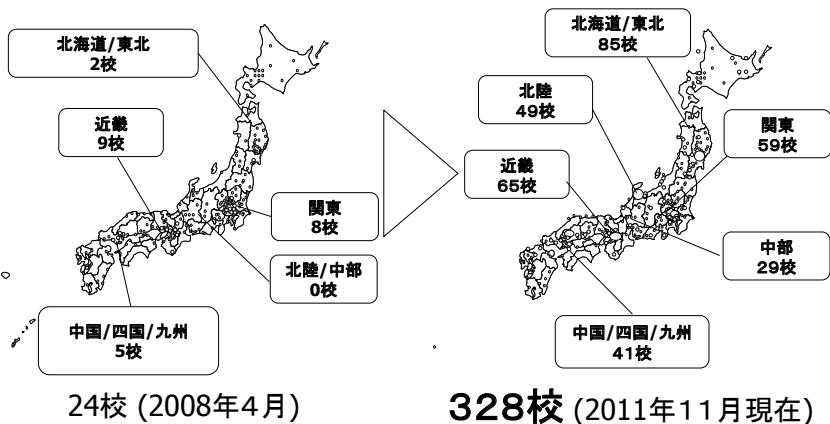
ユネスコスクールの研究テーマ

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 人権、民主主義の理解と促進
- 国際理解学習
- 環境学習
- その他、ユネスコの理念に沿ったテーマ

ユネスコスクールとESDの一体的推進

12

ユネスコスクール加盟校数の現況



ユネスコスクール加盟のメリット

- ▷ 世界のユネスコスクールの活動情報の提供
- ▷ 世界のユネスコスクールと交流する機会の増加
- ▷ 米国、韓国、中国等海外との教員交流
- ▷ 世界の教育事情、国連機関の活動の把握

国際交流の機会
の増大

- ▷ ESDのための教材、情報の提供
- ▷ ユネスコスクールHPを通じた情報交換
- ▷ ワークショップ、研修会への参加
- ▷ 国内の関係機関との連携強化

国内の連携強化

事業例：ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成金
日本ユネスコ・パートナーシップ事業
ESD日米教員交流プログラム

ユネスコスクールへの支援

ユネスコスクール ウェブサイトの設置

ユネスコスクール加盟校増加やネットワーク強化、ESDの理解増進を図ることを目的に、ウェブサイトを設置（平成21年3月～）

□ コンテンツ □

- ▷ ESDやユネスコスクールに関する基本情報の発信
- ▷ ユネスコスクール間の情報交換等の場の提供
- ▷ 優良事例や教材等の紹介

等



ユネスコスクールウェブサイト
<http://www.unesco-school.jp/>

15

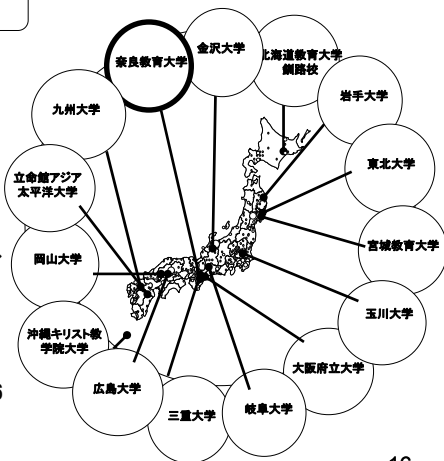


文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

ESD/ユネスコスクール支援体制の充実

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASP UnivNet)

- ▷ ユネスコスクールの活動支援等を目的とした大学間ネットワーク
- ▷ 宮城教育大学の呼びかけにより、2008年12月に発足
- ▷ 北海道教育大学釧路校、岩手大学、東北大学、宮城教育大学、玉川大学、金沢大学、岐阜大学、三重大学、大阪府立大学、奈良教育大学、広島大学、岡山大学、鳴門教育大学、九州大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄キリスト教大学院大学・短期大学の16大学が参加
- ▷ 今後、各大学が連携しつつユネスコスクールの活動支援を実施



16



文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

企業におけるユネスコスクールへの支援

▷ ユネスコスクールへのプレートの寄贈



ユネスコスクール加盟校に対してプレートを贈呈

▷ ESD関連の教材提供

環境教育用教材や国際理解教育用教材など様々な教材が企業により作成され学校に配布されている。



小学生向けに編集した環境教育用教材「kids X change」(キッズ・エクスチェンジ)

▷ ユネスコスクールへの支援事業

ユネスコスクールESDアシストプロジェクト助成金

助成の対象: 国内全てのユネスコスクール加盟校
助成金額: 1校あたり10万円を上限

<http://www.unesco.jp/contents/help/esd.html>

▷ ESDロゴマークのホームページなどへの掲載



ESDロゴマーク
(ESDにご賛同いただける企業が広告、冊子、パンフレット及びウェブページへの掲載をおこなっている。)

17

お問合せ先

文部科学省国際統括官付
(日本ユネスコ国内委員会事務局)

TEL: 03-5253-4111 (代表)

FAX: 03-6734-3679

E-mail: jpnatcom@mext.go.jp

URL: <http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

(参考) ユネスコスクールウェブサイト

<http://www.unesco-school.jp/>

18

平成23年度文部科学省「日本/ユネスコパートナーシップ事業」

ユネスコスクール地域交流会in金沢/気仙沼

参加（発表）報告書

提出日 年 月 日

1. 学校基本情報（所属先基本情報）

学校基本情報Ⅰ				
ふりがな				
住所	〒 - 都道府県			
連絡先	TEL	-	FAX	-
	E-MAIL		HP	
ふりがな			生徒数	教員数
学校名（所属先名）				
ふりがな				
学校長名（所属先長名）				
ユネスコスクール 加盟時期	年		月	
ふりがな				
発表者氏名				
役職		担当教科・学 年		
連絡先 （個人E-MAIL）				
学校基本情報Ⅱ				
【学校勤務の方】学 校の教育目標とその 説明 【学校以外に勤務の 方】 所属先の活動概要と その説明 （300字程度）				
地域の特徴とこれま での活動実績 （500字程度）				

2. 今回、交流会で発表される学校でのESD活動について下記にまとめてください。
 (交流会で発表される貴所属先でのESD活動、取り組みなどについて下記にまとめてください。)

活動 タイトル (30字以内)				
目的 (300字程度)				
対象学年・対象者		対象 人数		教科・ 課外活動
内容 (スペースは自由に 広げてください) (800字以上)				
<p>【貴校におけるユネスコスクール・ESD活動について教えてください。】(Oで囲む)</p> <p>*①学校内でESD、ユネスコスクール関連の連絡会議がありますか。 (はい・いいえ)</p> <p>*②ESDカレンダーを作成していますか。 (はい・いいえ)</p> <p>*③活動の実施に当たり、外部の方の協力を得ていますか。 (はい・いいえ)</p> <p>*④活動の結果、生徒の行動や思考に変化が生じていると感じますか。 (はい・いいえ)</p> <p>*⑤活動を通して先生ご自身が新たに気づいたことがありますか。 (はい・いいえ)</p> <p>⑥上記の活動を通して、発見したこと、生徒の感想や保護者、地域の方々の声、ご感想などを自由に書いてください。</p>				

*①～⑤について
 平成22年度文部科学省「日本/ユネスコパートナーシップ事業」学校&みんなのESDプロジェクト活動報告書『ひろがりつながるESD実践事例48』(P.159)をご参照ください。

3. コメント(交流会参加後、記入)

この地域交流会の参加を通して、先生が発見したこと、ご感想やご意見などを自由に書いてください。
 (500字以上)

幼稚園		
1	湖畔幼稚園	北海道 釧路市
2	清泉幼稚園	北海道 室蘭市
3	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県 気仙沼市
4	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県 奈良市
5	奈良市立六条幼稚園	奈良県 奈良市
6	鳳鳴乃里幼稚舎	佐賀県 佐賀市
小学校		
7	厚岸町立太田小学校	北海道 厚岸町
8	石狩市立生振小学校	北海道 石狩市
9	恵庭市立松恵小学校	北海道 恵庭市
10	江別市立対雁小学校	北海道 江別市
11	千歳市立緑小学校	北海道 千歳市
12	千歳市立末広小学校	北海道 千歳市
13	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道 釧路市
14	斜里町立峰浜小学校	北海道 斜里町
15	宮城教育大学附属小学校	宮城県 仙台市
16	仙台市立中野小学校	宮城県 仙台市
17	角田市立東根小学校	宮城県 角田市
18	気仙沼市立水梨小学校	宮城県 気仙沼市
19	気仙沼市立浦島小学校	宮城県 気仙沼市
20	気仙沼市立大島小学校	宮城県 気仙沼市
21	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県 気仙沼市
22	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県 気仙沼市
23	気仙沼市立新城小学校	宮城県 気仙沼市
24	気仙沼市立中井小学校	宮城県 気仙沼市
25	気仙沼市立白山小学校	宮城県 気仙沼市
26	気仙沼市立階上小学校	宮城県 気仙沼市
27	気仙沼市立松岩小学校	宮城県 気仙沼市
28	気仙沼市立月立小学校	宮城県 気仙沼市
29	気仙沼市立落合小学校	宮城県 気仙沼市
30	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県 気仙沼市
31	気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県 気仙沼市
32	気仙沼市立南気仙沼小学校	宮城県 気仙沼市
33	気仙沼市立九条小学校	宮城県 気仙沼市
34	気仙沼市立小原木小学校	宮城県 気仙沼市
35	気仙沼市立馬籠小学校	宮城県 気仙沼市
36	気仙沼市立津谷小学校	宮城県 気仙沼市
37	気仙沼市立大谷小学校	宮城県 気仙沼市
38	栗原市立高清水小学校	宮城県 栗原市
39	白石市立白石第二小学校	宮城県 白石市
40	白石市立白川小学校	宮城県 白石市
41	白石市立小原小学校	宮城県 白石市
42	富谷町立日吉台小学校	宮城県 富谷町
43	丸森町立金山小学校	宮城県 丸森町
44	新庄市立北辰小学校	山形県 新庄市
45	新庄市立新庄小学校	山形県 新庄市
46	新庄市立沼田小学校	山形県 新庄市

47	高崎市立六郷小学校	群馬県 高崎市
48	前橋市立大胡東小学校	群馬県 前橋市
49	熊谷市立久下小学校	埼玉県 熊谷市
50	熊谷市立佐谷田小学校	埼玉県 熊谷市
51	市川市立中山小学校	千葉県 市川市
52	市川市立稲越小学校	千葉県 市川市
53	市川市立鶴指小学校	千葉県 市川市
54	市川市立大野小学校	千葉県 市川市
55	葛飾区立青戸小学校	東京都 葛飾区
56	江東区立東雲小学校	東京都 江東区
57	江東区立八名川小学校	東京都 江東区
58	新宿区立西戸山小学校	東京都 新宿区
59	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都 練馬区
60	目黒区立五本木小学校	東京都 目黒区
61	小笠原村立小笠原小学校	東京都 小笠原村
62	小笠原村立母島小学校	東京都 小笠原村
63	多摩市立大松小学校	東京都 多摩市
64	多摩市立西落合小学校	東京都 多摩市
65	多摩市立貝取小学校	東京都 多摩市
66	多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都 多摩市
67	多摩市立北諏訪小学校	東京都 多摩市
68	多摩市立南鶴牧小学校	東京都 多摩市
69	多摩市立東寺方小学校	東京都 多摩市
70	多摩市立多摩第二小学校	東京都 多摩市
71	多摩市立多摩第三小学校	東京都 多摩市
72	多摩市立東愛宕小学校	東京都 多摩市
73	多摩市立連光寺小学校	東京都 多摩市
74	多摩市立大松台小学校	東京都 多摩市
75	調布市立布田小学校	東京都 調布市
76	横浜市立永田台小学校	神奈川県 横浜市
77	新潟市立下山小学校	新潟県 新潟市
78	新潟市立上山小学校	新潟県 新潟市
79	柏崎市立北鱒石小学校	新潟県 柏崎市
80	佐渡市立相川小学校	新潟県 佐渡市
81	十日町市立飛渡第一小学校	新潟県 十日町市
82	見附市立見附小学校	新潟県 見附市
83	見附市立田井小学校	新潟県 見附市
84	見附市立上北谷小学校	新潟県 見附市
85	見附市立見附第二小学校	新潟県 見附市
86	富山市立中央小学校	富山県 富山市
87	富山市立寒江小学校	富山県 富山市
88	富山市立五福小学校	富山県 富山市
89	氷見市立朝日丘小学校	富山県 氷見市
90	金沢市立浅野川小学校	石川県 金沢市
91	金沢市立朝日小学校	石川県 金沢市
92	金沢市立金石町小学校	石川県 金沢市
93	金沢市立材木町小学校	石川県 金沢市
94	金沢市立四十万小学校	石川県 金沢市

95	金沢市立田上小学校	石川県 金沢市
96	金沢市立戸板小学校	石川県 金沢市
97	金沢市立野町小学校	石川県 金沢市
98	金沢市立森山町小学校	石川県 金沢市
99	金沢市立弥生小学校	石川県 金沢市
100	金沢市立中央小学校	石川県 金沢市
101	金沢市立花園小学校	石川県 金沢市
102	金沢市立藪月小学校	石川県 金沢市
103	金沢市立三馬小学校	石川県 金沢市
104	金沢市立味噌蔵町小学校	石川県 金沢市
105	金沢市立三谷小学校	石川県 金沢市
106	金沢市立長坂台小学校	石川県 金沢市
107	金沢市立西小学校	石川県 金沢市
108	金沢市立大野町小学校	石川県 金沢市
109	金沢市立押野小学校	石川県 金沢市
110	金沢市立内川小学校	石川県 金沢市
111	金沢市立湯湧小学校	石川県 金沢市
112	金沢市立十一屋小学校	石川県 金沢市
113	金沢市立明成小学校	石川県 金沢市
114	金沢市立千坂小学校	石川県 金沢市
115	金沢市立夕日寺小学校	石川県 金沢市
116	金沢市立粟崎小学校	石川県 金沢市
117	金沢市立犀川小学校	石川県 金沢市
118	金沢市立南小立野小学校	石川県 金沢市
119	金沢市立伏見台小学校	石川県 金沢市
120	金沢市立扇台小学校	石川県 金沢市
121	内灘町立向栗崎小学校	石川県 内灘町
122	内灘町立清湖小学校	石川県 内灘町
123	内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県 内灘町
124	内灘町立大根布小学校	石川県 内灘町
125	内灘町立西荒屋小学校	石川県 内灘町
126	能美市立粟生小学校	石川県 能美市
127	坂井市立鳴鹿小学校	福井県 坂井市
128	南アルプス市立芦安小学校	山梨県 南アルプス市
129	岐阜市立島小学校	岐阜県 岐阜市
130	東浦町立緒川小学校	愛知県 東浦町
131	鈴鹿市立飯野小学校	三重県 鈴鹿市
132	鈴鹿市立神戸小学校	三重県 鈴鹿市
133	鈴鹿市立牧田小学校	三重県 鈴鹿市
134	京都市立上賀茂小学校	京都府 京都市
135	京都市立乾隆小学校	京都府 京都市
136	京都市立紫竹小学校	京都府 京都市
137	豊中市立上野小学校	大阪府 豊中市
138	豊中市立新田小学校	大阪府 豊中市
139	豊中市立桜井谷小学校	大阪府 豊中市
140	松原市立三宅小学校	大阪府 松原市
141	松原市立恵我南小学校	大阪府 松原市
142	奈良市立飛鳥小学校	奈良県 奈良市

143	奈良市立帯解小学校	奈良県 奈良市
144	奈良市立清美小学校	奈良県 奈良市
145	奈良市立佐保川小学校	奈良県 奈良市
146	奈良市立椿井小学校	奈良県 奈良市
147	奈良市立鳥見小学校	奈良県 奈良市
148	奈良市立二名小学校	奈良県 奈良市
149	奈良市立佐保小学校	奈良県 奈良市
150	奈良市立鼓阪小学校	奈良県 奈良市
151	奈良市立清美南小学校	奈良県 奈良市
152	奈良市立鶴舞小学校	奈良県 奈良市
153	奈良市立都跡小学校	奈良県 奈良市
154	橿原市立今井小学校	奈良県 橿原市
155	和歌山市立広瀬小学校	和歌山県 和歌山市
156	田辺市立三栖小学校	和歌山県 田辺市
157	矢掛町立三谷小学校	岡山県 矢掛町
158	矢掛町立中川小学校	岡山県 矢掛町
159	広島大学附属小学校	広島県 広島市
160	大竹市立栗谷小学校	広島県 大竹市
161	海田町立海田東小学校	広島県 海田町
162	北広島町立豊平東小学校	広島県 北広島町
163	北広島町立新任小学校	広島県 北広島町
164	福山市立内海小学校	広島県 福山市
165	福山市立駅家西小学校	広島県 福山市
166	松山市立新玉小学校	愛媛県 松山市
167	大牟田市立駿馬南小学校	福岡県 大牟田市
168	大牟田市立駿馬北小学校	福岡県 大牟田市
169	大牟田市立笹原小学校	福岡県 大牟田市
170	大牟田市立天道小学校	福岡県 大牟田市
171	大牟田市立玉川小学校	福岡県 大牟田市
172	大牟田市立上官小学校	福岡県 大牟田市
173	大牟田市立大正小学校	福岡県 大牟田市
174	大牟田市立中友小学校	福岡県 大牟田市
175	大牟田市立明治小学校	福岡県 大牟田市
176	大牟田市立白川小学校	福岡県 大牟田市
177	大牟田市立平原小学校	福岡県 大牟田市
178	大牟田市立高取小学校	福岡県 大牟田市
179	大牟田市立三池小学校	福岡県 大牟田市
180	大牟田市立銀水小学校	福岡県 大牟田市
181	大牟田市立上内小学校	福岡県 大牟田市
182	大牟田市立吉野小学校	福岡県 大牟田市
183	大牟田市立倉永小学校	福岡県 大牟田市
184	大牟田市立手鎌小学校	福岡県 大牟田市
185	大牟田市立大牟田小学校	福岡県 大牟田市
186	大牟田市立羽山台小学校	福岡県 大牟田市
187	大牟田市立みなと小学校	福岡県 大牟田市
188	大牟田市立天領小学校	福岡県 大牟田市
189	玄海町立有徳小学校	佐賀県 玄海町
190	玄海町立値賀小学校	佐賀県 玄海町

中学校		
191	札幌市立手稲西中学校	北海道 札幌市
192	北海道教育大学附属札幌中学校	北海道 札幌市
193	北広島市立西部中学校	北海道 北広島市
194	仙台市立南吉成中学校	宮城県 仙台市
195	岩沼市立岩沼中学校	宮城県 岩沼市
196	大河原町立金ヶ瀬中学校	宮城県 大河原町
197	角田市立角田中学校	宮城県 角田市
198	気仙沼市立面瀬中学校	宮城県 気仙沼市
199	気仙沼市立気仙沼中学校	宮城県 気仙沼市
200	気仙沼市立鹿折中学校	宮城県 気仙沼市
201	気仙沼市立階上中学校	宮城県 気仙沼市
202	気仙沼市立新月中学校	宮城県 気仙沼市
203	気仙沼市立唐桑中学校	宮城県 気仙沼市
204	気仙沼市立大島中学校	宮城県 気仙沼市
205	気仙沼市立条南中学校	宮城県 気仙沼市
206	気仙沼市立小原木中学校	宮城県 気仙沼市
207	気仙沼市立松岩中学校	宮城県 気仙沼市
208	気仙沼市立大谷中学校	宮城県 気仙沼市
209	気仙沼市立津谷中学校	宮城県 気仙沼市
210	白石市立小原中学校	宮城県 白石市
211	白石市立白川中学校	宮城県 白石市
212	白石市立東中学校	宮城県 白石市
213	白石市立南中学校	宮城県 白石市
214	丸森町立丸森東中学校	宮城県 丸森町
215	大仙市立大曲南中学校	秋田県 大仙市
216	新庄市新庄中学校	山形県 新庄市
217	宇都宮市立一条中学校	栃木県 宇都宮市
218	越谷市立富士中学校	埼玉県 越谷市
219	成田市立玉造中学校	千葉県 成田市
220	大田区立大森第六中学校	東京都 大田区
221	多摩市立東愛宕中学校	東京都 多摩市
222	多摩市立諏訪中学校	東京都 多摩市
223	多摩市立聖ヶ丘中学校	東京都 多摩市
224	多摩市立多摩中学校	東京都 多摩市
225	多摩市立和田中学校	東京都 多摩市
226	多摩市立青陵中学校	東京都 多摩市
227	新潟市立巻東中学校	新潟県 新潟市
228	新潟市立白新中学校	新潟県 新潟市
229	新潟市立横越中学校	新潟県 新潟市
230	新潟市立赤塚中学校	新潟県 新潟市
231	長岡市立南中学校	新潟県 長岡市
232	新潟大学教育学部附属長岡中学校	新潟県 長岡市
233	南魚沼市立大巻中学校	新潟県 南魚沼市
234	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県 富山市
235	金沢市立紫錦台中学校	石川県 金沢市
236	金沢市立泉中学校	石川県 金沢市
237	金沢市立芝原中学校	石川県 金沢市
238	金沢市立内川中学校	石川県 金沢市
239	金沢市立小將町中学校	石川県 金沢市
240	内灘町立内灘中学校	石川県 内灘町
241	七尾市立能登島中学校	石川県 七尾市
242	七尾市立朝日中学校	石川県 七尾市
243	南アルプス市立芦安中学校	山梨県 南アルプス市
244	信州大学教育学部附属松本中学校	長野県 松本市
245	伊豆市立天城中学校	静岡県 伊豆市
246	静岡大学教育学部附属島田中学校	静岡県 島田市
247	鈴鹿市立神戸中学校	三重県 鈴鹿市
248	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	三重県 鈴鹿市
249	東近江市立五個荘中学校	滋賀県 東近江市
250	豊中市立第十一中学校	大阪府 豊中市
251	寝屋川市立寝屋川第十中学校	大阪府 寝屋川市
252	松原市立松原第七中学校	大阪府 松原市
253	奈良教育大学附属中学校	奈良県 奈良市
254	奈良市立興東中学校	奈良県 奈良市
255	奈良市立月ヶ瀬中学校	奈良県 奈良市
256	奈良市立三笠中学校	奈良県 奈良市
257	奈良市立柳生中学校	奈良県 奈良市
258	奈良市立平城西中学校	奈良県 奈良市
259	奈良市立二名中学校	奈良県 奈良市
260	奈良市立都南中学校	奈良県 奈良市
261	奈良市立京西中学校	奈良県 奈良市
262	奈良市立富雄中学校	奈良県 奈良市
263	橿原市立欽徳中学校	奈良県 橿原市
264	和歌山市立伏虎中学校	和歌山県 和歌山市
265	大竹市立栗谷中学校	広島県 大竹市
266	山陽女学園中等部	広島県 廿日市市
267	如水館中学校	広島県 三原市
268	周南市立大華中学校	山口県 周南市
269	防府市立佐波中学校	山口県 防府市
270	大牟田市立船津中学校	福岡県 大牟田市
271	大牟田市立右京中学校	福岡県 大牟田市
272	大牟田市立米生中学校	福岡県 大牟田市
273	大牟田市立勝立中学校	福岡県 大牟田市
274	大牟田市立延命中学校	福岡県 大牟田市
275	大牟田市立松原中学校	福岡県 大牟田市
276	大牟田市立白光中学校	福岡県 大牟田市
277	大牟田市立歴木中学校	福岡県 大牟田市
278	大牟田市立田隈中学校	福岡県 大牟田市
279	大牟田市立橋中学校	福岡県 大牟田市
280	大牟田市立甘木中学校	福岡県 大牟田市
中高一貫校		
281	北海道登別明日中等教育学校	北海道 登別市
282	宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県 仙台市
283	仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県 多賀城市
284	茨城県立並木中等教育学校	茨城県 つくば市

285	渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県 千葉市
286	雙葉中学校・高等学校	東京都 千代田区
287	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都 練馬区
288	武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都 西東京市
289	新潟県立燕中等教育学校	新潟県 燕市
290	星陵中学校・高等学校	静岡県 富士宮市
291	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県 名古屋市
292	浪速中学校・高等学校	大阪府 大阪市
293	大阪学芸中等教育学校	大阪府 大阪市
294	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県 奈良市
295	広島県立広島中学・高等学校	広島県 東広島市
高等学校		
296	市立札幌大通高等学校	北海道 札幌市
297	北海道遠軽高等学校	北海道 遠軽町
298	北海道清里高等学校	北海道 清里町
299	北海道斜里高等学校	北海道 斜里町
300	海星学院高等学校	北海道 室蘭市
301	北海道礼文高等学校	北海道 礼文町
302	盛岡中央高等学校	岩手県 盛岡市
303	宮城県気仙沼高等学校	宮城県 気仙沼市
304	宮城県気仙沼西高等学校	宮城県 気仙沼市
305	秋田市立秋田商業高等学校	秋田県 秋田市
306	明校高等学校	秋田県 秋田市
307	国際学院高等学校	埼玉県 伊奈町
308	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県 坂戸市
309	千葉県立市川昂高等学校	千葉県 市川市
310	市原中央高等学校	千葉県 市原市
311	千葉県立佐倉南高等学校	千葉県 佐倉市
312	渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都 渋谷区
313	筑波大学附属駒場高等学校	東京都 世田谷区
314	東京都立三田高等学校	東京都 港区
315	八王子高等学校	東京都 八王子市
316	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県 海老名市
317	新潟県立国際情報高等学校	新潟県 南魚沼市
318	中部大学第一高等学校	愛知県 日進市
319	大阪府立北淀高等学校	大阪府 大阪市
320	大阪府立住吉高等学校	大阪府 大阪市
321	明浄学院高等学校	大阪府 大阪市
322	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府 池田市
323	大阪府立佐野高等学校	大阪府 泉佐野市
324	大阪府立長野高等学校	大阪府 河内長野市
325	羽衣学園高等学校	大阪府 高石市
326	大阪府立能勢高等学校	大阪府 能勢町
327	大阪府立枚方高等学校	大阪府 枚方市
328	大阪府立松原高等学校	大阪府 松原市
329	神戸市立葺合高等学校	兵庫県 神戸市
330	奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県 斑鳩町
331	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県 串本町

332	島根県立島根中央高等学校	島根県 川本町
333	岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県 岡山市
334	岡山学芸館高等学校	岡山県 岡山市
335	岡山龍谷高等学校	岡山県 笠岡市
336	岡山県立矢掛高等学校	岡山県 矢掛町
337	岡山県立和気閑谷高等学校	岡山県 和気町
338	広島大学附属高等学校	広島県 広島市
339	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県 広島市
340	広島県立広島井口高等学校	広島県 広島市
341	山陽高等学校	広島県 広島市
342	広島県立尾道北高等学校	広島県 尾道市
343	広島県立呉三津田高等学校	広島県 呉市
344	山陽女子学園高等部	広島県 廿日市市
345	広島県立福山誠之館高等学校	広島県 福山市
346	広島県立安芸府中高等学校	広島県 府中町
347	如水館高等学校	広島県 三原市
348	広島県立三次高等学校	広島県 三次市
349	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県 新居浜市
350	福岡県立城南高等学校	福岡県 福岡市
351	福岡県立ひびき高等学校	福岡県 北九州市
352	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県 筑紫野市
大学		
353	国立大学法人宮城教育大学	宮城県 仙台市
354	玉川大学(教育学部)	東京都 町田市
355	国立大学法人三重大学	三重県 津市
356	国立大学法人奈良教育大学	奈良県 奈良市
高等専門学校		
357	国立石川工業高等専門学校	石川県 津幡町
養護学校		
358	見附市立見附特別支援学校	新潟県 見附市
359	大牟田市立大牟田特別支援学校	福岡県 大牟田市
その他		
360	練馬和光保育園	東京都 練馬区
361	釧路市立山花小中学校	北海道 釧路市
362	標茶町立中茶安別小中学校	北海道 標茶町
363	斜里町立ウトロ小中学校	北海道 斜里町
364	聖ウルスラ学院英智小中学校	宮城県 仙台市
365	東京都足立区興本扇学園	東京都 足立区
366	奈良市田原小中学校	奈良県 奈良市
367	東京賢治シュタイナー学園	東京都 立川市
368	横浜シュタイナー学園	神奈川県 横浜市
369	京田辺シュタイナー学校	京都府 京田辺市

写真提供

- 池田 満之 岡山ユネスコ協会理事／ESD-J副代表理事／岡山市京山地区ESD推進協議会会長
P.14 (全体写真、開会の挨拶)、P.13 (全体会、基調講演、分科会左上)、P.16、P.18、
P.22、P.28、P.36、P.52、P.56、P.68、P.70、P.90、P.94、P.98、P.234

- 三陸新報社
P.108 (全体写真)、P.109 (基調講演)

- 文部科学省
P.101、P.108 (開会挨拶、基調講演)、
P.109 (パネルディスカッション、閉会挨拶、分科会1・2・3)、P.114、P.118

本冊子の学校情報・所属先情報、役職は発表時のものです。

学校 & みんなのESDプロジェクト

ひろがりつながる

ESD実践事例 101

平成23年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」
ユネスコスクール地域交流会 in 金沢・気仙沼 活動報告書

発行日 2012年3月15日

発行 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館内
TEL : 03-3269-4435 FAX : 03-3269-4510
URL <http://www.accu.or.jp/>
ユネスコスクール公式ウェブサイト <http://www.unesco-school.jp/>
E-Mail : esd@accu.or.jp

デザイン・印刷・製本 株式会社 トライ

Education for
Sustainable
Development

